倉敷埋蔵文化財センター年報 8

ー平成12(2000)年度ー

倉敷埋蔵文化財センター

2002.3

序

倉敷埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財行政における拠点施設として平成５年に開館し、今年で９年目を迎えました。この間、市内各地において発掘調査を実施するとともに、各種講座や企画展・講演会など、埋蔵文化財に関する普及啓発活動にも積極的に取り組んでまいりました。

長引く不況のため近年小規模な開発が増加する中、平成12年度は２件の全面調査と８件の確認調査を実施しました。この内、道路建設に伴う上東遺跡の発掘調査では、弥生時代中期から後期にかけての貯蔵穴が４基確認され、当時の人々の生活の一端が明らかになりました。

普及啓発事業としては、前年度とほぼ同程度の講座等を行ったほか、年度末には隔年開催である企画展を実施しました。「縄文時代の人とくらし」と題した今回の企画展では、短い会期にもかかわらず二千人を越える入館者を数え、また、関連行事である講演会や講座にも多数の参加者を得るなど、好評のうちに終えることができました。

21世紀を迎える今、埋蔵文化財行政は大きな曲がり角にさしかかりつつあります。開発に伴う発掘調査一辺倒であった時代は終わり、これからは、それらによって得られた膨大な情報をいかに市民に還元し活用していくかが、真に問われる時代となるでしょう。新世紀に向け、こうした多様化する市民の期待やニーズに応えられるよう、今後とも努力してまいりたいと存じます。

本年報は、平成12年度に実施した発掘調査事業並びに普及啓発事業の概要をまとめたものです。郷土の歴史や埋蔵文化財に対する理解を深め、また、埋蔵文化財保護行政の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、事業の実施にあたり、ご支援ご協力を賜りました関係の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成14年３月20日

倉敷埋蔵文化財センター
館長　松浦憙弘

例　言

1. 本書は、倉敷埋蔵文化財センターが平成12(2000)年度に行った、埋蔵文化財保護行政の概要についてまとめたものである。
2. 発掘調査は、倉敷埋蔵文化財センター主任鍵谷守秀・同学芸員小野雅明・藤原好二・中野倫太郎が担当した。
3. 調査事業報告において、調査報告としているものについては本報告をもって正報告とする。
4. 本書の執筆は各担当者が分担して行い、調査事業報告についてはそれぞれ文責を記した。全体編集は藤原が行った。
5. 出土遺物の整理は倉敷埋蔵文化財センターで行い、整理にあたっては、大江久仁子・金谷奈奈・石井恵子の協力を得た。
6. 調査地位置図で使用した地形図は、倉敷市発行の50,000分の1の都市計画図を縮小したものであり、その他の位置図に使用したのは、倉敷市発行の都市計画図を複製または縮小したものである。
7. 本書に関する実測図・写真・遺物等は、全て倉敷埋蔵文化財センターで保管している。

目　次

Ⅰ 組　織 …… 1

Ⅱ 事業の概要 …… 2

Ⅲ 普及・啓発事業報告 …… 4

1．企画展「縄文時代の人とくらし」 …… 4

2．企画展関連行事 …… 4

3．一般講座 …… 6

4．ライフパークの集い …… 8

Ⅳ 調査事業報告 …… 10

釜島西丘上遺跡確認調査報告 …… 13

上東遺跡(上東 103 号線)確認調査報告 …… 17

上東遺跡(上東浦線)確認調査報告 …… 18

北面丸山貝塚第 8 群立会調査報告 …… 19

白銀山遺跡確認調査報告 …… 20

塩生遺跡確認調査報告 …… 21

上東遺跡(レストラン増築)確認調査報告 …… 22

上東遺跡(下庄 1 号線)発掘調査概要 …… 24

上東遺跡(上東 11 号線)発掘調査概要 …… 25

Ⅴ 寄贈図書一覧 …… 27

附編 1

山本慶一氏寄贈の資料Ⅱ …… 39

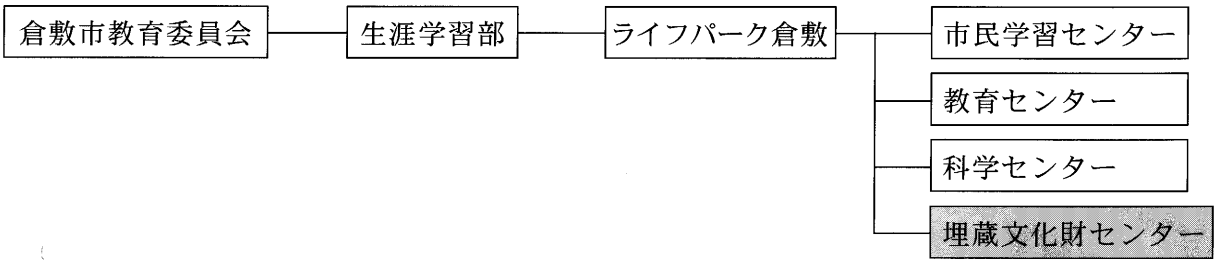
附編 2

岡山県倉敷市下津井城跡・破城時に廃棄された動物遺存体 …… 53

Ⅰ 組　織

埋蔵文化財センターは、生涯学習施設であるライフパーク倉敷の中の一施設として、市域内の埋蔵文化財に係る業務を一括して担当している。2000年度における埋蔵文化財センターの組織及び人員は下記のとおりとなっている。

倉敷埋蔵文化財センター機構図



ライフパーク倉敷	所長	藤井　淳平	
埋蔵文化財センター	館長	武田　俊宏	
〃	主　任	福本　　明	（岡山県へ研修）
〃	〃	鍵谷　守秀	（科学センター学芸員兼務）
〃	学芸員	小野　雅明	
〃	〃	藤原　好二	
〃	〃	中野　倫太郎	
〃	〃	片岡　弘至	（文化財保護課学芸員兼務）
〃	臨時職員	大江　久仁子	
〃	〃	洲脇　奈奈	
〃	〃	石井　恵子	

（職名等は 2001 年 3 月 31 日現在）

平成 12 年度　埋蔵文化財センター運営協議会

会　長	間壁　忠彦	（学識経験者）
副会長	河本　　清	（　〃　）
委　員	吉田　弘匡	（小学校校長会代表）
〃	北村　精三	（中学校校長会代表）
〃	萩原　一之	（高等学校校長会代表）
〃	古谷野寿郎	（学識経験者）
〃	池田三重子	（　〃　）
〃	宮口　公子	（　〃　）

Ⅱ 事業の概要

1. 埋蔵文化財センター運営協議会

(1) 協議会　平成12年6月14日(火)　会場：ライフパーク倉敷「第3会議室」

議　事　1. 平成11年度埋蔵文化財センター関係事業報告について

2. 平成12年度埋蔵文化財センター関係事業計画について

3. その他

2. 調査事業

(1) 発掘調査　今年度は全面発掘調査2件、確認調査8件、立会調査20件を実施した。また、開発面積が1,000㎡を越える事業についての事前協議は84件でほぼ前年度並みとなっている。

(2) 分布調査　遺跡地図作製に伴い児島地区の補足調査を実施した。また、今年度から倉敷地区の踏査を開始し、遺跡の台帳をパソコンに入力。

3. 普及・啓発事業

(1) 企画展・講座

タイトル	開　催　日	回数	延べ人数
春の遺跡見学会⑤	00.5.13	1回	21人
夏休み親子考古学教室	00.8.3	1回	37人
7世紀の古代史	00.11.5・11.12・11.19	3回	71人
瀬戸内縄文人のくらし	01.2.18	1回	45人
縄文時代のアクセサリーを作ろう	01.2.25	1回	29人
企画展「縄文時代の人とくらし」	01.1.23～01.3.18	－	2,030人

(2) 出前講座等講師派遣

派遣内容	依頼団体	開催日	人数
校外授業・遺跡見学	菅生小学校	00.4.19	107人
古代の土笛作り	玉島児童館	00.4.23	32人
古代の土笛作り	本荘小学校	00.5.10	41人
出前授業・学区内遺跡紹介	第二福田小学校	00.5.7	102人
古代の土笛作り	琴浦東小学校	00.6.4	56人
遺跡解説・寒田窯跡群4号	考古学研究会	00.6.10	75人
古代の土笛作り	水島児童館	00.6.24	15人
古代の土笛作り	倉敷公民館	00.6.28	55人
古代の土笛作り	郷内児童クラブ	00.8.30	30人
古代の土笛作り	倉敷北児童センター	00.9.9	20人
土器炊飯	豊洲小学校	00.9.29	50人
出前講座・庄地区の遺跡	庄の文化財を考える会	00.10.15	40人
郷土史講座・吉備路めぐり	多津美公民館	00.11.16	44人

(3) 報告書等の刊行

板谷コレクション図録(本文編)

B4版　本文20P　300部　2000年8月刊行

倉敷埋蔵文化財センター年報7　－1999年度－

A4版　本文40P　700部　2000年11月刊行

倉敷市遺跡地図(児島地区)

A2版　本文40P　100部　2001年3月刊行

(4) 貸出資料

年月日	貸出先	資料名		点数
平成13年 1月26日	安城市歴史博物館	矢部遺跡	龍形土製品	1点
1月31日	吉備人出版	秦原廃寺	軒丸瓦 ﾎﾟｼﾞﾌｨﾙﾑ	1点
2月 6日	岡山県立吉備路郷土館	秦原廃寺	軒丸瓦 ﾓﾉｸﾛﾌﾟﾘﾝﾄ	1点
2月15日	新倉敷駅周辺開発事務所 工務課	楯築遺跡	ﾎﾟｼﾞﾌｨﾙﾑ	1点

4. 利用者数

展示・講座等を含めた今年度の利用者数は下表のとおりである。開館日数293日に対し入館者数は12,949人で、1日平均44.2人が利用していることになる。総利用者数は昨年並みが維持された。減少傾向にある入館者数に対し、企画展などの開催によってかろうじて利用者をつなぎ止めた形となった。

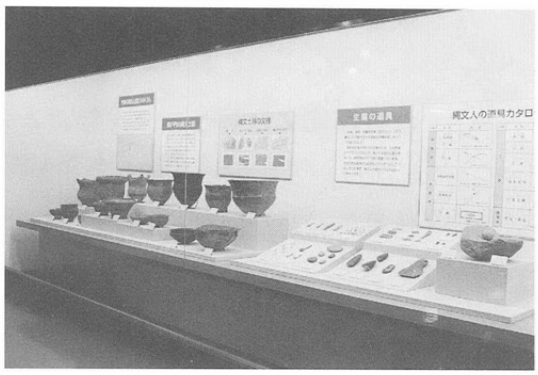
【平成12年度利用者集計表】

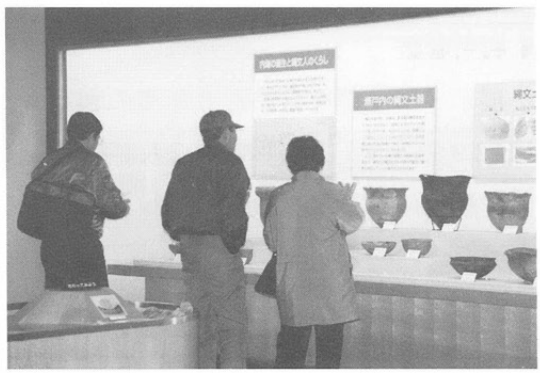
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開館日数		25	24	26	25	27	24	25	24	22	22	23	26	293(日)
入館者数	一般	363	508	562	488	1,263	472	518	442	166	389	728	576	6,475(人)
	児童	603	1,130	1,076	599	1,426	292	243	232	77	143	349	304	6,474(人)
	合計	966	1,638	1,638	1,087	2,689	764	761	674	243	532	1,077	880	12,949(人)

Ⅲ 普及・啓発事業報告

1．企画展「縄文時代の人とくらし」

会　　期　平成13年1月23日(火)～3月18日(日)
会　　場　埋蔵文化財センター「展示室」
対　　象　一般
入 場 者　2,030人





今回の企画展では、縄文時代の人々の暮らしをテーマに、岡山県内から出土した縄文時代の遺物や遺構写真などの展示解説を行った。

ここ数年、青森県三内丸山遺跡の発掘調査などを契機として、縄文時代への関心が全国的に高まってきている。倉敷市とその周辺は、西日本でも有数の縄文時代遺跡の密集地帯として知られており、特に縄文貝塚は古くから調査が進められてきた。そして近年、岡山市朝寝鼻貝塚や総社市南溝手遺跡などの発掘調査により、これまでの縄文時代観を見直すような考古学的知見が加わっている。このような情勢を踏まえ、今回の展示では、「瀬戸内の縄文土器」・「生業の道具」・「装い・呪術の道具」・「縄文人の食料」などのコーナーを設けてわかりやすく解説した。展示品は全て縄文人の生活に深くかかわった重要な資料であり、来館者の興味を引くものであった。

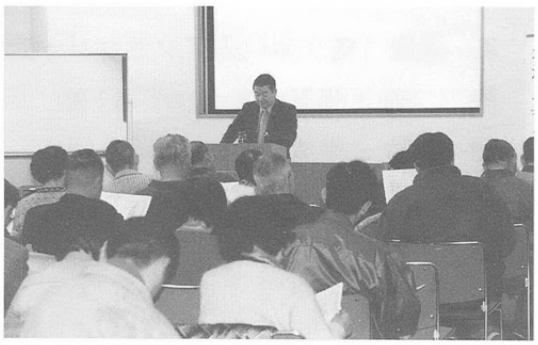
2．企画展関連行事

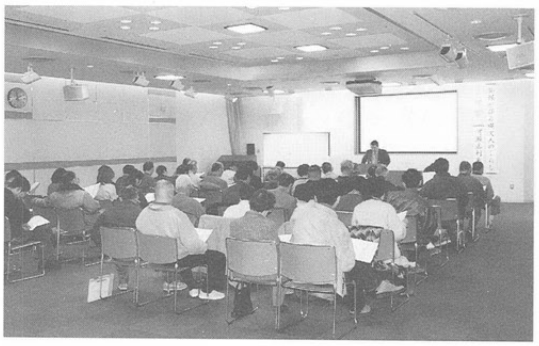
1）講演会「発掘が語る縄文人のくらし」

講　　師　河瀬正利（広島大学）
日　　時　平成13年1月28日(日)
会　　場　ライフパーク倉敷「中ホール」
対　　象　一般
入 場 者　50人

今回の企画展のテーマである縄文人の暮らしについて、広島大学の河瀬正利氏に講演をいただいた。は

じめに、縄文時代とはどのような時代であったのか、北の三内丸山遺跡と南の鹿児島県上野原遺跡をとりあげ、新たな発見によって時代観が大きく変わっている現状を解説された。また、岡山市朝寝鼻貝塚などで縄文前期の地層からイネのプラント・オパールが検出されたことについて、おそらく、イネ（米）は稲作が定着するずっと以前から日本に入ってはいたが、土地に根づくことなく栽培が途絶え、また新たに栽培を試みては途絶えを繰り返した時期があったのかもしれないとの見解を興味深くお聞きした。そして、ご自身の研究フィールドである広島県帝釈峡遺跡群と瀬戸内沿岸に立地する遺跡を対比させ、縄文人の活動を浮き彫りにした。講演のあと、講師と聴講者との質疑応答が時間の都合で設けられなかったのが残念であった。

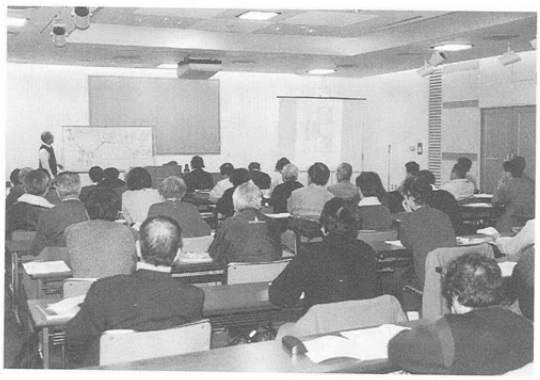


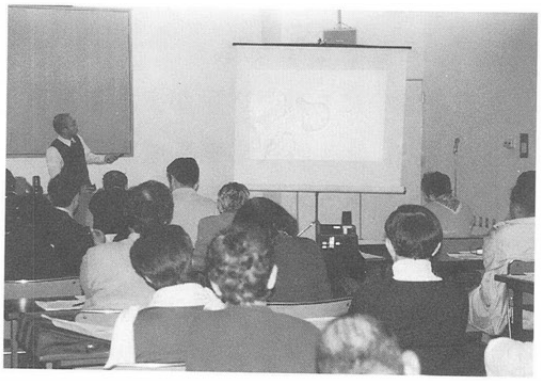


2）講座「瀬戸内縄文人のくらし」

講　　師　富岡直人（岡山理科大学）
日　　時　平成13年2月18日(日)
会　　場　ライフパーク倉敷「中ホール」
対　　象　一般
受 講 者　45人

瀬戸内地方の縄文人の暮らしについて岡山理科大学の富岡直人氏に講演をいただいた。まず、生活の舞台である瀬戸内海の成り立ちとその環境の説明を行い、東日本と比べて縄文遺跡の密度が低い西日本の中で、瀬戸内地方は縄文遺跡の数が比較的多い地域であることが示された。縄文前期の地層からイネの痕跡が発見された問題では、この時期の農耕の実証的研究は様々な科学を取り入れた多角的な研究が必要であると説いた。また、縄文人の食生活に関して、笠岡市津雲貝塚人は海産の魚介類への依存度が高く、植物や草食動物の摂取が少ないことが出土人骨の分析により判明したが、食事情は瀬戸内のなかでも地域的バリエーションがある可能性を指摘した。講演後も講師と聴講者との間で質疑応答が続いた。





3）講座「縄文時代のアクセサリーを作ろう」

講　　師　猪原千恵（吉備路郷土館）
日　　時　平成13年2月25日(日)
会　　場　埋蔵文化財センター「遺物整理室」
対　　象　一般
受 講 者　29人

この講座では「けつ状耳飾り」を作成した。薄く磨いた石の板に切り込みを入れた縄文時代の耳飾りだ。

講師の先生から縄文時代のアクセサリーについてレクチャーを受けた後、実際に作業を開始した。

石材は雅印の材料として市販されている滑石を使った。あらかじめ適当な厚さに切り分けておいた石を、コンクリートブロックの表面で研磨し整形する。舞錐などで穴を開け、サンドペーパーで仕上げる。

簡単な作業だが、割れたり、思った通りの形にならなかったりで、受講生はみんな熱心に石を磨いていた。

3. 一般講座

1）春の遺跡見学会⑤
～王墓の丘史跡公園～

講　　師　藤原好二（倉敷埋蔵文化財センター）
日　　時　平成12年5月13日(土)
対　　象　一般
参 加 者　21人

「王墓の丘史跡公園」はすでに第1回目の春の遺跡見学会で訪ねた場所であるが、その後もアンケートなどを通じて案内してほしいとの要望が多かったため、再び訪問する運びとなった。

当日は幸いにも前日の雨が上がり薄曇りの中の見学会となった。弥生時代の楯築遺跡では巨大な立石に目を奪われ、弧帯文石の文様に古代の人々の祈りを感じた。日畑廃寺では今に続く仏教の始まりに、王墓山古墳では石棺に葬られた人物に思いをはせながら、参加者は皆、熱心に説明に聞き入っていた。

2）夏休み親子考古学教室

日　　時　平成12年8月3日(木)
会　　場　倉敷市少年自然の家
対　　象　小学校高学年と保護者
受 講 者　37人

当センターが開館以来行っている講座で、今回で8回目を数える。

内容としては、昨年同様「まいぎり」による火おこしと、土器によるご飯とみそ汁作りを行った。まず、火おこしや土器炊きの手順を簡単に説明した後、それぞれの親子に別れて作業を行った。初めての火おこしやサヌカイトの石器を使った具材切りなど、慣れない作業が多くかなり苦労している親子も見られたが、最終的には全員時間内で作業を終えることができた。

参加者たちのアンケートでは、「思ったよりおいしくできた。」「夏休みのいい思い出となった。」などの意見が多かった。

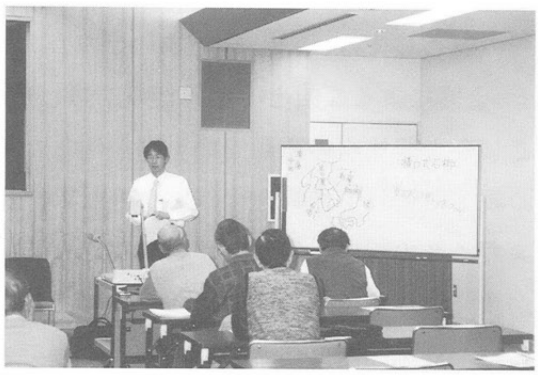
3）7世紀の古代史

講　　師　第1回 安東康宏（笠岡市教育委員会）
「笠岡市関戸廃寺の発掘調査」
第2回 尾上元規（岡山県教育委員会）
「終末期古墳と大化薄葬令」
第3回 亀田修一（岡山理科大学）
「古墳の終焉と古代寺院」
日　　時　平成12年11月5日・12日・19日(日)
会　　場　ライフパーク倉敷「視聴覚ホール」
対　　象　一般
受 講 者　71人(延べ人数)

今回の考古学講座では、古代の豪族が巨大な墳墓である古墳の築造をやめ、寺院を建設するようになる時代の転換点を取り上げた。古墳時代の終末と寺院建設の開始の双方について第一線の研究者の方からお話を賜った。

第１回は安東康宏氏より、最近発掘調査が行われ、県内では比較的実態のよくわかっている笠岡市関戸廃寺についてお話いただいた。新たに確認された金堂や回廊、あるいは以前からわかっていた塔跡などから、復元された伽藍配置イメージ図はわかりやすく、実際の古代寺院を間近に見るようであった。また、畿内勢力との関係が強いことが、備中では珍しい川原寺式の瓦を用いることなどを通じて紹介された。

第２回は尾上元規氏の解説で古墳の終焉について大化薄葬令とからめてお話いただいた。７世紀になると各地の豪族は小型の方墳を築くようになるが、必ずしも薄葬令の規定をきっちりとは守っていないこと、また、尺度や仏教などの新たな中国文化の導入が始まることなどを紹介いただいた。



第３回、亀田修一氏には古墳と古代寺院の関係を総括的にまとめていただいた。朝鮮半島の百済には古墳の主を祀るための寺院の例があること、日本にも終末期古墳と寺院が近接して存在するものがあることを岡山県内の例をあげて解説し、その関係をとりあげた。また、前期古墳のそばに寺院が造営される場合もあることから、古墳時代が終わっても、なお古墳に対する一定の畏怖の念、あるいは象徴的な意味があったのではないかということが指摘された。

４．ライフパークの集い

日　　時　平成12年８月20日(日)
会　　場　埋蔵文化財センター
入 場 者　1,424人

「ライフパークの集い」は、より多くの市民にライフパーク倉敷を知ってもらうことを目的に平成６年度から始まったもので、今回で７回目となる。夏休み中に行われるこのイベントでは、ライフパーク内の５センターがそれぞれ趣向を凝らした講座や出し物を企画し

ており、毎年多くの家族連れが訪れ、一年で最も賑わう日となっている。

埋蔵文化財センターでは、昨年に引き続き「ドキドキ！発掘体験」と「夏休み親子考古学教室写真展」を遺物整理室において実施した。

発掘体験は、大きな砂箱の中にミニチュアの土器や埴輪、石器などを埋め、それらを竹べらで掘り出してもらうコーナーである。そして、遺物の種類ごとに簡単な表彰状を作り、掘り出してきた子どもたちにそれらを手渡した。小さな子どもたちでも宝探し的感覚で手軽に楽しめ、同時に発掘の疑似体験ができるこの催しは、昨年同様大変盛況であった。ただ、表彰状を持ちながら竹べらで砂を掘るのはやりづらそうであったし、また、子どもたちの歓声とは対照的に室内の飾り付けがあまりなくやや殺風景であったことなど、次回の検討課題となるであろう。

親子考古学教室の写真展は、これまで展示室の一角において行っていたが、今回は発掘体験と同じ遺物整理室で展示を行った。これは、子どもが発掘体験に夢中となっている間、保護者の方にじっくり見てもらえるのではないかと考えたからであるが、予想通り時間をかけて見ている人が多いようであった。また、今回も講座の参加者には、展示後希望の写真パネルをプレゼントし、好評を得た。

Ⅳ 調査事業報告

2000年度調査一覧表

No.	遺　跡　名	調　査　地	調査原因	区別	調査期間	備　考
1	笹間遺跡	林119外	道路改良工事	立会	00.4.4	遺物・遺構無し
2	広江・浜遺跡	広江1丁目外地内	下水管埋設工事	立会	4.6・4.11	〃
3	酒津-水江遺跡	水江字西阿知境1153-1	宅地造成	立会	4.25	〃
4	上東遺跡	上東396-1外	道路改良工事	確認	5.9～5.10	弥生土器・Pit
5	西岡貝塚	西岡1685	水道管埋設工事	立会	5.18	遺物・遺構無し
6	金浜遺跡	児島塩生3351・3350	道路改良工事	立会	5.27	〃
7	上東遺跡	下庄69-10	道路改良工事	確認	5.30	弥生土器・土壙
8	上東遺跡	下庄69-10	道路改良工事	全面	7.4～7.29	〃
9	笹間遺跡	林117外	道路改良工事	立会	7.6	遺物・遺構無し
10	酒津-水江遺跡	水江字西用水西添1076外	宅地造成	立会	7.11	〃
11	大室遺跡	下津井5丁目2401番地先	道路改良工事	立会	7.12	〃
12	釜島西丘上遺跡	下津井字釜島2460-43外	トイレ設置	確認	7.27～8.1	尖頭器・細石核
13	新熊野山遺跡	林685	堂宇建設	立会	8.8	遺物・遺構無し
14	新熊野山遺跡	林715番地先	道路改良工事	立会	10.17	〃
15	上東遺跡	上東315番地先	水路改修工事	立会	10.18	〃
16	才楽遺跡	日畑字才楽154-11	水路改修工事	立会	10.26	〃
17	上東遺跡	上東72-1外	道路改良工事	確認	11.7	弥生土器
18	上東遺跡	上東396-1外	道路改良工事	全面	11.7～12.6	弥生土器・貯蔵穴
19	酒津-水江遺跡	水江地内	下水管埋設工事	立会	12.7	遺物・遺構無し
20	桜の堤	玉島阿賀崎22775-1地先	道路改良工事	立会	12.14	〃
21	酒津-水江遺跡	西阿知町字田金351-1	宅地造成	立会	12.16	〃
22	上東遺跡	上東下亀川110-1外	道路改良工事	確認	12.19	弥生土器・Pit
23	笹間遺跡	林58外	道路改良工事	立会	12.19	遺物・遺構無し
24	諏訪神社遺跡	玉島黒崎5549	アンテナ設置	立会	01.1.11	〃
25	北面丸山貝塚第8群	連島町連島4261番地外	墓地造成	立会	1.11～1.12	貝層・亀山焼
26	白銀山遺跡	玉島字狐島1107-1	墓地造成	確認	1.31	遺物・遺構無し
27	塩生遺跡	児島塩生734-4	住宅増築工事	確認	2.7	〃
28	上東遺跡	上東字才ノ元514-3	店舗増築	確認	3.2	弥生土器・Pit
29	亀山遺跡	玉島八島字前田2939-1外	道路改良工事	立会	3.27	亀山焼
30	酒津-水江遺跡	水江字柳原134-4外	宅地造成	立会	3.30	遺物・遺構無し

調査地位置図（S＝1/100,000）

釜島西丘上遺跡（かましまにしきゅうじょう）確認調査報告

調　査　地　下津井字釜島
調査原因　自然還元式トイレ設置　　調査面積　8㎡
調査期間　000727～000801　　調査担当者　鍵谷・小野・藤原

遺跡の概要　釜島は児島の鷲羽山沖に位置している。現在は無人島で道も定かでないほど草木が茂っているが、以前は小学校もあり、最高所でも標高40mに満たない丘陵上はほとんどが畑として開墾されていた。釜島西丘上遺跡は島の西北部に位置する標高約39mの丘上を中心とする遺跡で、旧石器時代の遺物が散布するとされていた。

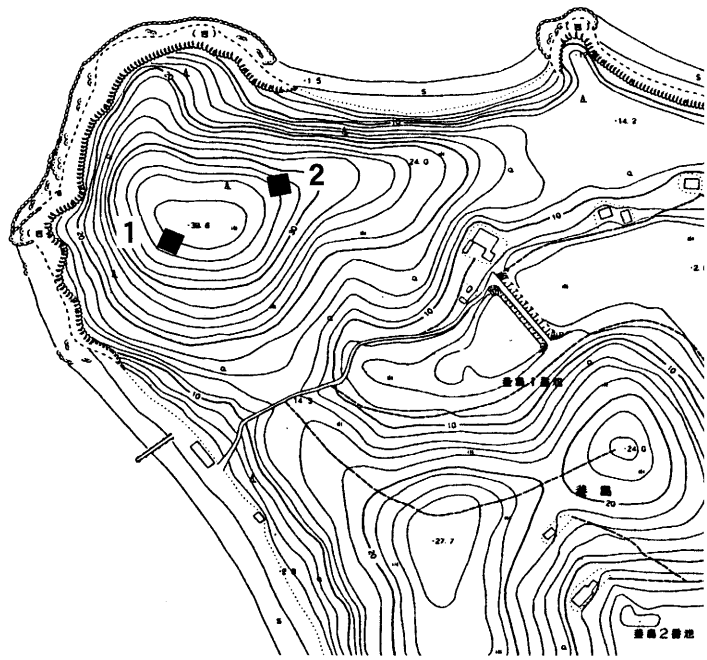
調査の概要　仮設トイレの設置が予定されている丘陵の最高所とその東に延びる尾根の付け根付近の２カ所に２×2mのトレンチを設定して調査を行った。

その結果、最高所に設定したトレンチ1からは、細石核を含む遺物が多数出土し、旧石器時代の遺跡が存在することが確認された。表土の下には10㎝程度の旧耕作土(浅橙色砂質土)があり、遺物はこの下の流土中から多数が検出された。遺物包含層の下には無遺物層が存在したが、非常に硬質の層で、さらに掘り下げて地山を確認することはできなかった。

遺物としては尖頭器未製品2点、細石核5点、石鏃2点を含むサヌカイト製石器多数があり、最高所を中心に、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が存在したと考えられる。しかし、この遺物包含層は二次的に堆積した層あるいは畑を開墾した際の造成層と考えられる。また、遺構も確認されなかった。

東に延びる尾根の付け根付近に設定したトレンチ2の土層も基本的には同様で、旧耕作土(明赤褐色土)の下に遺物包含層があり、その下は無遺物層(にぶい黄橙色硬質土)であった。これらの層は畑を開墾した際の造成土と考えられ、非常に固くしまっていた。遺物はトレンチ1とは全く異なり、中世の亀山焼片、土師質土器片が多く出土した。やはり遺構は検出されなかった。

以上のように、両トレンチからは時期の全く異なる遺物が出土している。このため2000年度発行の『倉敷市遺跡地図(児島編)』では、最高所付近の旧石器時代から縄文時代の遺跡を釜島第1遺跡、東に延びる尾根上の中世の遺跡を釜島第2遺跡と別の遺跡として記載した。



トレンチ配置図（S＝1/5,000）

出土遺物　トレンチ1からの出土遺

物としては尖頭器未製品2点、細石核5点、石鏃2点を含むサヌカイト製石器多数がある。そのうち代表的なものを紹介する。

1・2はサヌカイト製の凹基鏃である。1はやや大型で抉りは浅い。2は厚手でやはり抉りは浅い。いずれも加工は丁寧で、縄文時代のものと考えられる。

3・4はサヌカイト製の尖頭器である。3は最大幅の付近で折れており、先端の加工は鋭く尖るに至っていない。4も加工が途中で放棄されており、両方とも未製品と考えられる。

5は周縁に丁寧な交互剥離が行われており、石鏃の未製品とも考えられるが、やや分厚くここでは楔形石器としておく。サヌカイト製である。

6・7はサヌカイト製の縦長剥片である。7の背面にはネガティブ面が2枚ある。そのうち1枚は腹面と逆方向から剥離されており、打面転移が行われていたことがわかる。また、側縁には使用による刃こぼれと考えられる微細剥離が認められる。

8・9はサヌカイト製の横長剥片である。いずれも背面に素材となった盤状剥片を残し、ネガティブ面は2枚以上である。

10～14は細石核である。10～13は硬質安山岩製、14はサヌカイト製である。いずれも形態は板状を呈しており、剥片を素材としている。10は打面に細かい調整が行われ、作業面に7枚の細石刃剥離痕が残されている。このうち図面左手の2枚は下方から剥離されており、打面転移が行われたことがわかる。11は小型の細石核で、作業面には3枚の細石刃剥離痕が残る。12は当初は原礫面を打面として細石刃を剥離している。作業面には3枚の細石刃剥離痕を残す。13は明確な打面調整が行われておらず、作業面には2枚の細石刃剥離痕を残すが、ややいびつな細石刃を剥離している。14はやや風化したサヌカイトを素材としている。作業面に5枚の細石刃剥離痕を残し、作業面の再生を行うための加工を側部から行っているが、それ以上の細石刃剥離は行われていない。

15～17はサヌカイト製の石核である。15は上下に階段状剥離痕を持ち、側縁に剪断面を有す。16は打面転移を行いながら、やや横長の剥片を剥離している。17は求心状に不定形剥片を剥離していくものである。

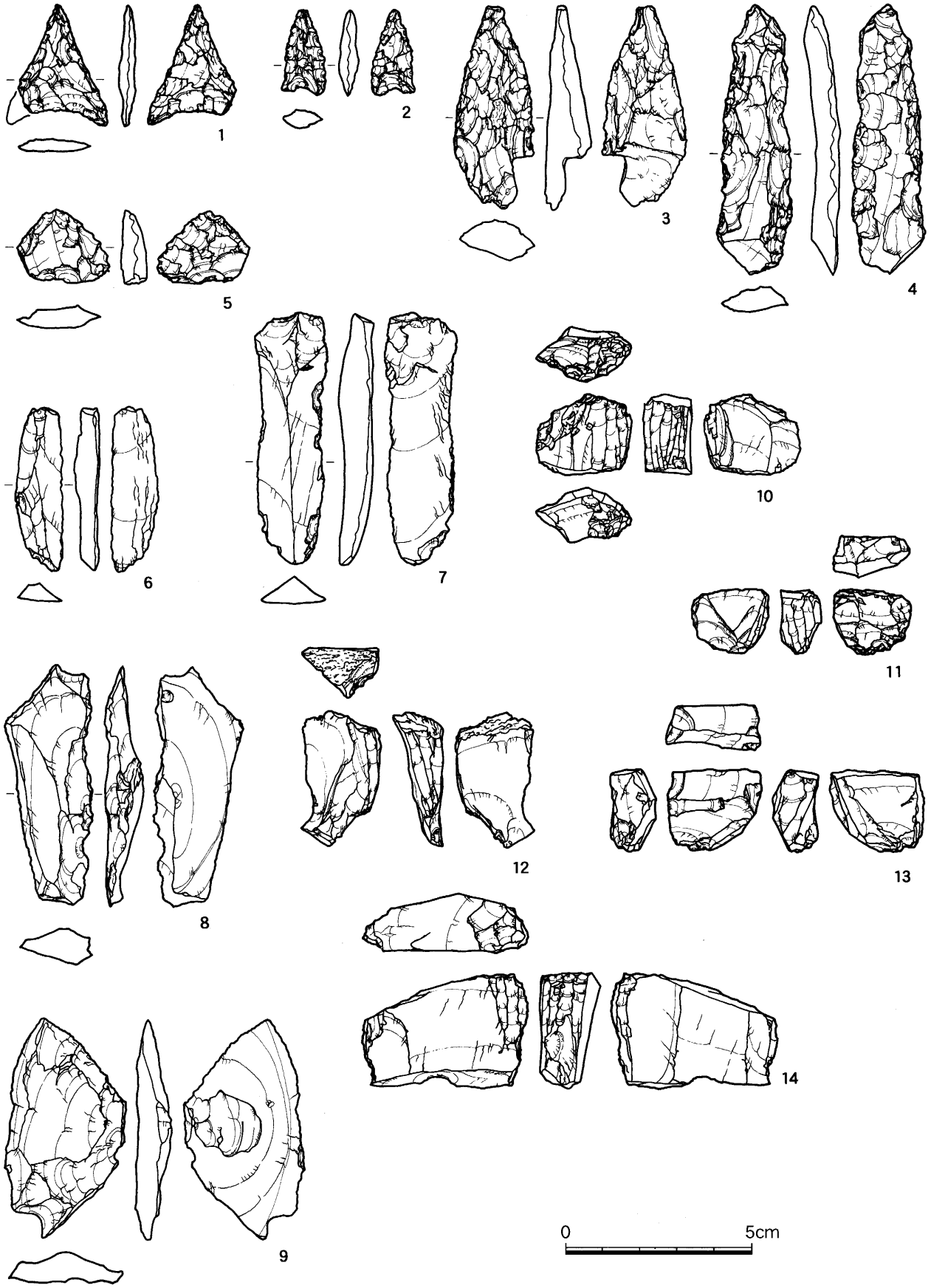
18はサヌカイト製のスクレイパーである。今回の遺物の中では最大のものである。原礫面を打面とする、やや横長の大型剥片を素材としている。刃部は両面加工でやや内湾する部分もある。（藤原）

石器計測表

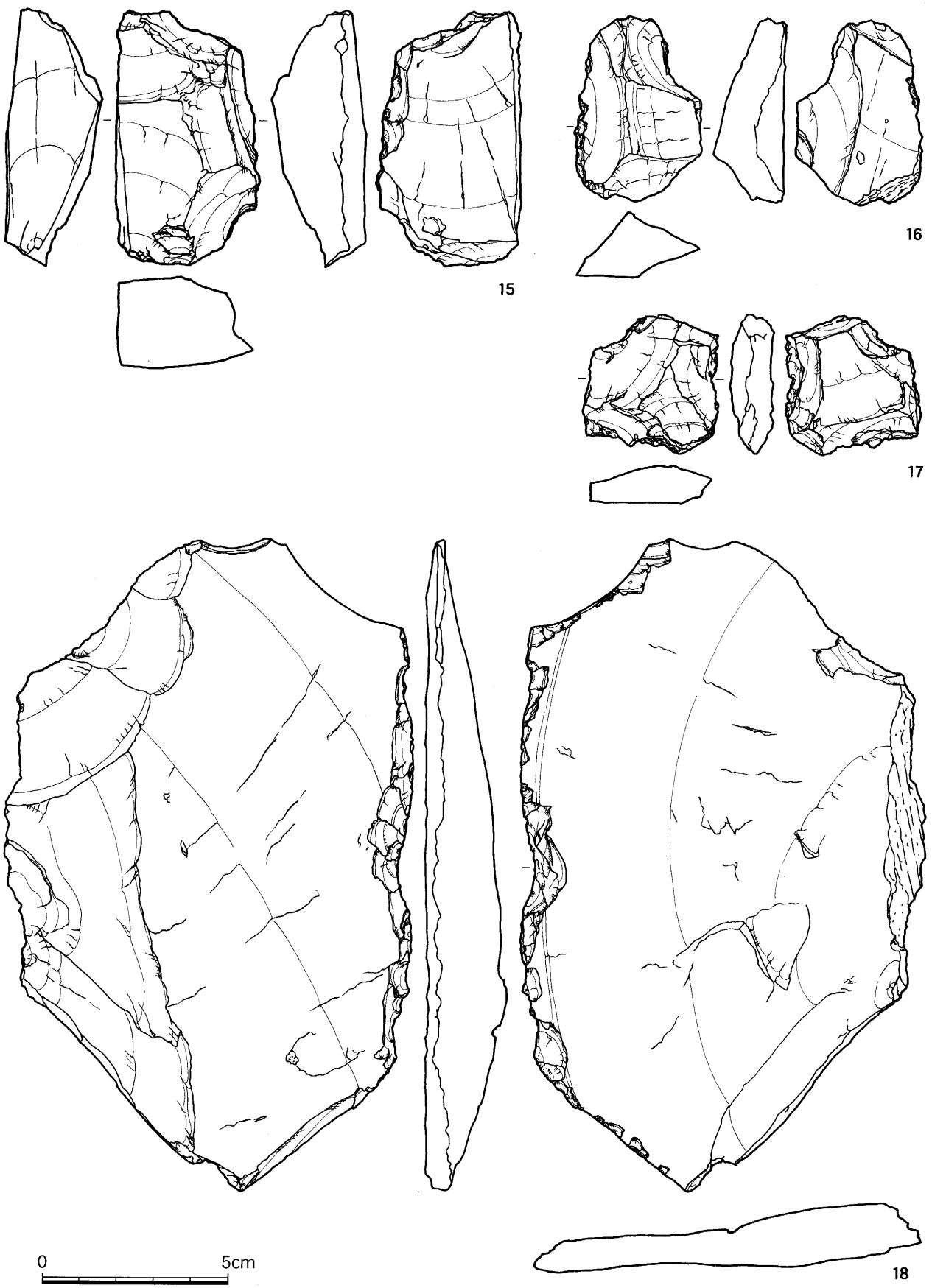
番号	器　種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
1	石　鏃	3.19	(2.40)	0.46	2.3
2	石　鏃	2.26	1.15	0.53	1.2
3	尖頭器未製品	(5.38)	2.20	1.14	9.9
4	尖頭器未製品	7.15	1.93	0.64	12.1
5	楔形石器？	1.92	2.46	0.71	3.2
6	縦長剥片	4.32	1.26	0.64	3.5
7	縦長剥片	6.62	1.92	0.82	10.3
8	横長剥片	2.32	6.35	0.89	10.3
9	横長剥片	3.11	5.82	0.86	14.1
15	石　核	6.70	3.88	2.46	80.6
16	石　核	3.42	4.90	1.85	24.6
17	石　核	3.61	3.57	1.12	17.5
18	スクレイパー	10.8	17.4	1.62	334.6

細石核計測表

番号	打面長 (cm)	打面幅 (cm)	作業面長 (cm)	作業面幅 (cm)	重(g)
10	2.40	1.30	1.76	1.26	8.5
11	2.11	1.05	1.79	0.98	4.2
12	2.01	1.25	2.39	0.82	6.8
13	2.34	0.94	2.22	1.01	7.4
14	4.36	1.54	2.97	1.25	26.2



出土遺物1(S＝2/3)



出土遺物２（Ｓ＝2/3）

上東遺跡(上東 103 号線)確認調査報告

じょうとう

調　査　地　上東 72-1 外

調査原因　道路改良工事　　調査面積　3㎡

調査期間　001107　　調査担当者　鍵谷・藤原

遺跡の概要　上東遺跡は、足守川の沖積地に立地する、弥生時代後期を中心とした集落遺跡である。これまでに山陽新幹線(1972～1973)、都市計画道路(1975～1976)、主要地方道箕島高松線(1997～1999)等の建設に伴う発掘調査によって大規模な集落跡や港湾施設とみられる遺構が確認されている。今回の調査地は、先述の山陽新幹線や主要地方道箕島高松線建設に伴う発掘調査における西鬼川市調査区のすぐ北側にあたる。西鬼川市調査区では弥生中期から後期にかけての土壙と溝が確認されているが、住居跡などは検出されていない。

調査の概要　南北方向に計画されている道路敷地内に1×1.5mのトレンチ2カ所を設定して土層観察を中心に調査を行った。

その結果、北方に設定したトレンチ1では、耕作土中より既に遺物が確認されはじめ、最下層を除く全ての層から遺物が確認された。遺物としては弥生土器片を中心に須恵器片・中世土器片がある。遺構としては水田床土の下の明青灰色砂質土層を1枚剥いだ段階でトレンチの南側に性格不明の落ち込みを確認した。この遺構の性格については調査範囲が限られたため、不明である。またさらに掘削を進めたところ、トレンチの北側が大きな落ち込みの北側のり面にかかっていることが判明した。この落ち込みの埋土からは中世の土器片も出土しており、性格は溝あるいは自然流路と考えられる。南方に設定したトレンチ2では各層から少量の弥生土器片等を検出しているが、遺構は全く確認できなかった。

今回の調査地付近はかつて地下げが行われ、その際に遺物の出土が伝えられている。主要な遺構などはすでに削平されてしまっている可能性が高いと考えられる。　(藤原)

調査地位置図(S＝1/5,000)

上東遺跡（じょうとう）（上東浦線）確認調査報告

調　査　地　　上東字下亀川110-1
調査原因　　道路改良工事　　調査面積　8㎡
調査期間　　001219～001220　　調査担当者　藤原・中野

遺跡の概要　上東遺跡は足守川の沖積地に成立した弥生時代後期を中心とする弥生時代後期の集落遺跡で、市内でも有数の規模を持つものと考えられている。今回の調査地にきわめて近接した区域でも、山陽新幹線、都市計画道路等の建設にかかる発掘調査によって、膨大な量の遺物をともなって、住居跡、溝、製塩遺構などの遺構が検出されている。

調査の概要　今回の調査は、県道上東浦線の交差点改良にともなうものである。交差点をはさむ南北２カ所の拡幅部分に試掘坑を２カ所設定し、文化財の存在状況確認を行った。

南側に設定したトレンチ1では、近年に行われた整地により盛土されていたため、重機によって盛土・耕作土の撤去を行い、その後に人力掘削で遺構検出にあたった。標高1m附近で灰褐色土を40cm程掘り下げて、ほぼ南北にのびる溝状の落ち込みが検出された。遺構内から検出された遺物は、近世・近代のものであった。

トレンチ2の掘削は人力で行なった。標高0.65mあたりの土層の境界面上で平安時代の土師器片が検出され、その層を撤去した後に弥生時代の基盤となる層の上面を確認した。基盤層は西から東に向かって緩やかに傾斜しており、東端の標高0.5m、西端は0.3m。遺物は弥生時代後期の土器が少量検出されたにとどまる。遺物の密度は東になるほど高かった。これは低地もしくは水路・河川への流入の様子を反映しているものと思われる。　（中野）

調査地位置図（S＝1/5,000）

北面丸山貝塚第８群（きたもまるやま）立会調査報告

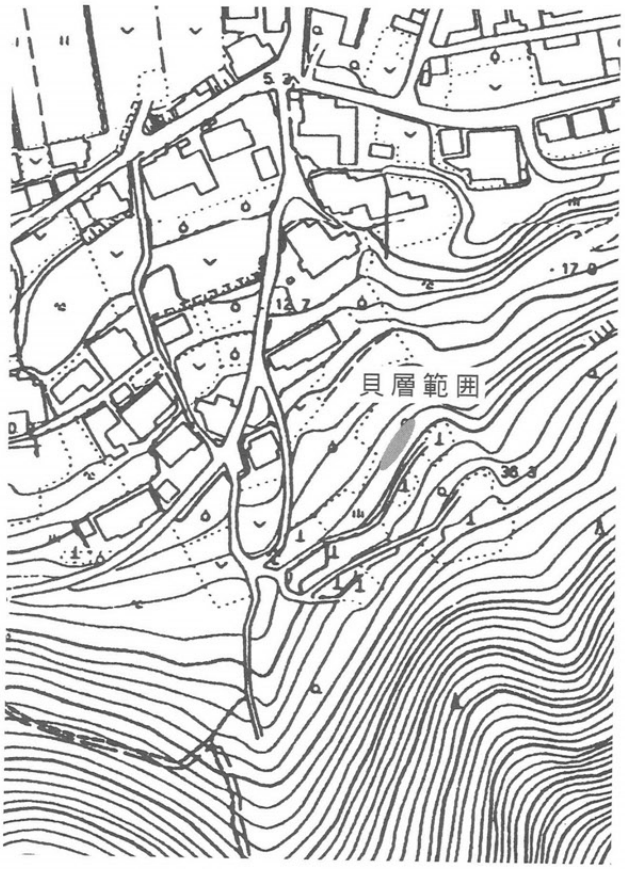
調　査　地　　連島町連島4261番地外
調査原因　　墓地造成工事　　調査面積　21㎡
調査期間　　010111～010112　　調査担当者　鍵谷・藤原

遺跡の概要　北面丸山貝塚群は、連島の最高峰大平山の北斜面、標高20～40m付近に密集する中世の貝塚群である。周辺の畑や山の斜面には貝殻が濃密に散布している地点が多く見られ、現在それらの地点を含めて９カ所の範囲が貝塚群としてとらえられている。第８群は、この貝塚群の中では東端近くに位置する一群で、これまでに２カ所の貝殻散布地点が確認されている。

調査の概要　今回の工事区域は、既に確認していた２カ所の散布地点からは外れており、かつて段々畑の造成により削平を受けている部分でもあったが、重機による掘削中にその中央付近で新たに貝塚が発見された。そこで、掘削範囲内の貝塚の上面を検出し、等高線と平行するトレンチを設定して調査を行った。

その結果、山腹から北へわずかに張り出す尾根の北西斜面、標高29m付近で、幅約21m、奥行き約4mの貝塚が確認された。貝層は、その厚さが中央付近で最大約1.2mを測り、東西の端に向かって薄くなるレンズ状の堆積をしていた。中央付近では純貝層が認められるものの、多くの部分では混貝土層となっている。貝層中には人頭大の花崗岩礫が多数含まれていたが、不規則な混入であり遺構等に伴うものではないと考えられる。貝は４～６cmのハマグリが主体で、わずかにカキ、ツブガイなどが認められる。遺物としては、亀山焼の甕やすり鉢の破片、土鍋片などが少量ではあるが含まれており、概ね室町時代頃のものと思われる。

（鍵谷）



調査地位置図（S＝1/2,500）

貝層断面

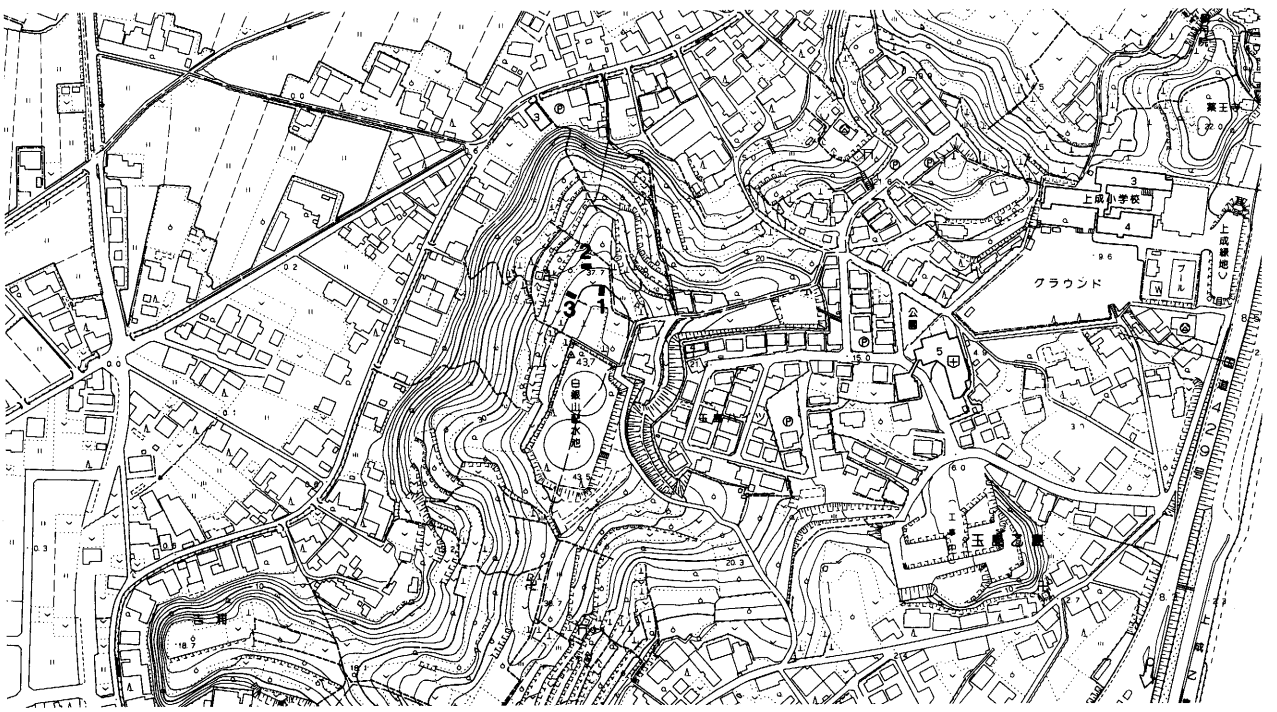
白銀山遺跡（しろがねやま）確認調査報告

調　査　地　玉島乙島1107番1
調査原因　墓地造成工事　　調査面積　6㎡
調査期間　010131　　調査担当者　小野・藤原

遺跡の概要　遺跡の立地する白銀山は、高梁川河口の西岸に位置する独立丘陵である。周囲の平地は江戸時代以降の干拓によって陸地化したもので、中世以前にはこの丘陵は、狐島と呼ばれる島の一角であった。現在は、尾根筋から斜面にかけて開墾され、最高所には給水塔が建設されている。尾根筋を中心に広い範囲でサヌカイト片が散布しており、旧石器時代の遺跡として周知されている。1996年に行った分布調査の際には、南方の尾根先端でサヌカイト剥片１片が採集されているが、遺物の散布密度が低いせいか、明確な時期を決定できるような遺物は追加されていない。

調査の概要　調査地は、丘陵最高所に立つ給水塔北側の尾根に位置する。墓地造成の擁壁工事に伴い、掘削する部分を中心に、2m×1mのトレンチを３カ所設定して行った。尾根筋上に設定したトレンチ１と西斜面に設定したトレンチ３では、20～30cmの厚さの耕作土の下は、すぐに花崗岩バイラン土の地山となっているのが確認された。工事予定区域の北端に設定したトレンチ２では、厚さ約20cmの耕作土の下に黒褐色の造成土をはさんで花崗岩バイラン土の地山がみられた。いずれのトレンチからも遺物・遺構は検出されていない。

今回の確認調査では、トレンチ内からは遺物・遺構は全く検出されなかったが、耕作などのために既に遺物包含層が流出してしまっているものと考えられる。なお、造成範囲内でサヌカイト剥片１点を採集している。　（小野）



調査地位置図（S＝1/5,000）

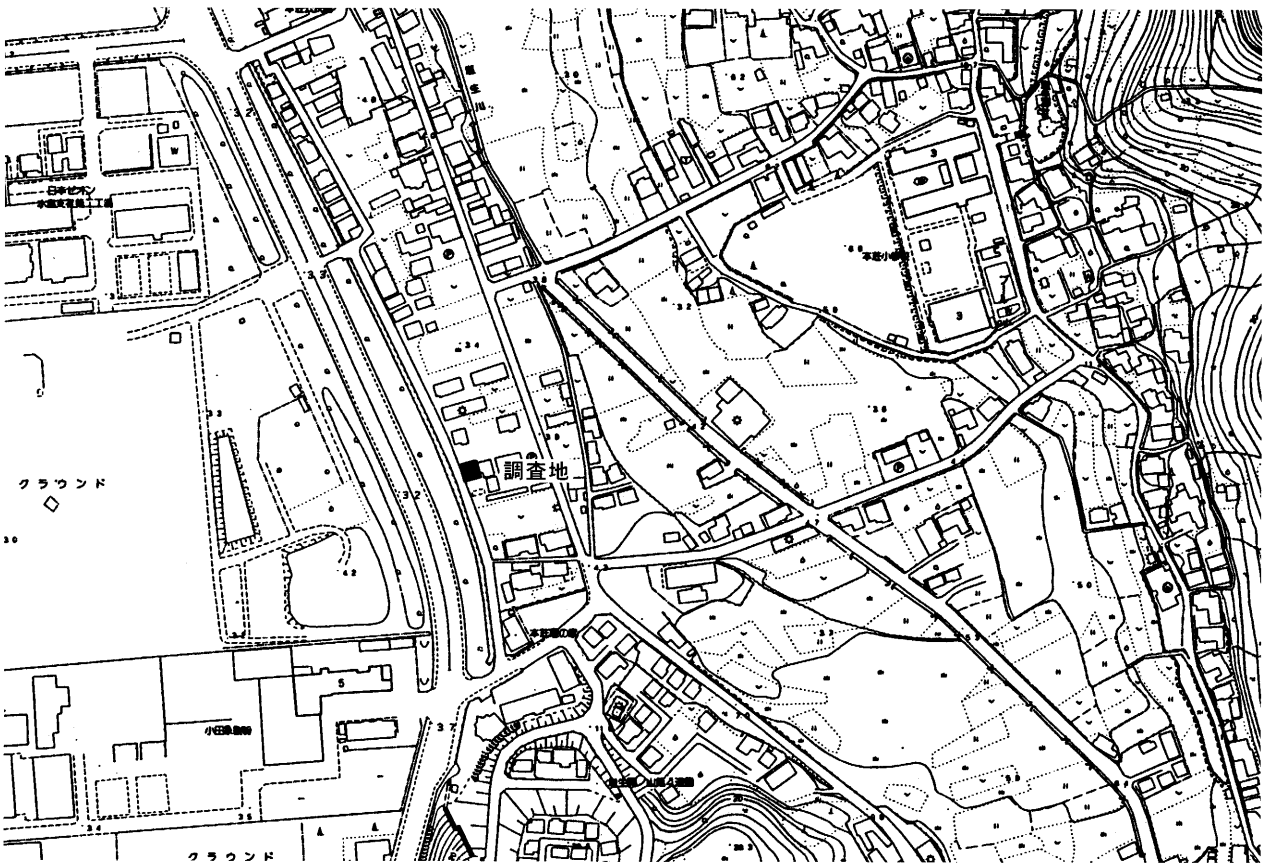
塩生（しおなす）遺跡確認調査報告

調　査　地　　児島塩生734-4
調査原因　　宅地造成工事　　調査面積　4㎡
調査期間　　010207　　調査担当者　小野・中野

遺跡の概要　塩生遺跡は、児島半島西岸に位置する倉敷市児島塩生の旧海岸に形成された砂州上に立地する製塩遺跡である。古墳時代後期の製塩土器、所謂「師楽式土器」を多量に出土することで知られている。付近では、個人宅の敷地内から弥生時代前期の無頸壷が発見されている他、平成6年に賃貸マンション建設計画にともなって行われた調査では、中世の製塩炉、鹹水溜土壙などの製塩関連遺構が確認されている。

調査の概要　今回の調査は平成6年に製塩遺構が確認された地点から南へ約100mほどの地点である。個人住宅の増築にともなう調査であり、当該地のほぼ中央に試掘坑を設定して遺跡の存在状況の確認を行なった。

近年に行われた造成により盛土が行われていたため、機械による掘削で旧耕土までを除去、その後に人力で掘削を行なった。付近の遺跡基盤層である旧海浜砂の層が地表下0.9mで検出されたが、遺物・遺構ともに検出されなかった。地表下1.4mまで掘削の後、当該地は遺跡の範囲外であると判断して調査を終了した。　（中野）



調査地位置図（S＝1/5,000）

上東遺跡(じょうとう)(レストラン増築)確認調査報告

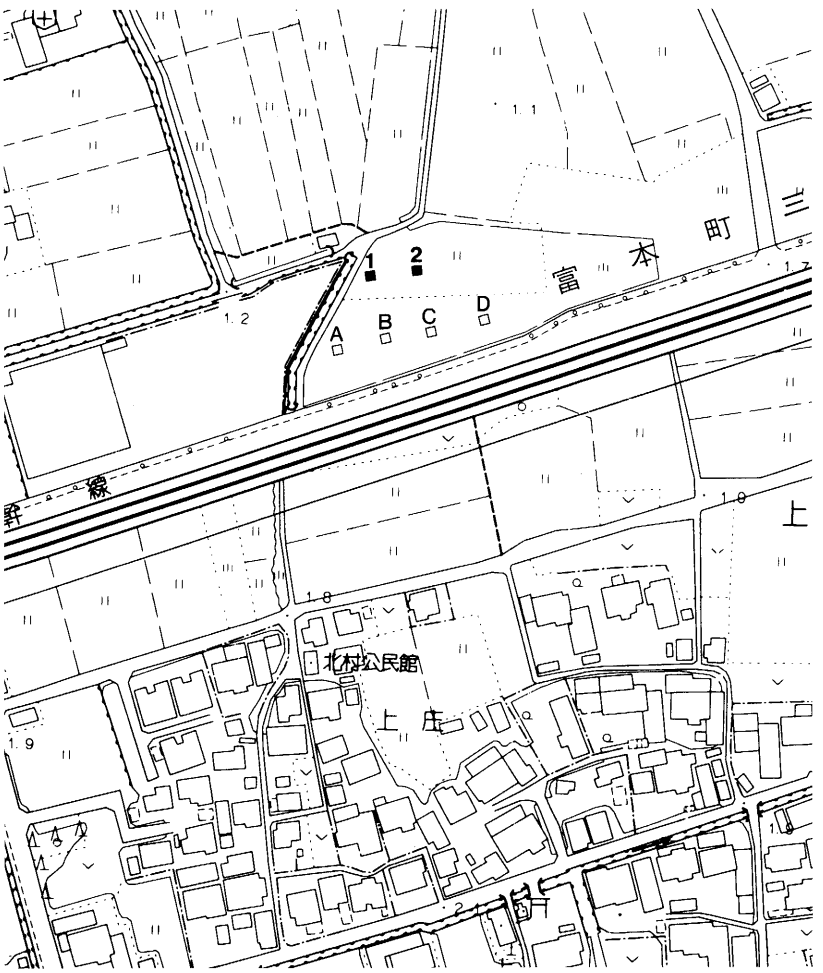
調　査　地　上東字才ノ元514-3
調査原因　レストラン増築工事　　調査面積　8㎡
調査期間　010302　　調査担当者　小野・中野

遺跡の概要　上東遺跡は、足守川の沖積地に立地する、弥生時代後期を中心とした集落遺跡である。1972年から1976年にかけて岡山県教育委員会により実施された山陽新幹線建設工事および側道建設工事に伴う発掘調査において、路線部分における遺跡の分布状況が捉えられている。それによると、今回報告する調査地の南に位置する「才ノ元調査区」で微高地が確認され、溝跡が検出されている。また、1995年に倉敷市教育委員会により行われたレストラン店舗建設用地選定に伴う確認調査では、調査対象地の東側において「才ノ元調査区」の微高地が北に延びていることが確認された。今回の確認調査では、さらにその北側における微高地の存在状況を把握することを主眼に置いた。

調査の概要　調査は、2m×2mの試掘坑(トレンチ)を工事計画区域内の任意の2カ所に設定して行った。

トレンチ1での土層観察によると、耕作土・床土の直下は厚さ約20cmの灰黄色砂質土が堆積しており、その下には、にぶい黄橙色、黄灰色、にぶい黄色の粘質土がみられる。にぶい黄色粘質土層の上面は、波打つような乱れが観察される。この下には厚さ約40cmの黄灰色粘質土層が続く。この層は、下層に行くに従って暗い色調のシルト質になり、葦のような植物遺体が含まれる。そして、標高0.3mあたりで灰色シルト層となる。トレンチ1では、いずれの層からも遺構、遺物は確認することはできなかった。

トレンチ2では、耕作土の直下は黄褐色粘質土で、その下には厚さ約25cmの褐灰色粘質土がみられる。この層には弥生土器、須恵器等の遺物が含まれており、密度が薄いながら遺物包含層と捉えることができる。褐灰色粘

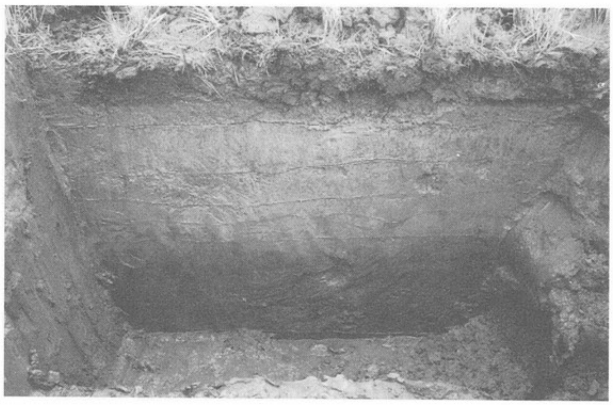


調査地位置図(S＝1/2,500)

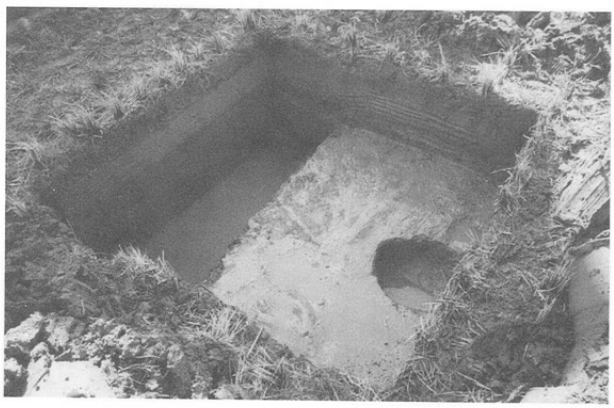
質土を除去し、灰色粘質土層上面(標高 0.9m付近)を露出した段階でピット1基が検出された。直径は50cm、残存する深さ25cmを測る。内部には灰色粘質土が堆積し、ブロック状の灰色粘質土が少し混じる。遺物としては、弥生時代後期の高坏などが出土している。ピットが掘り込まれた灰色粘質土層は弥生時代の基盤層と捉えることができる。鉄分の沈着が顕著で、灰色地に明るい褐色が混在する色調である。基盤層検出面から30cm程度下では、暗い色調の灰色粘質土層になっている。湧水によるトレンチおよび遺構の崩壊を避けるため、これより下層に堆積していると想定される粘質土層、シルト層の確認は行わなかった。

今回の調査結果および調査後に行われた工事中の立会調査と1995年の確認調査の結果を照合して、当該地の遺跡の存在状況を考えてみたい。1995年の確認調査では2m×2mのトレンチを15m間隔で東西直線上に4カ所設定して行っている。これらのトレンチを西からA、B、C、Dと呼ぶことにする。トレンチAでは耕作土直下の砂質土層に続き、4層に分けられる粘質土層、植物遺体を含むオリーブ黒色シルト層が堆積している。この層序は今回のトレンチ1とほぼ同様であり、やはり遺構、遺物は確認されていない。トレンチBでは、水田面から約60cm下の褐色粘質土層を切り込む溝状遺構が検出されており、灰色粘質土層を掘り込んだ弥生時代遺構が検出されたトレンチ2と符合するようである。トレンチBの溝状遺構からは、弥生土器と思われる土器がわずか1片しか出土しておらず、時期等の詳細は不明であるが、トレンチ2で検出されたものと同一の基盤に立地するものと思われる。トレンチC、Dでは基盤層に対応すると考えられる暗灰黄色粘質土層がみられ、その直上にはわずかながら弥生土器等を含む粘質土層が存在するが、遺構や明確な遺物包含層は確認されていない。以上のことから、トレンチ2・トレンチBで確認された微高地は、そのすぐ西で徐々に落ち始め、トレンチ1・トレンチAの地点では溝、土壙などの遺構が存在する状況ではないようである。このことは、今回の確認調査後に行われた工事中の立会調査でも追認され、また、山陽新幹線側道建設工事に伴う発掘調査で推定された微高地西端のありかたとも矛盾するものではないと思われる。

(小野)



トレンチ1



トレンチ2

上東遺跡(下庄1号線)発掘調査概要

じょうとう

調査地	下庄69-10		
調査原因	道路改良工事	調査面積	106㎡
調査期間	000704～000731	調査担当者	小野・中野

遺跡の概要　上東遺跡は足守川の沖積地に成立した弥生時代後期を中心とする集落遺跡で、市内でも有数の規模を持つと考えられている。山陽新幹線、都市計画道路等の建設にかかる発掘調査によって、すこしずつ概要が明らかになりつつあるが、正確な範囲は未だ確定出来ていない。

また、今回調査地の北方約250mの地点では、主要地方道箕島高松線建設にともなって行われた岡山県古代吉備文化財センターの調査により、港湾施設の可能性がある波止場状遺構が検出され、同調査区のさらに南西にまで微高地が延びることも確認されている。

調査の概要　今回の調査地は足守川西岸に位置する下庄地区の水田の一角である。発掘調査は工事予定区域のうち道路新設部分について行なった。調査区の総延長は47mあまり、幅は2m～2.5mである。基盤層上面まで掘削した結果、土壙12基と溝状遺構が検出された。調査区西端付近で確認された溝状遺構、土壙4基は弥生時代後期のものである。この基盤層上面の標高は0.8m。山陽新幹線あたり(岩倉遺跡)の基盤レベルと比べて少なくとも0.4m程低い。西から流入した様子が確認できる西端の土層をのぞき、基盤層より上の層は大半が水平堆積となっている。包含層内の遺物は摩滅がはげしく、二次堆積の可能性が強い。

遺物は溝状遺構付近から比較的まとまって出土しており、弥生時代後期の壷、甕、高坏、鉢などの土器がある。また、調査区東側の遺物包含層からは、古墳時代前半期のものと思われる小型化した台脚をもつ製塩土器が出土している。

上東遺跡は規模が大きいだけに、これまで正確な範囲の把握がなされておらず、その南限の把握は課題のひとつであった。今回の調査によって、確実に遺跡が存在する範囲を知ることが出来たのは大きな成果だろう。また、さらに溝状遺構が南西方向に延びていることから、遺跡の範囲はいま少し南に広がるものと思われる。　(中野)

調査地位置図(S＝1/5,000)

上東遺跡（じょうとう）（上東11号線）発掘調査概要

調　査　地　上東396-1外3筆
調査原因　道路改良工事　　調査面積　290㎡
調査期間　000509～000510（確認調査）　　調査担当者　鍵谷・藤原
001107～001207（全面調査）

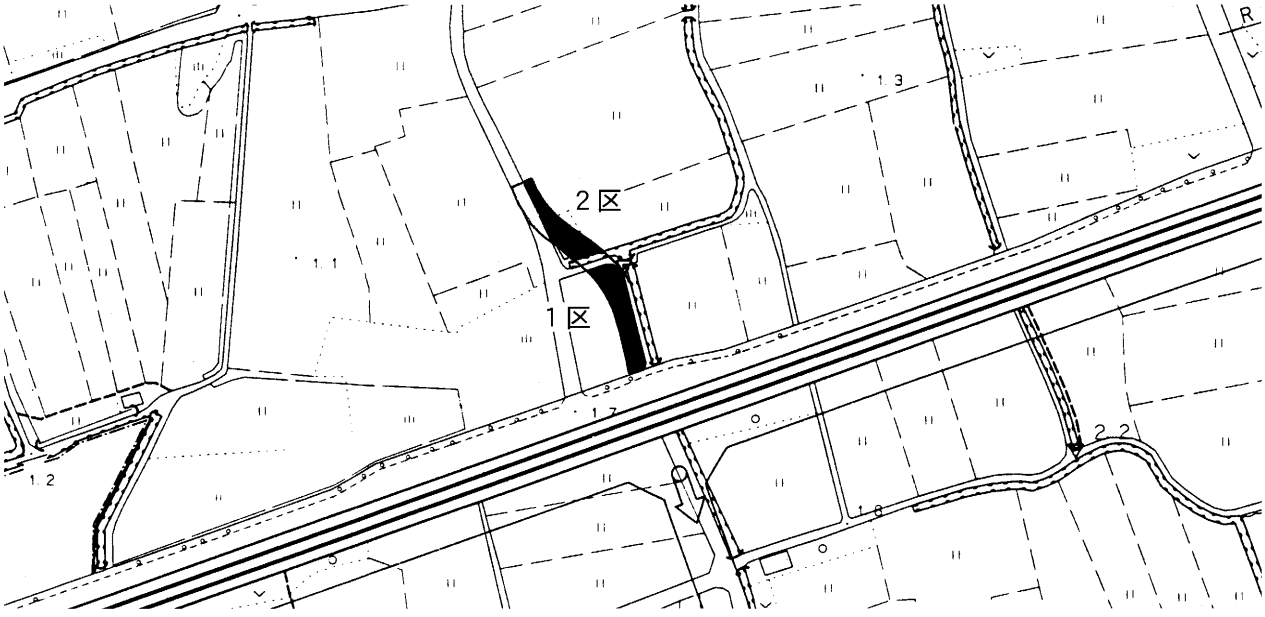
遺跡の概要　上東遺跡は、岡山県南部では屈指の弥生時代後期を中心とする集落跡である。これまでに山陽新幹線および都市計画道路等の建設に伴い、岡山県教育委員会による大規模な発掘調査が行われ、住居跡、溝、井戸など数多くの遺構とともに膨大な量の遺物が出土している。今回の調査地点は、それらの調査における下田所地区東端のすぐ北側にあたる。下田所地区は、上東遺跡を構成する他の微高地とは様相が異なり、微砂層の堆積により形成されたもので、先の調査では弥生時代～中世にかけての溝や土壙が検出されている。

こうした過去の調査結果をふまえ、平成12年5月にトレンチ２カ所による事前の確認調査を行った。その結果、水田の地下げ等によりその上部は既に消失しているものの、弥生時代と思われるピット3基が確認され、下田所地区における遺跡が今回の工事区域にまで延びていることが明らかとなった。

調査の概要　調査対象地は東西に走る用水路により南北に2分割されていたため、南側を1区、北側を2区としてそれぞれ調査を行った。調査は、後世の地下げ面まで重機により掘り下げた後、遺構を精査する方法で行った。

【１区】

調査区の基本的土層は、上から水田耕作土・水田床土・灰褐色土・黄灰色土・黄灰色砂質土となるが、調査区の北端では灰褐色土は確認できない。灰褐色土には弥生時代～中世にかけての遺物が多く



調査地位置図（S＝1:2,500）

含まれており、この面が後世の削平面と考えられる。その下の黄灰色土には弥生時代の遺物のみが含まれているが、概して小片で摩耗しているものが多く見られることから、周辺地より流れ込んだものである可能性が高い。

検出した遺構としては、ピット17基、溝２基がある。これらは既に述べたように全てその上面が削平されており、また、水田用の暗渠や近現代の穴によって一部破壊を受けているものもあった。検出したピット17基は、出土遺物や埋土の状況などから弥生時代の遺構と考えられる。これらのうち、３基は直径0.8ｍ～１ｍを測る比較的大きなもので、多くの土器片とともにその埋土には炭が含まれており、貯蔵穴である可能性が高い。出土した土器には甕・壺・高杯・器台などがあり、後期初頭頃のものと考えられる。土器以外の遺物としては、石包丁が2点出土している。検出した2基の溝は、どちらも深さが浅く底部のみがわずかに残った状態であると思われる。いずれも灰色粘質土が堆積しており、出土した土器から中世頃のものと考えられる。

１区　遺構検出状況

【２区】

調査区の基本的土層は１区と同様であるが、弥生時代の遺物を含む黄灰色土は存在せず、ベースである黄灰色砂質土直上には、弥生時代～中世の遺物を含む暗灰黄色粘質土があり、１区の灰褐色土に相当する土層と考えられる。

１区　貯蔵穴土器出土状況

検出した遺構としては、ピット11基、溝１基がある。ピットはいずれも小規模なものが多かったが、そのうちの１基は、直径約1.2ｍ・深さ約0.6ｍと他に比べ大きく、また、埋土には多くの土器片とともに炭が混じるなど、１区の貯蔵穴と同じ状況を示していた。ただし、出土した土器は中期中頃のもので、１区のものに比べてやや古い。溝は、長さ3.5ｍ・幅1ｍを測る長円形を呈するもので、深さも15㎝程度と浅い。堆積していた土は灰色系の粘質土で、遺物も中世の土器を含むなど１区の溝とほぼ同じ状況を示していた。　（鍵谷）

２区　遺構検出状況

V 寄贈図書一覧 (2000.4.1～2001.3.31)

【北海道　01】	
(財)北海道埋蔵文化財センター	テエタ第4号、掘りだされた北の歴史、対雁2遺跡(1)、調査年報12 -平成11年度-、北海道立埋蔵文化財センター年報1、花岡2遺跡・花岡3遺跡、白滝遺跡群Ⅰ、日東遺跡、シラリカ2遺跡、豊野6遺跡、キウス4遺跡(5)、内園6遺跡、ユカンボシC15遺跡(3)、キウス4遺跡(6)、北伏古2遺跡、都遺跡、東町遺跡
苫小牧市埋蔵文化財調査センター	苫小牧の埋蔵文化財 No.13[縄文時代・後期編]、苫小牧市埋蔵文化財調査センター所報2
えりも町郷土資料館	油駒遺跡
【青森県　02】	
青森県埋蔵文化財調査センター	ネットワーク発掘 第7号～第8号
【岩手県　03】	
(財)岩手県文化振興事業団	紀要XIX、志羅山遺跡第46・66・74次発掘調査報告書、佐野遺跡第1次・三日町Ⅰ遺跡第2次発掘調査報告書、惣前町遺跡発掘調査報告書、日の出町Ⅰ遺跡発掘調査報告書、山王山遺跡第9次発掘調査報告書、川岸場Ⅱ遺跡発掘調査報告書、沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書、狼沢Ⅱ・高松寺・上駒坂遺跡発掘調査報告書、峠山牧場Ⅰ遺跡B地区発掘調査報告書、向中野館跡第4次・小幅遺跡第11次・台太郎遺跡第19次発掘調査報告書、芦名沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書、下村遺跡発掘調査報告書、安栖野遺跡発掘調査報告書、下醍醐遺跡発掘調査報告書、下醍醐遺跡発掘調査報告書、佐野原遺跡発掘調査報告書、上寺田遺跡・本巻遺跡発掘調査報告書、西舘跡発掘調査報告書、水ノ口遺跡発掘調査報告書、休場遺跡発掘調査報告書、相ノ沢遺跡発掘調査報告書、上野平遺跡発掘調査報告書、上台遺跡発掘調査報告書、大向上平遺跡発掘調査報告書、長倉Ⅰ遺跡発掘調査報告書、島田Ⅱ遺跡発掘調査報告書、向中野館跡第3次・小幅遺跡第10次発掘調査報告書、矢神遺跡発掘調査報告書
北上市立埋蔵文化財センター	北上市埋蔵文化財年報1996年度～1998年度、北上市立埋蔵文化財センター紀要 第1号、藤沢遺跡Ⅲ、浮牛城跡Ⅱ、南部工業団地内遺跡Ⅲ、藤沢遺跡Ⅴ、横町遺跡、滝ノ沢遺跡Ⅴ、大堤遺跡、江釣子古墳群、南部工業団地内遺跡Ⅰ
【宮城県　04】	
多賀城市埋蔵文化財調査センター	多賀城市埋蔵文化財調査センター年報 -平成10年度-・-平成11年度-、西沢遺跡 -第8次調査報告書-、市川橋遺跡
仙台市富沢遺跡保存館	市民文化財研究員活動報告書4、赤彩の考古学 -2000年前の彩文土器と赤彩銅鐸-、跡 -大地の思いで-、仙台市富沢遺跡保存館研究報告3、地底の森 第12号～第14号、地底の森ミュージアム年報 -第4号-
【山形県　06】	
米沢市教育委員会	大浦B遺跡、米沢城東二の丸跡遺跡詳細分布調査報告書 第13集、大浦C遺跡横山古墳
【福島県　07】	
(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団	音路遺跡、蒲倉古墳群 -第6次調査報告-、鴨打A遺跡(遺構外編)、宮ノ脇遺跡 -第4次発掘調査報告-、郡山市埋蔵文化財分布調査報告7、郡山東部23、小泉山田A遺跡・山田B遺跡、清水内遺跡 -6・8・9区調査報告- 第2冊、第6回市内遺跡発掘調査成果展
(財)いわき市教育文化事業団	いわき市教育文化事業団 年報10、中山館跡Ⅲ区、白岩堀ノ内遺跡、下川子田横穴群、上ノ台遺跡、連郷B遺跡、根岸遺跡
会津若松市教育委員会	笹山原遺跡群発掘調査報告書3

【茨城県　08】	
(財)茨城県教育財団	研究ノート9号、年報19
ひたちなか市埋蔵文化財調査センター	ひたちなか埋文だより第10号～第12号、ひたちなか埋文だより第9号、三反田蜆塚貝塚、八幡ノ上遺跡発掘調査報告書
(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社	フィールドノートvol.12、見てみよう聞いてみよう！その7、武田石高遺跡 -奈良・平安時代編-、船窪Ⅲ
土浦市教育委員会	権現前遺跡
上高津貝塚ふるさと歴史の広場	古代霞ヶ浦事情 -常陸国府とその周辺-、上高津貝塚E地点、上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報 第6号、常設展示図録、弥生から古墳へ -時代の終わりとはじまり-
【栃木県　09】	
(財)栃木県文化振興事業団	研究紀要 第8号、栃木県埋蔵文化財地図、やまかいどうNo.24、辻の内遺跡・柿の内遺跡、下古館遺跡、杉村北遺跡、多功南原遺跡 -奈良・平安時代編-、那須官衙関連遺跡Ⅵ、那須官衙関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ、御霊前遺跡Ⅰ(第一分冊)、御霊前遺跡Ⅰ(第二分冊)、小丸山北遺跡・山苗代A遺跡、西物井遺跡、成願寺遺跡、伊勢崎Ⅱ遺跡(旧石器・縄文・弥生時代編)、杉村・磯岡・磯岡北
(財)とちぎ生涯学習文化財団	埋蔵文化財センター年報 第10号(平成12年度)、やまかいどうNo.25～No.26
栃木県教育委員会	栃木県埋蔵文化財保護行政年報22 -平成10年度-
小山市教育委員会	小山の文化財 第12号、小山市文化財保護調査年報5、留ノ台Ⅰ、留ノ台Ⅱ、小山添遺跡
佐野市教育委員会	佐野城跡(春日岡城)、四ツ道北遺跡Ⅰ・下林遺跡Ⅰ
足利市教育委員会	春日遺跡第1次発掘調査報告書、中日向13号墳発掘調査報告書、高松遺跡第二次発掘調査報告書、平成8年度文化財保護年報、平成九年度文化財保護年報、小俣川沿岸遺跡群発掘調査報告書、南大町遺跡大次発掘調査報告書、平成10年度文化財保護年報
【群馬県　10】	
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	遺跡に学ぶ 第14号、研究紀要18、年報 -19-、白井北中道Ⅱ遺跡・吹屋犬子塚遺跡・吹屋中原遺跡 第2冊、田篠塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋下遺跡・福島椿森遺跡、東長岡井戸口遺跡、三ツ子沢中遺跡、三ツ木皿沼遺跡、高浜向原遺跡・神戸宮山遺跡・神戸岩下遺跡、甘楽条里遺跡・福島椿森遺跡、乗附長坂遺跡・乗附中原遺跡、白井北中道遺跡
高崎市教育委員会	新編高崎市史 資料編2・資料編3
群馬県立歴史博物館	群馬県立歴史博物館紀要 第21号、群馬県立歴史博物館資料目録 民俗Ⅱ
【埼玉県　11】	
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	年報20、向原／相野谷、長沖古墳群、道合中／光明寺、道合高木前遺跡、戸張／中原、与野東遺跡、稲荷台遺跡、天神東遺跡、如意／如意南、浜平岩陰／入波沢西／入波沢東、太田貝塚、築道下遺跡Ⅲ、築道下遺跡Ⅳ、小沼耕地遺跡Ⅱ、上敷免北遺跡、金井遺跡B区Ⅱ、宮西遺跡、熊野／新田、上ノ宮遺跡、深作稲荷台遺跡、石神貝塚、下野田本村遺跡、海老島遺跡、堀東／城西Ⅱ
埼玉県立埋蔵文化財センター	埋文さいたま 第35号
所沢市立埋蔵文化財調査センター	所沢市立埋蔵文化財調査センター年報No.5、市内遺跡調査報告6、東の上遺跡 -第33次調査-、海谷遺跡 -第10次調査・遺構編-
川本町教育委員会	百済木 -くだらぎ-
飯能市教育委員会	飯能の遺跡(28)、飯能の遺跡(29)、大河原森下遺跡第1次調査
鶴ヶ島市教育委員会	お寺山遺跡0地点・内野氏屋敷発掘調査報告書、鶴ヶ島中学西遺跡第3次調査発掘調査報告書
春日部市教育委員会	花積台耕地遺跡4次、浜川戸遺跡11次、花積台耕地遺跡2次、大道東遺跡、立山遺跡2次・浜川戸遺跡15、22、23次・小渕山下北遺跡3次・塚内15号墳

さいたま川の博物館	かわはくNo.8、龍神
【千葉県　12】	
(財)印旛郡市文化財センター	フィールドブックvol.2～vol.7、財団法人印旛郡市文化財センター年報15 -平成10年度- ～年報16 -平成11年度-、大竹林畑遺跡、成田ビューカントリー倶楽部造成地内埋蔵文化財調査報告書(3)、大竹林畑遺跡、中沢野馬木戸遺跡、坂戸念仏塚西遺跡、吉見台遺跡A地点、天神台遺跡、萩原株木遺跡、萩原長原遺跡・狢谷塚群、榎戸小富遺跡、折立遺跡、岩富榎戸遺跡、向新田遺跡、吉見城跡、大畑Ⅰ-3遺跡
(財)山武郡市文化財センター	小野山田遺跡群Ⅰ-鉢ヶ谷遺跡-
(財)市原市文化財センター	市原市文化財センター年報 -平成8年度- ～ -平成9年度-、埋文いちはら6～10、能満上細工多遺跡・能満上新関遺跡・能満番面台遺跡・能満旧三山塚、市原市北野原遺跡、市原市小鳥向遺跡、市原市片又木遺跡Ⅱ、市原市姉崎東原遺跡C地点(2)、市原市畑木小谷遺跡・椎津茶ノ木遺跡(第2次)
(財)香取郡市文化財センター	事業報告Ⅸ -平成10年度-、織幡ササノ倉遺跡Ⅰ、仲台遺跡、竜谷城跡Ⅰ、地々免遺跡 -遺構編-、堀込Ⅱ遺跡、多古台遺跡群Ⅰ、向井内遺跡、中内原遺跡・北の内遺跡、青山甚太山遺跡
(財)東総文化財センター	東総文化財センター年報5、夏台遺跡、篠本城跡・城山遺跡
(財)千葉県文化財センター	千葉県文化財センター年報 No.24～No.25、房総の文化財vol.21～vol.23
(財)総南文化財センター	総南文化財センター年報 No.11
市川市教育委員会	東山王貝塚・イゴ塚貝塚、平成11年度市川市内遺跡発掘調査報告
野田市教育委員会	のだ文化財だより 第12号、平成11年度野田市内遺跡発掘調査報告
市原市教育委員会	平成11年度市原市内発掘調査報告
銚子市教育委員会	粟島台遺跡
芝山町教育委員会	平成11年度芝山町内遺跡発掘調査報告書
国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館研究年報8、国立歴史民俗博物館研究報告 第83集～第85集
千葉市立加曽利貝塚博物館	不知火の海と貝塚
東邦考古学研究会	東邦考古24
山武考古学研究所	山武考古学研究所年報No.18
【東京都　13】	
(財)東京都生涯学習文化財団	たまのよこやまNo.49～No.51、資料目録11、東京都埋蔵文化財センター研究論集XⅧ、東京都埋蔵文化財センター年報20、汐留遺跡、汐留遺跡Ⅱ、多摩ニュータウン遺跡 -No.247・248遺跡-、多摩ニュータウン遺跡 -No.939遺跡Ⅱ-、多摩ニュータウン遺跡 -No.339遺跡-、美山町赤根遺跡(C地区)、多摩ニュータウン遺跡、多摩ニュータウン遺跡、尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅴ、多摩ニュータウン遺跡、代継・富士見台・西龍ヶ崎遺跡、川口町十内入東遺跡、多摩ニュータウン遺跡 -No.520遺跡-、八王子市No.396遺跡
宮内庁	書陵部紀要 第51号、平成7年度陵墓関係調査概要、平成8年度陵墓関係調査概要ほか
文化庁	埋蔵文化財の本発掘調査に関する積算標準について(報告)
文京区教育委員会	平成11年度 文京区の文化財
北区教育委員会	赤羽台遺跡、中里貝塚2、中里貝塚、御殿前遺跡Ⅳ、中里峡上遺跡Ⅱ・田端西台通遺跡Ⅳ・田端不動坂遺跡Ⅳ・田端町遺跡Ⅱ
葛飾区教育委員会	古録天東遺跡Ⅴ、平成10年度　葛飾区埋蔵文化財調査年報、立石遺跡Ⅵ、立石遺跡Ⅶ
調布市郷土博物館	郷土博物館だよりNo.58、市川銕琅展、調布の文化財 第28号
港区立港郷土資料館	江戸前の海民 -芝・金杉浦の記憶-、港郷土資料館館報 -17-、港区文化財調査集録第5集、資料館だより 第42号、台場 -内海御台場の構造と築造-
明治大学考古学博物館	明治大学博物館図書目録 第2号、明治大学博物館図書目録 第3号
東京都立大学人文学部考古学研究室	人類誌情報2000
青山学院大学文学部史学研究室	青山史学 第十八号

早稲田大学図書館	古代107号～108号、弥生時代の早稲田ムラ
都立学校遺跡調査会	日影町遺跡Ⅲ-1
【神奈川県　14】	
横須賀市教育委員会	埋蔵文化財発掘調査概報集Ⅷ、内原遺跡
平塚市教育委員会	構之内遺跡発掘調査報告書、梶谷原Ａ遺跡他
藤沢市教育委員会	藤沢市文化財調査報告書第35集
平塚市真田・北金目遺跡調査会	平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書2
【富山県　16】	
(財)富山県文化振興財団	永代遺跡発掘調査レポート、富山考古学研究 第3号、埋蔵文化財調査概要 -平成11年度-、埋蔵文化財年報(11) -平成11年度-、開ほつ大滝遺跡・地崎遺跡発掘調査報告、北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告
富山県埋蔵文化財センター	縄文繚乱 -信越の花形土器たち-、富山県埋蔵文化財センター年報 -平成10年度-、埋文とやま 第71号～第74号
大島町教育委員会	水上・本開発遺跡、八塚Ｃ遺跡
大門町教育委員会	二口油免遺跡Ｂ地区発掘調査報告、二口油免遺跡発掘調査概要、本田宮田遺跡発掘調査報告、二口遺跡発掘調査報告(2)、二口油免遺跡第Ⅱ次発掘調査概報、安吉遺跡発掘調査報告、大門町布目沢地区埋蔵文化財発掘調査報告、二口油免遺跡第Ⅲ次Ａ地区発掘調査概報
【石川県　17】	
金沢市埋蔵文化財センター	金沢市内遺跡発掘調査報告書Ⅰ、正部・薬師遺跡、戸水大西遺跡Ⅰ、金沢市田上本町遺跡、田上西遺跡、神野遺跡Ⅰ、打木町東遺跡、上荒屋遺跡Ⅳ、平成11年度金沢市埋蔵文化財調査年報
七尾市教育委員会	能登国分寺跡発掘調査報告書
金沢大学文学部考古学研究室	金沢大学考古学紀要 第25号
金沢大学資料館	金沢大学資料館だよりNo.16
【福井県　18】	
福井市教育委員会	高柳遺跡、清水古墳群、鎗嶋山城跡、福井市三尾野古墳群発掘調査報告書
【山梨県　19】	
山梨県埋蔵文化財センター	研究紀要16、年報16 -平成11年度-、埋文やまなし 第6号～第7号、油田遺跡、大師東丹保遺跡Ⅱ・Ⅲ区、大師東丹保遺跡Ⅳ区、酒呑場遺跡(遺構編-前編)、大月遺跡第7・8次調査、南西田遺跡・西林遺跡・四ツ塚古墳群、南大浜遺跡、富士見一丁目遺跡、長峰砦跡、酒呑場遺跡(遺構編-後編)、桂野遺跡(第1～3次)・西馬鞭遺跡、大月遺跡(第10次調査)、横針前久遺跡・米山遺跡・横針中山遺跡、石橋北屋敷遺跡、安楽寺東遺跡、諏訪尻遺跡、宮沢中村遺跡、岩清水遺跡、二本柳遺跡、塩瀬下原遺跡
釈迦堂遺跡博物館	釈迦堂ニュース6～7、土偶 -森の女神に秘められた縄文の願い-
【長野県　20】	
(財)長野県埋蔵文化財センター	長野県埋蔵文化財センター紀要7～8、長野県埋蔵文化財センター年報15～16、国道403号土口バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書
上田市教育委員会	宮原遺跡Ⅱ、下田町遺跡Ⅱ、平成11年度市内遺跡発掘調査報告書
辰野町教育委員会	堀の内居館跡
松本市立考古博物館	平瀬遺跡Ⅱ、砂原遺跡Ⅱ、竹渕南原遺跡Ⅱ、芝沢遺跡Ⅰ・Ⅱ・南栗遺跡Ⅳ・Ⅴ、大輔原遺跡、出川南遺跡Ⅵ、出川南遺跡Ⅸ、平成10・11年度試掘調査報告書
長野県立歴史館	長野県立歴史館たよりvol.22 春号～vol.25 冬号
【岐阜県　21】	
(財)岐阜県文化財保護センター	きずな 第28号～第30号、南高野古墳・二ノ井遺跡・市場遺跡、船山北古墳群・船山北古窯跡群・船山北遺跡、いんべ遺跡、高畑遺跡、岩井谷遺跡、上ヶ平遺跡Ⅰ、岩垣内遺跡、戸入村平遺跡Ⅱ・小谷戸遺跡、砂行遺跡、野笹遺跡Ⅱ

各務原市埋蔵文化財調査センター	かかみがはらの埋文 第8号、各務原市文化財年報10、平成10年度各務原市市内遺跡発掘調査報告書
(財)岐阜市教育文化振興事業団	平成10・11年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書、千畳敷Ⅲ、下西郷一本松遺跡、岐阜城千畳敷遺跡井戸復元整備報告書、城之内遺跡(2分冊)
宮川村教育委員会	塩屋金清神社B地点発掘調査報告書、家ノ下遺跡発掘調査報告書、宮ノ前遺跡発掘調査報告書、杉原瑞穂遺跡発掘調査報告書
【静岡県　22】	
(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	研究所報No.84～No.88、静岡・清水平野の埋没古環境情報、静岡県埋蔵文化財調査研究所年報16、川合遺跡志保田地区、静清バイパス総括編、元島遺跡Ⅰ、元島遺跡Ⅰ(遺物考察編　中世)、押出シ遺跡(遺物編)、恒武西宮・西浦遺跡、池田B遺跡、大谷横穴群
磐田市埋蔵文化財センター	河原遺跡、大宝院廃寺遺跡 -第10・11次発掘調査報告書-、平成11年度大土居古墳群・匂坂上10遺跡
伊東市教育委員会	桜田遺跡
【愛知県　23】	
(財)愛知県埋蔵文化財センター	まいぶん愛知No.60～No.63
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 第8輯、平成11年度瀬戸市埋蔵文化財センター年報、列島に華開く大窯製品 -西日本の様相-、市内遺跡調査報告Ⅱ
南山大学人類学博物館	展示品目録1
安城市歴史博物館	安城市歴史博物館常設展示案内、顔のメッセージ、弥生の絵画　倭人の顔 -描かれた2000年前の世界-
名古屋市見晴台考古資料館	なごや考古年表Ⅱ、下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、見晴台教室'99、尾張元興寺跡 -第7次発掘調査の概要-、尾張元興寺跡第8次発掘調査報告書、名古屋市見晴台考古資料館年報17、名古屋市見晴台考古資料館研究紀要第2号、埋蔵文化財発掘調査報告書33、埋蔵文化財発掘調査報告書34、埋蔵文化財発掘調査報告書35
豊田市郷土資料館	しりょうかんだよりNo.1、豊田市郷土資料館だよりNo.31～No.35、岩長遺跡
名古屋大学文学部考古学研究室	考古資料ソフテックス写真集 第15集、名古屋大学文学部研究論集137
【三重県　24】	
三重県埋蔵文化財センター	みえNo.29～No.31、作る・造る・創る -三重の生産遺跡-
津市埋蔵文化財センター	埋文センターニュース 第11号～第12号、垂水A遺跡発掘調査報告、石切山遺跡(第1次・第2次)発掘調査報告、垂水城跡発掘調査報告
鈴鹿市教育委員会	伊勢国府跡、伊勢国府跡2、岸岡山Ⅲ遺跡
上野市教育委員会	上野市埋蔵文化財年報6
上野市遺跡調査会	中谷1号墳・中谷委発掘調査報告、上野城跡(2次)発掘調査報告
鈴鹿市考古博物館	摺絵 -型紙とやきもの-、石と人のくらし -美しさと機能をもとめて-、誕生 -縄文時代の母と子-、鈴鹿市考古博物館年報 第1号
【滋賀県　25】	
滋賀県埋蔵文化財センター	滋賀埋文ニュースNo.233号～No.247号、近江の鉄と銅 -ひとつ目のカミの呪力-
(財)栗東町文化体育振興事業団	栗東町埋蔵文化財発掘調査1998年度年報、栗東町埋蔵文化財発掘調査資料集1983年度
能登川町埋蔵文化財センター	能登川町埋蔵文化財調査報告書第49集
滋賀県教育委員会	20世紀近江発掘ベスト10、いにしえの近江再発見、上鈎遺跡、木曽遺跡、法光寺遺跡、観音寺城下町遺跡・上出B遺跡・老蘇遺跡、川合寺遺跡・建部下野遺跡、木曽遺跡、円城寺南遺跡、上出A遺跡・上出B遺跡、長野遺跡Ⅱ、西河原宮ノ内遺跡Ⅱ、柿田遺跡・東上坂遺跡、観音寺城跡、近江国府跡Ⅱ、襟遺跡、上平寺南館遺跡、屋中寺廃寺、粟津湖底遺跡 自然流路(粟津湖底遺跡Ⅲ)、粟津湖底遺跡 予備調査・南調査区(粟津湖底遺跡Ⅳ)、山賀遺跡

大津市教育委員会	坂本遺跡発掘調査報告書、北山田遺跡発掘調査報告書、史跡衣川廃寺跡整備事業報告書
滋賀県立安土城考古博物館	おおてみち 第31号～34号
滋賀県立琵琶湖博物館	うみんど 第14号～第17号
秦荘町歴史文化資料館	秦荘町・町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ、金剛輪寺遺跡発掘調査報告書Ⅱ、安孫子北遺跡、町内遺跡発掘調査報告Ⅴ、金剛輪寺遺跡発掘調査報告書Ⅲ
滋賀県安土城郭調査研究所	滋賀県安土城郭調査研究所年報1999年度
滋賀県立大学人間文化学部考古学研究室	人間文化 第8号～第9号
坂田郡社会教育研究会文化財部会	佐加太 第13号
【京都府　26】	
(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財情報 第75号～78号
(財)京都市埋蔵文化財研究所	研究紀要 第6号、平成10年度京都市埋蔵文化財調査概要
京都市埋蔵文化財調査センター	京都市内遺跡試掘調査概報 -平成11年度-、京都市内遺跡発掘調査概報 -平成11年度-、京都市内遺跡立会調査概報 -平成11年度-
(財)向日市埋蔵文化財センター	向日市埋蔵文化財調査報告書 第50集、都城10～都城12、長岡京跡ほか、芝ヶ本遺跡
綾部市教育委員会	綾部市文化財調査報告 第25集～第27集
京田辺市教育委員会	稲葉遺跡第4次発掘調査概報、二又遺跡・三山木遺跡発掘調査概報、薪遺跡発掘調査概報、新田遺跡第7次発掘調査概報
園部文化博物館	発掘された埋蔵銭 -中世の出土銭・銭の力 銭への想い-
綾部市資料館	綾部市資料館報 -平成7年度- ～ -平成9年度-、名探偵登場、色、DUST BOX
立命館大学文学部考古学コース	長野市宮崎遺跡
京都橘女子大学	Tachibana Being 第17号～第18号、文化財学科ニューズ・レターNo.4
(株)京都科学	ミュージアムワークスvol.7～vol.8
【大阪府　27】	
(財)東大阪市文化財協会	ビル建設に伴う宮ノ下遺跡第3次発掘調査報告書、瓜生堂・若江北・山賀遺跡発掘調査報告書、貝花遺跡第3次発掘調査報告書、岩滝山遺跡第6次発掘調査報告書、鬼虎川遺跡第25次発掘調査報告、鬼虎川遺跡第42次発掘調査報告、鬼虎川遺跡北部の中・近世耕作地跡、若江遺跡第65次発掘調査報告、神並遺跡発掘調査報告集、水走遺跡第4次発掘調査報告、西ノ辻遺跡 -第5次発掘調査概要報告書-、西ノ辻遺跡第17次発掘調査報告書、西ノ辻遺跡第32次発掘調査報告、西堤遺跡第5次発掘調査報告書、東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告、馬場川遺跡発掘調査報告書
(財)八尾市文化財調査研究会	平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告、財団法人八尾市文化財調査研究会報告64～66
(財)枚方市文化財研究調査会	ひらかた文化財だより第42号～第43号、継体大王とその時代、研究紀要 第5集
高槻市立埋蔵文化財調査センター	高槻市文化財年報 平成10年度、史跡・今城塚古墳 -平成10年度第2次規模確認調査-、史跡・今城塚古墳 -平成11年度規模確認調査-、嶋上遺跡群24、安満宮山古墳
堺市立埋蔵文化財センター	堺市文化財調査概要報告 第84冊～第90冊
(財)大阪府文化財調査研究センター	河内平野遺跡群の動態Ⅶ、河内平野遺跡群の動態Ⅷ、大阪府文化財調査研究センター年報 -平成11年度-、大阪府埋蔵文化財研究会(第41回)資料、大阪府埋蔵文化財研究会(第42回)資料、大阪文化財研究 第17号～第18号、大文研通信No.14～No.17、丹上遺跡(その7)・観音寺遺跡(その3)、池島・福万寺遺跡発掘調査概要ＸⅣ、池島・福万寺遺跡発掘調査概要ＸⅧ、池島・福万寺遺跡発掘調査概要ＸＸ、池島・福万寺遺跡発掘調査概要ＸＸⅠ、池島・福万寺遺跡発掘調査概要ＸＸⅡ、難波宮跡北西の発掘調査、日根野遺跡、真福寺遺跡、東奈良遺跡、観音寺遺跡、駒ヶ谷遺跡、井関・亀川遺跡発掘調査報告書、久保田遺跡発掘調査報告書、池島・福万寺遺跡1、溝咋遺跡、溝咋遺跡(その3・4)、河原城遺跡Ⅰ、大和川今池遺跡(その1・その2)、佐保栗栖山砦跡、椋谷石切場跡

豊中市教育委員会	文化財ニュース豊中No.27、荘園物語 -遠くて身近な中世の豊中-、上津島遺跡
枚方市教育委員会	枚方市埋蔵文化財発掘調査概要1999
羽曳野市教育委員会	古市遺跡群ＸＸＩ、羽曳野市内遺跡調査報告書 -平成8年度-
富田林市教育委員会	喜志南遺跡、佐備川西岸遺跡、中野北遺跡Ⅲ、中野北遺跡Ⅱ、平成11年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書
貝塚市教育委員会	貝塚寺内町遺跡発掘調査概要、東遺跡Ⅱ・新井ノ池遺跡発掘調査概要、海塚遺跡発掘調査概要
泉南市教育委員会	泉南市遺跡群発掘調査報告書ＸⅥ、泉南市遺跡群発掘調査報告書ＸⅦ
吹田市教育委員会	平成11年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報
大阪府立近つ飛鳥博物館	「古墳・飛鳥人になりきってみよう」実施報告書、大阪府立近つ飛鳥博物館 館報5、博物館だより-アスカディア・古墳の森vol.12～vol.13、発掘速報展大阪2001 -難波宮と大坂城-、残されたキャンバス -装飾古墳と壁画古墳
大阪市立博物館	大阪市立博物館報No.39
吹田市立博物館	むかしのくらしと学校、収蔵品展 -受け継がれてきた吹田の文化財-、吹田市文化財ニュースNo.21、農耕の風景 -摂津の四季耕作図-、博物館だよりNo.14～No.15
八尾市立歴史民俗資料館	研究紀要 第11号、辻合喜代太郎氏収集染織資料調査報告書、八尾市立歴史民俗資料館報 -平成9・10年度-、高田家文書（近世分）目録
大阪大学考古学研究室	今里大塚古墳第3次調査概要・井ノ内車塚古墳第3次調査概要、昼飯大塚古墳Ｖ第6次調査
【兵庫県　28】	
兵庫県教育庁埋蔵文化財調査事務所	ひょうごの遺跡 第35号～第38号、吉田南遺跡（足田地区）・北王子遺跡、勝雄経塚、砂入遺跡、北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ｖ、三田城跡発掘調査報告、高畑町遺跡（Ⅲ）、明石城跡Ⅲ、袴狭遺跡、北摂ニュータウン内遺跡発掘調査報告書Ⅵ、波毛遺跡・川添遺跡、外野波豆遺跡・外野柳遺跡発掘調査報告書、表山遺跡・池ノ内群集墳
妙見山麓遺跡調査会	大和川流域の遺跡群Ⅰ、大和川流域の遺跡群Ⅱ
神戸市教育委員会	ゆの山御てん、祇園遺跡　第5次発掘調査報告書、玉津田中遺跡発掘調査報告書、御蔵遺跡 -第8・9・10次調査-、若松町遺跡、勝雄遺跡Ⅰ、色彩の考古学 -「もの」から見た歴史の色-、神戸の古墳、南僧尾、白水遺跡第3・6・7次・高津橋大塚遺跡第1・2次発掘調査報告書、平成5～8年度神戸市遺跡現地説明会資料、平成9・10年度神戸市遺跡現地説明会資料、平成9年度神戸市埋蔵文化財年報
姫路市教育委員会	姫路市埋蔵文化財調査略報 -平成10年度-
三田市教育委員会	三田文化財情報平成11年度合冊号、三田焼の研究 -小西家寄贈土型資料調査報告書-
尼崎市教育委員会	尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成7年度（1）、尼崎市内遺跡復旧・復興事業に伴う発掘調査
姫路市立城郭研究室	城郭研究室年報vol.9
加東郡教育委員会	北野・黒深遺跡・北野・神田木遺跡、埋蔵文化財調査年報 -1999年度-
中町教育委員会	西安田長野遺跡群調査報告（Ⅱ）、巨大石室墳を掘る、思い出遺跡群Ⅱ、安坂・城の堀遺跡Ⅱ、曽賀井・野入遺跡Ⅰ・多哥寺遺跡Ⅲ
神戸市立博物館	研究紀要 第16号、博物館だよりNo.68～No.71
兵庫県立歴史博物館	兵庫歴博ニュースNo.70～No.71
赤穂市立歴史博物館	おもちゃde忠臣蔵、坂越の船祭り
播磨町郷土資料館	館報vol.11 -平成11年度-、埋もれた兵庫の遺宝
（財）辰馬考古資料館	考古学研究紀要3、古鏡の世界、銅鐸・銅剣・銅矛
【奈良県　29】	
奈良国立文化財研究所	信仰関連遺跡調査課程テキスト、埋蔵文化財ニュースNo.92 -遺跡整備関連文献目録-、埋蔵文化財ニュースNo.93 -出土有機質遺物保存処理の最近の動向-、埋蔵文化財ニュースNo.94 -遺跡復元整備事例集Ⅱ-、埋蔵文化財ニュースNo.95 -環

	境考古学1-、埋蔵文化財ニュースNo.96 -1998年度埋蔵文化財関係統計資料-、埋蔵文化財ニュースNo.97、埋蔵文化財ニュースNo.98 -遺跡探査実態調査-、埋蔵文化財ニュースNo.99 -年輪年代法の最新情報-、埋蔵文化財ニュースNo.100 -最近の調査研究成果-、埋蔵文化財ニュースNo.101 -古代地方官衙遺跡関係文献目録Ⅳ-、埋蔵文化財ニュースNo.102 -埋蔵文化財写真業務実態調査の結果(2000年版)-、埋蔵文化財ニュースNo.103 -1999年度埋蔵文化財関係統計資料-、埋蔵文化財ニュースNo.104 -「遺跡学をめざした遺跡の保存と活用に関する研究集会-、山内清男考古資料11・12
桜井市立埋蔵文化財センター	桜井市内埋蔵文化財1999年度発掘調査報告書1、大和の縄文時代 -奈良分地の狩人たちの足跡-、三輪山周辺の考古学
田原本町教育委員会	田原本2000発掘速報展vol.4、田原本町埋蔵文化財調査年報9 -1999年度-
榛原町教育委員会	榛原町埋蔵文化財発掘調査概要報告書1998年度
川西町教育委員会	島の山古墳
奈良大学文学部考古学研究室	文化財学報 第十七集～第十八集
天理大学文学部考古学研究室	考古学と民俗学のふれあい、古事 第4冊
天理大学附属天理参考館	天理参考館報 第13号
【和歌山県　30】	
(財)和歌山市文化体育振興事業団	史跡和歌山城第19次発掘調査概報、高井遺跡第2次発掘調査概報
【鳥取県　31】	
(財)鳥取県教育文化財団	岡益廃寺、年報 -1999-、古市遺跡群2、越敷山遺跡群 -荻名第3遺跡-、島古墳群・米里三ノ嵜遺跡・北尾釜谷遺跡、小浜千速遺跡・石脇第3遺跡森末地区 -2区・3区-、長谷古墳群・長和瀬谷田遺跡、青谷上寺地遺跡1、青谷上寺地遺跡2
(財)米子市教育文化事業団	石州府古墳群発掘調査報告書、日下古墳群発掘調査報告書、米子城跡2、陰田宮の谷遺跡4区・5区、米子城跡 第27次調査、青木稲場遺跡・福市遺跡(大成地区)、米子城跡　第29次調査、福市四ツ塚谷横穴墓
(財)鳥取市文化財団	円護寺坂ノ下遺跡、秋里遺跡、滝山猿懸平墳墓群、平成11年度鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書
倉吉市教育委員会	高峰遺跡・矢内谷峰遺跡発掘調査報告書、若林遺跡発掘調査報告書、クズマ遺跡第2次発掘調査報告書、福田寺遺跡第発掘調査報告書
鳥取県教育委員会	むきばんだ 弥生だよりNo.1、むきばんだをみんなで楽しもう
北条町教育委員会	町内遺跡発掘調査報告書 第9集
淀江町教育委員会	妻木晩田遺跡
大山町教育委員会	東黒牧上野遺跡G地区発掘調査概要
大山スイス村埋蔵文化財調査団	妻木晩田遺跡発掘調査報告
【島根県　32】	
島根県埋蔵文化財調査センター	かんどの流れ 第6号、かんどの流れ 特別号、ドキ土器まいぶんNo.9～No.12、益田養護学校建設に伴う大畑遺跡発掘調査報告、斐伊川放水路発掘物語PART6、平成11年度隠岐空港発掘だより増刊、埋蔵文化財調査センター年報Ⅷ-平成11年度-、神主城跡・室崎商店裏遺跡・古八幡付近遺跡・横路古墓、社日古墳、下山遺跡(1)、神原Ⅰ遺跡・神原Ⅱ遺跡、勝負廻Ⅰ遺跡・白石大谷Ⅱ遺跡・シトギ免遺跡・野津原Ⅱ遺跡・山守免遺跡・石地蔵遺跡、野津原Ⅱ遺跡(西区)・女夫岩遺跡西遺跡・城山遺跡、西川津遺跡Ⅶ、三田谷Ⅰ遺跡(vol.2)、三田谷Ⅰ遺跡(vol.3)、三田谷Ⅲ遺跡
松江市教育委員会	九日田遺跡発掘調査報告書
安来市教育委員会	岩屋遺跡、長曽土壙墓群・刎畑1号墳、潜戸谷遺跡
出雲市教育委員会	光明寺3号墓・4号墳、高岡遺跡、三田谷Ⅰ遺跡、出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集、西谷墳墓群、西谷墳墓群 -平成10年度発掘調査報告書-、浅柄遺跡、田畑遺跡、斐伊川放水路建設予定地内発掘調査報告書Ⅰ、小山遺跡
頓原町教育委員会	弓谷たたら

島根県立八雲立つ風土記の丘資料館	あなたの古代出雲は？ -そして21世紀へ-、八雲立つ風土記の丘No.160～No.164
島根大学埋蔵文化財調査研究センター	島根大学構内遺跡第2・4・8次調査(諸田地区1・2・3)
【岡山県　33】	
岡山県古代吉備文化財センター	所報吉備 第28号～第29号、北方地蔵遺跡2・北方薮ノ内遺跡、高塚遺跡・三手遺跡2、津島遺跡2、加茂東廃寺
津山弥生の里文化財センター	津山弥生の里 第7号、日上小深田遺跡、田邑丸山古墳群・田邑丸山遺跡、二宮岡東遺跡、押入兼田遺跡
岡山市埋蔵文化財センター	岡山市埋蔵文化財調査の概要 -1998年度-、岡山市立旭東幼稚園旧園舎復元報告書、造山第2号古墳、大供中道遺跡発掘調査概報、備中高松城三の丸跡発掘調査概報
岡山県教育委員会	岡山県埋蔵文化財報告30
井原市教育委員会	井原市の文化財
久世町教育委員会	五反廃寺
鏡野町教育委員会	葡萄田頭遺跡・槙之木峪古墳、薬師前遺跡、赤峪古墳
奥津町教育委員会	杉遺跡
勝北町教育委員会	西村古墳群
勝田町教育委員会	石ヶ坪遺跡
津山郷土博物館	国分寺 -天平時代の国家と仏教-、津山城だよりNo.3、博物館だよりNo.26～No.29、津山松平藩町奉行日記八
倉敷市立自然史博物館	自然史博物館だよりNo.37～No.41、倉敷市立自然史博物館研究報告 第15号、倉敷市立自然史博物館報7(平成7～8年度)、倉敷市立自然史博物館報8(平成9～10年度)、宇野確雄植物コレクション(9)
岡山県立美術館	美術館ニュースNo.48～No.51
岡山県立吉備路郷土館	吉備路郷土館だよりNo.23
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	岡山大学構内遺跡調査研究年報17 -1999年度-、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価・外部評価報告書、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第23号～第25号、福呂遺跡1 -第1・2次調査-
岡山理科大学　自然科学研究所	自然科学研究所研究報告 第25号
岡山理科大学	岡山理科大学紀要 第35号A、岡山理科大学紀要 第35号B、備前焼を科学する -窯はなぜ移動したか-
倉敷市史研究会	新修倉敷市史 第3巻近世(上)、倉敷の歴史 -倉敷市史紀要- 第10号
岡山県遺跡保護調査団事務局	調査団ニュース　第18号
高梁川の水と緑を守る会	高梁川流域の自然 第21号
倉敷の自然をまもる会	倉敷の自然 第70号
【広島県　34】	
(財)広島県埋蔵文化財調査センター	ひろしまの遺跡 第81号～第83号、研究輯録X、年報16 -平成11年度-、沖田1号遺跡発掘調査報告書、亀ノ尾第1号古墳発掘調査報告書、福富中学校裏古墳発掘調査報告書、迫田山遺跡発掘調査報告書、坂中組遺跡
(財)東広島市教育文化振興事業団	阿岐のまほろばvol.16～vol.19、文化財論究第1集、山崎2号遺跡発掘調査報告書、上泓遺跡・荒谷土居屋敷遺跡発掘調査報告書、史跡安芸国分寺跡発掘調査報告書Ⅱ、西本6号遺跡発掘調査報告書1
(財)広島市文化財団	平成11年度事業記録集、弥生ムラ誕生 -大開拓時代のひろしま-、歴史の扉 第7号、大町七九谷遺跡群、長尾遺跡
広島県教育委員会	いぶきNo.26～No.28、吉川元春館跡 -第5次発掘調査概要-
府中市教育委員会	府中市内遺跡5
福山市教育委員会	新立古墳、早戸東古墳
庄原市教育委員会	唐櫃古墳、和田原C地点遺跡発掘調査報告書、妙見山遺跡、郡原遺跡・永瀬遺跡
尾道市教育委員会	尾道遺跡 -市街地発掘調査概要- 1998、大想田山古墳

三原市教育委員会	美生古墳群、三原市内遺跡1、三原市内遺跡2
広島県立歴史民俗資料館	くらしと道の歴史 -中国山地の鉄・塩・銀の道-、歴風 第25号～第26号
広島大学文学部考古学研究室	帝釈峡遺跡群発掘調査室年報ＸⅢ、帝釈峡遺跡群発掘調査室年報ＸⅣ
【山口県　35】	
山口県埋蔵文化財センター	中津原遺跡、向田遺跡、赤迫遺跡（Ｃ地区）、新張遺跡、東禅寺・黒山遺跡Ⅴ、陶けん 第12号～13号
下関市教育委員会	伊倉遺跡、無多田遺跡、綾羅木郷遺跡
下関市立考古博物館	あやらぎ4号、下関市立考古博物館年報5 -平成11年度-、研究紀要 第4号、倭人、文字と出会う
【徳島県　36】	
(財)徳島県埋蔵文化財センター	四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告12、四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告13、土佐泊大谷遺跡、石井城ノ内遺跡・石井・神山線地区、マチ遺跡、金泉寺遺跡・川端遺跡
徳島市教育委員会	阿波国府跡発掘調査報告書、徳島市埋蔵文化財発掘調査概要9
徳島県教育委員会	黒谷川郡頭遺跡Ⅵ、勝瑞館跡
三好町教育委員会	円通寺遺跡（西内地区）・大柿遺跡
【香川県　37】	
(財)香川県埋蔵文化財調査センター	いにしえの讃岐 第28号～第29号、県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報、原中村遺跡、国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 -平成11年度-、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅷ、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成11年度、四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 -平成11年度-、松並・中所遺跡、西打遺跡Ⅰ、空港跡地遺跡Ⅳ、雄山古墳群、野牛古墳・末3号窯跡、鴨部・川田遺跡Ⅱ、川西北・原遺跡府中地区、金毘羅山遺跡Ⅰ・塔の山南遺跡・庵の谷遺跡
高松市教育委員会	一角遺跡、香西南西打遺跡、上西原遺跡、宮西・一角遺跡、川南・東遺跡
三木町教育委員会	西土居遺跡群
綾南町教育委員会	向原遺跡発掘調査報告書、田所深池窯跡
高松市歴史資料館	高松市歴史資料館年報No.6
【愛媛県　38】	
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	まいぶんえひめNo.27、愛比売 -平成11年度年報-、紀要愛比売 創刊号、住吉神社跡、史跡「松山城跡」内県民館跡地、新池遺跡・市場南組窯跡、湯築城跡、阿方遺跡・矢田八反坪遺跡、南高井遺跡・森松遺跡、道ヶ谷古墳・池の奥遺跡・平田七反地遺跡、一般国道196号今治北道路埋蔵文化財調査報告書
(財)松山市生涯学習振興財団	岩崎遺跡、太山寺経田遺跡 -1～5次調査-、古市遺跡・下苅屋遺跡、来住・久米地区の遺跡Ⅲ、大渕遺跡 -3次調査-
今治市教育委員会	宮ヶ崎山形遺跡、八町ヒル田遺跡、四村額ヶ内遺跡Ⅱ、高橋湯ノ窪遺跡Ⅱ、伊予国分尼寺遺跡、馬越和多知遺跡・矢田西之窪遺跡Ⅱ、石井国友遺跡、市内遺跡試掘確認調査報告書Ⅷ、市内遺跡試掘確認調査報告書Ⅸ
八幡浜市教育委員会	八幡浜元城跡
大西町教育委員会	博物館へいこうよ
松山市考古館	繚乱の時 -西部瀬戸内に咲いた、弥生の花-
【高知県　39】	
高知県教育委員会	埋文こうち 第13号
高知県立歴史民俗資料館	岡豊風日 第36号～第39号、高知県立歴史民俗資料館年報No.9 -平成11年度-
【福岡県　40】	
(財)北九州市教育文化事業団	紀要 -第14号-、埋蔵文化財調査室年報16、貫・丸尾遺跡、片野遺跡、脇田丸山遺跡2、高槻遺跡第9地点、高坊遺跡（第1次調査）、竪町遺跡第1地点、小倉城跡第3地点、高槻遺跡第10地点、上貫遺跡（C）3 3区、長野小西田遺跡、上横代遺跡、丸ノ内

	遺跡、北方遺跡、長野フンデ遺跡、丸ノ内南遺跡、行正遺跡
福岡市埋蔵文化財センター	福岡市埋蔵文化財センター年報　第18号 -平成10年度-、福岡市埋蔵文化財センター年報 第19号 -平成11年度-
久留米市埋蔵文化財センター	むかしむかしあるところに・・・、神道遺跡 -第18次調査-、筑後国府跡 -第162・164次調査報告-、鳥飼小学校校庭遺跡、木塚遺跡 -第5次調査-、今泉遺跡 -第5次調査-、金丸遺跡、平成11年度久留米市内遺跡群、筑後国府跡 -平成11年度発掘調査概要-、山川前田遺跡・国指定天然記念物水縄断層
福岡県教育委員会	福岡県埋蔵文化財発掘調査年報 -平成9年度-、上唐原了清遺跡Ⅱ、仁右衛門畑遺跡Ⅰ、船越高原Ａ遺跡Ⅰ、西新町遺跡Ⅱ
福岡市教育委員会	福岡市埋蔵文化財年報vol.13、香椎Ｂ遺跡、香椎Ａ遺跡2、部木古墳群、吉塚祝町1、箱崎9・比恵甕棺遺跡、堅粕4、博多69、博多70、博多71、博多72、博多73、博多74、上月隈遺跡群2、上月隈遺跡群3、雀居遺跡5、東比恵三丁目遺跡、東那珂4・鳥田1、那珂24、那珂25、板付周辺遺跡調査報告書 第21集、南八幡遺跡5、笹原2、麦野Ｃ遺跡、井尻Ｂ遺跡7、井尻Ｂ遺跡8、日佐遺跡、田島小松浦遺跡・田島Ａ遺跡、梅林遺跡 第1次調査、有田・小田部33、吉武遺跡群ＸⅡ、有田・小田部 第34集、入部Ｘ、内野遺跡、JR肥後線複線化地内遺跡埋蔵文化財調査報告書、周船寺遺跡群3、小田Ｃ遺跡、有田・小田部35、井相田Ｃ遺跡5、那珂26
鞍手町教育委員会	古文遺跡群
津屋崎町教育委員会	勝浦
大刀洗町教育委員会	大刀洗飛行場燃料庫、西森田遺跡2、甲条神社遺跡Ⅱ
北九州市立考古博物館	考古学が語る古代の企救
九州歴史資料館	九州歴史資料館年報 -平成11年度-、九歴だよりNo.11
芦屋町歴史民俗資料館	芦屋町歴史民俗資料館年報　第1号、金台寺過去帳
伊都歴史資料館	平原遺跡
【佐賀県　41】	
佐賀市教育委員会	若宮遺跡、村徳永遺跡、森田遺跡Ⅱ、増田遺跡群Ⅳ、若宮遺跡3区・4区、佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 -1995・1996年度-、薬師森遺跡2区・筑州遺跡1区、上九郎遺跡Ⅰ、上和泉遺跡12区・原ノ町遺跡4区、古村遺跡4区、徳永遺跡4・5・6区
神埼町教育委員会	的小渕遺跡、本告牟田遺跡O・I区、姉川城跡、利田柳遺跡、尾崎土生遺跡
佐賀県立博物館	佐賀県立博物館・美術館報No.124、調査研究書［第24集］
【長崎県　42】	
長崎県教育委員会	三遺跡交流こどもフォーラム記録集、姉妹遺跡
【熊本県　43】	
宇土市教育委員会	小西行長公没後400年記念事業資料集、宇土城跡（西岡台）Ⅲ
不知火町教育委員会	塚原平古墳
【大分県　44】	
佐伯市教育委員会	佐伯城下町遺跡
千歳村教育委員会	五郎丸近世墓地群、大迫遺跡徳原地区・原田第2遺跡原地区
大分県立歴史博物館	おおいた歴博No.7
【宮崎県　45】	
高岡町教育委員会	学頭遺跡、高岡町内遺跡Ⅵ
【鹿児島県　46】	
鹿児島県立埋蔵文化財センター	小中原遺跡、北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書（Ⅶ）、北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書（Ⅷ）、浅川牧（Ⅰ・Ⅱ）遺跡、保養院遺跡、本御内遺跡（舞鶴城跡）、小牧３Ａ遺跡・岩本遺跡、東田遺跡、一湊松山遺跡、浜町遺跡、沖田岩戸遺跡、上野原遺跡（第10地点）
出水市教育委員会	出水貝塚

【沖縄県　47】	
沖縄市立郷土博物館	馬上原遺跡
【個人・その他】	
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会	公立埋文協会報 第24号～第25号
全国埋蔵文化財法人連絡協議会	全国埋文協会報No.54～No.56

附編1

山本慶一氏寄贈の資料Ⅱ

藤 原 好 二

1.はじめに

先回にひきつづき、山本慶一氏が倉敷埋蔵文化財センターに寄贈された資料を紹介する。今回は備讃瀬戸の海底から引き揚げられた蛸壺を中心とし、その他の考古資料も併せて紹介することとする。

2.備讃瀬戸海底採集の蛸壺

蛸壺には飯蛸壺と真蛸壺があり、他に蛸壺を模倣したとされるミニチュアの壺が3点ある。これらの資料は以前、山本氏によって「物質文化」誌上で紹介されたものである(1)。その後、特に飯蛸壺の研究は東瀬戸内を中心に盛んとなり、出土資料による編年も確立されてきている(2)。しかし中部瀬戸内のこの地域では良好な出土資料による編年はまだまだの状況である。また、真蛸壺についてもとくに香川県側で出土資料が知られてきており、編年の試みもなされてきている(3)が、資料が限られているため、十分なものではない。

本資料は海から引き揚げられたものということで編年のための資料としては利用できないが、実際の使用状況を考えるには良好な資料である。しかし出土資料による編年が十分でない現状ではそれにも限界があろう。今後の資料の増加とそれに伴う研究の深化を期待し、今回は以前公表された資料について若干の追加資料とともに再実測を行い、文末に計測表を掲載するにとどめることとする。

飯蛸壺

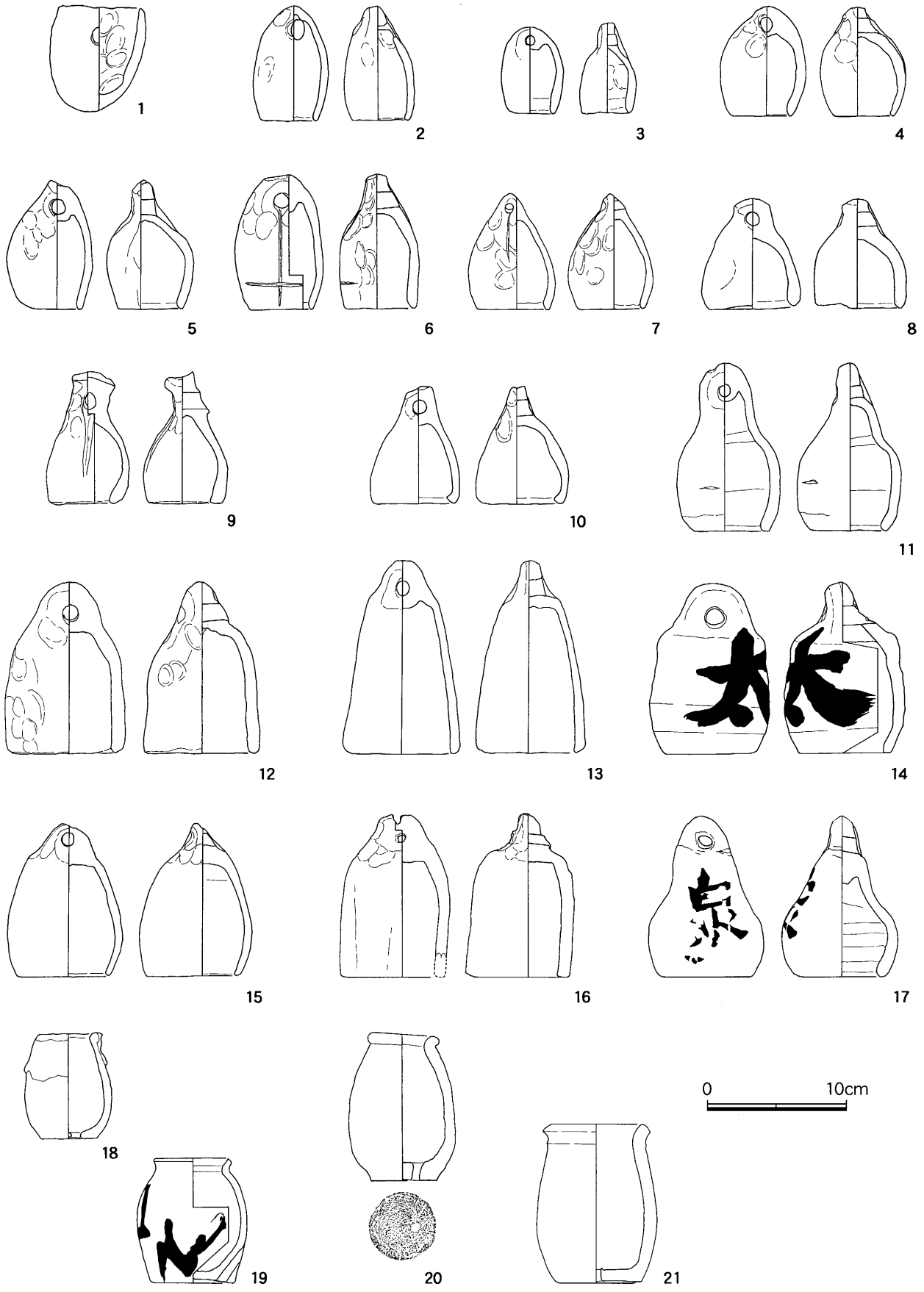
山本氏が「物質文化」誌に公表したものを中心に21点を図化した。「物質文化」誌(1)の中では、成形、吊り手部及び胴部の形態などによって14のタイプに分類されているが、中間的な形態も多く、この分類をそのまま利用するのは困難である。そこで今回は真野修氏の形態分類(2)を利用することとする。また、さらに真野氏の第Ⅲ形態の細分としては大久保徹也氏の分類(3)を一部利用し、吊り手部の溝の有無で分類することとする。

1はコップ型で胴に一孔のある第Ⅰ形態のものである。この形態は5点が確認できる。弥生時代中期から古墳時代にかけてのものとされるが、備讃瀬戸地域では、出土資料にもあまり確認できないようである。

コップ形で胴と底部に一孔づつの第Ⅱ形態は1点もみられない。

最も多いのは釣鐘型の第Ⅲ形態で200個体がある。古墳時代後期以降にみられるもので、16点を図化した。内容積の違いから、2～10の小・中型品と、11～17のような大型品に分けられる。

小・中型品について大久保氏は第Ⅲ形態を吊り手部の製作方法で①・②・③の3つに分類されてい



飯蛸壺（S＝1/4）

るが、このうち①・②についてはやはり境界が曖昧ではないかと考える。そこで本稿では計測表の作成にあたって次のように分類することとした。

まず1のように尖底のコップ状の底に横から穿孔を行っただけで、吊り手部を柱状に造り出したり、押し潰したりしないものを、a形態とする。

次にコップ状の底部を押し潰して横から穿孔して吊り手部とする、大久保氏の①・②に該当するもののうち、吊り手部頂部に孔と直交する形で溝のあるものをb形態(3～5)、ないものをc形態(6)とする。

最後に体頂部に中実の方柱形を造り出し、その部分に横から穿孔して吊り手部とする、大久保氏の③に該当するもののうち、やはり吊り手部頂部に孔と直交する形で溝のあるものをd形態(7・8)、ないものをe形態(9・10)とした。

その結果、a形態は4個体、b形態は67個体、c形態は26個体、d形態は23個体、e形態は73個体となった。溝の有無は吊り手部への紐の掛け方によるものではないかと考えられるが、詳細は不明である。また、この分類にはたして意味があるのかどうかは今後の研究の進展に期待したい。

大型品については、ロクロ成形(11・14・15・17)や板造り(12・13・16?)である。吊り手部はコップ状の底部を押しつぶして横から穿孔しているようである。16の吊り手部には穿孔と平行する溝が刻まれている。小・中型品と異なり、胴部に線刻の入ったものはないが、「太」「泉」「西浜」などの文字が書かれたものがある。近世から現代にかけての時期に属するとされている。

さらに通常の壺形の底部に穿孔した形態が11点あり、4点を図化した。18は素焼きで口頸部にセメントが塗られている。底部には「せ」の墨書がみられる。19は磁器で、他と異なり側部から底部に向けて穿孔が行われている。胴部から底部にかけて墨書がみられるが、判読不能である。20は備前焼のようで底部は糸切りで釉薬がかかっているようである。21は鑞鋳型造り、素焼きの製品である。これらはほとんどが最近まで使用されていたもののようであるが、鷲羽山で土産物として売られていたものも含まれているようである。

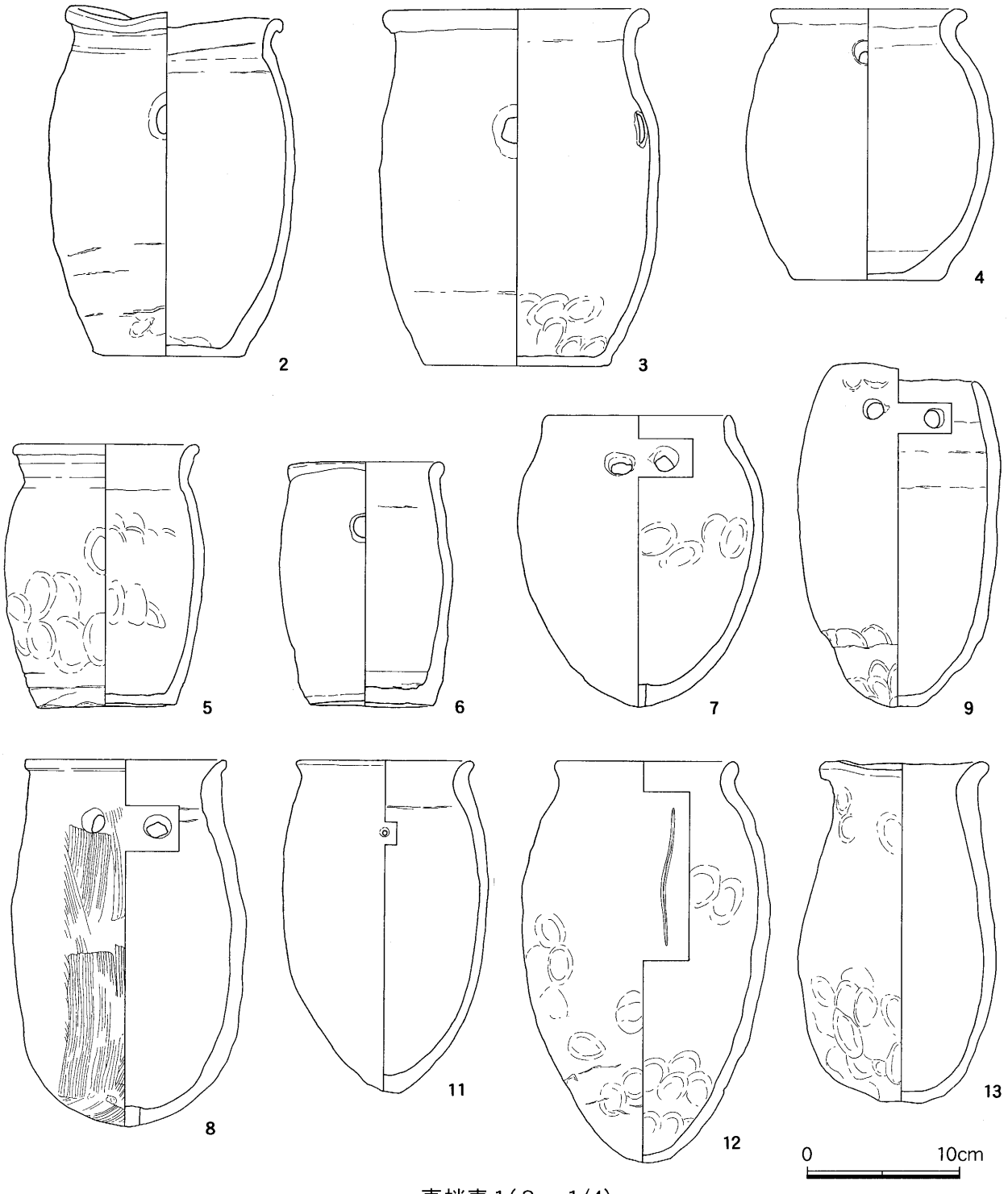
真蛸壺

60点あり、「物質文化」誌掲載の21点を再実測した(本稿掲載番号は「物質文化」掲載番号と同一)。「物質文化」誌[1]には25点が掲載されているが、このうち4点は当センター寄贈資料の中に確認できない。

形態はさまざまで、カキ殻の付着や風化のために器表面の調整の観察が困難なものが多い。大部分は指頭圧痕が残る粗製のものであるが、中にハケメを施すもの(8・18・21)や格子目叩きを持つもの(16)も見られる。兵庫県神戸市の玉津田中遺跡[4]などからは胴部と底部に一孔づつの形態が出土しているが、当資料の中には確認できない。

2～6は平底で、2が二孔を穿つ以外は一孔を胴部に持つものである。いずれも口縁部が玉縁状を呈している。近世から現代にかけて使用されている形態である。

7～9・13・15～20・22は丸底で、このうち7～9は胴部上方に二孔を穿ち、8は底部にも孔が開

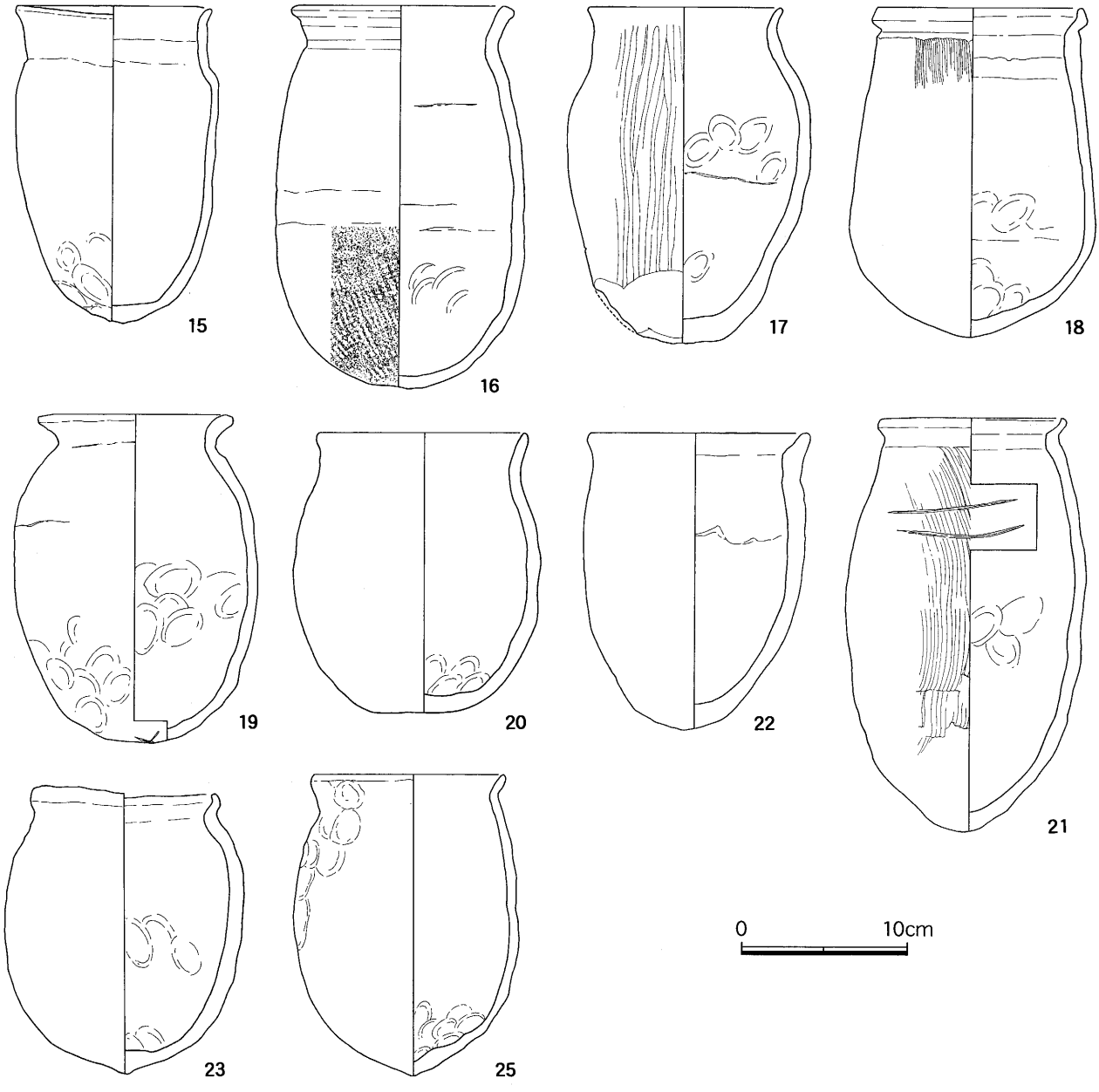


真蛸壺1(S＝1/4)

けられている。9は底部と胴部を別々に製作し、接合しているようである。13は香川県下川津遺跡[3]に類例がみられ、7世紀後半以後とされている。19は底部に×の線刻が刻まれている。22はかなり厚手で焼成もあまい。

11・12・21は尖底である。11は胴部上方に小孔を穿つが、これは紐を掛けるためのものとしては小さすぎるのではないだろうか。12は胴部に縦に1本、21は横に2本の線刻が刻まれている。

23・25の底部は乳房状に突出している。25も香川県下川津遺跡[3]で類例が見られ、平安時代のも



真蛸壺2（S＝1/4）

のとされている。

3.その他の資料

その他の資料としては児島を中心とした遺跡の採集資料がある。正確な採集地点の不明なものが多いのが残念だが、その内訳は末尾の表に示したとおりである。主なものを図示した[5]。

土器・陶器

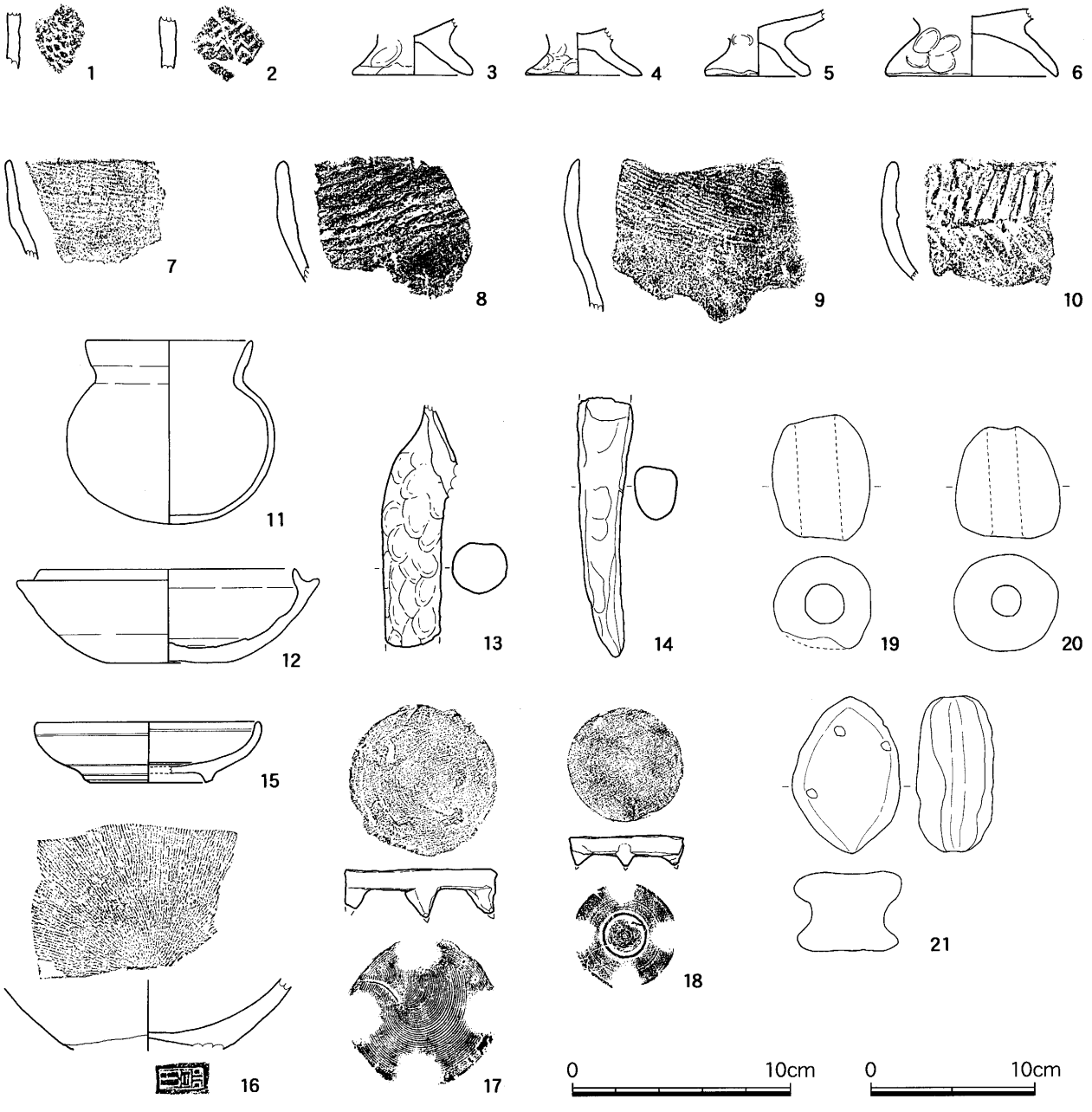
1・2は縄文時代早期の押型文土器で、鷲羽山遺跡採集のものである。1は外面に楕円文が施されている。楕円の粒子は4×2.5㎜くらいである。色調はにぶい赤褐色である。内面は不明である。2は外面に山形文が施されている。色調は外面がにぶい赤褐色で内面は橙色である。1・2ともに胎土には1㎜以下の石英粒を含む。

3～6は採集地不詳の製塩土器の脚である。いずれも指頭圧痕が顕著で、5の胴部には約5㎜単位の平行タタキが認められる。内面はナデで仕上げられている。6は径が約8㎝とやや大きめである。弥生時代末期から古墳時代初頭のものと考えられる。

7～10は採集地不詳、古墳時代後期の製塩土器である。いずれも口縁部分の破片で、褐色から赤褐色を呈する。外面調整は、7が細かい格子目状のタタキ、8は並行タタキ、9はハケメ、10は矢羽文のタタキである。内面はすべてナデ調整である。

11は下津井沖の海底から引き上げられた小型丸底壺である[6]。径9.5㎝、高さ8.4㎝。表面の風化が著しいが、器形から古墳時代前期のものと考えられる。

12は須恵器の蓋坏である。採集地は不明である。底部は平坦で、口径は11.6㎝、直径13.8㎝、高



土器・陶器（S＝1/3・土錘は1/4）

さ4.3cm、調整は底部外面がヘラケズリ、その他は回転ナデである。轆轤の回転方向は時計回りである。

13・14はやはり採集地不明の土鍋の脚である。13は灰白色、14は赤褐色を呈し、全面に指頭圧痕が残っている。

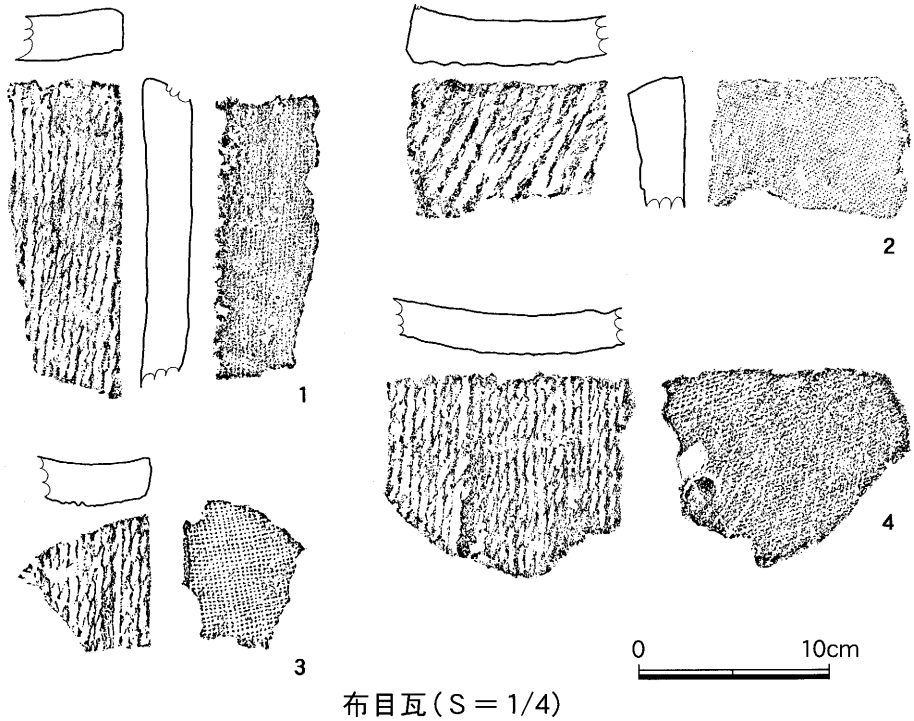
15～18は宇野津焼である。宇野津焼は江戸時代に倉敷市児島宇野津の大庄屋梶田伝左衛門・藤左衛門父子によって焼かれた京焼系の焼き物で、現在も窯跡が残っている。15は小皿で復元径10.4cm、高さ2.8cm、内外面に3本づつオリーブ灰色の圏線が描かれており、浅黄色の釉薬がかかっている。16は擂鉢の破片である。内面はにぶい赤褐色で細かい擂り目が施される。外面は暗オリーブ色で乳白色の釉がかかる。高台は欠けてしまっているが、底部には印が押されているが判読できない。17・18は重ね焼きする際に使われる円盤状の窯道具である。図示したものは円盤に四個の脚のつくものであるが、脚のないものもある。脚端部は器体に溶着するため、取り外しの衝撃によっていずれも欠損している。17は直径7.0cm、高さ2.2cm、色調は灰黄褐色で、上下両面には円盤を切り取る際の糸切り痕が残っている。脚は後に貼り付けたものである。18は直径5.2cm、高さ1.3cm、色調は鈍い橙色で上面に指オサエ痕が残っており、脚を含めて型づくりであることがわかる。

19～21は備讃瀬戸海底から採集された土錘である。19・20は大型の管状土錘である。19は長さ7.6cm、径5.9cm、孔径2.4cm、重量216.3g、20は長さ6.7cm、径6.3cm、孔径1.8cm、重量238.9gである。21は有溝土錘で長さ9.6cm、幅6.6cm、厚さ4.7cm、重量286.6gである。

瓦

いずれも古代のものと考えられる。1・2は児島稗田町の正面山に所在する正面宮奥社の南斜面で採集されたものある[7]。いずれも凸面は縄目タタキ、凹面はガーゼ状の布目である。1は器面は青灰色、断面は灰色で、胎土生地は微粒で石英・長石を多く含んでいる。2は器面・断面ともに灰白色で、胎土生地は微粒、やや流状を呈し石英・長石を多く含んでいる。

3・4は採集地不詳であるが、正面山採集のものとよく似ておりあるいは同一地点で採集されたものかもしれない。やはりいずれも凸面は縄目タタキ、凹面はガーゼ状の布



布目瓦（S＝1/4）

目である。3は器面は青灰色、断面は白色で、胎土生地は微粒である。4は器面・断面ともに灰白色で、胎土生地は微粒で石英を多く含んでいる。

石器

1～3はナイフ形石器である。いずれもサヌカイト製でかなり小型のものである。1は櫃石島ほうろく岩(花見山遺跡)採集で、背面はポジティブ面・ネガティブ面各1面、腹面はポジティブ面1面で構成されている。調整は一側縁のみ腹面側から行われている。2は児島田の口丸山採集で、背面はポジティブ面・ネガティブ面各1面、腹面はポジティブ面1面で構成されている。調整は一側縁のみ基部に数枚の剥離が行われている。3は玉野市出崎で採集されたものである。背面はポジティブ面・ネガティブ面各1面、腹面はポジティブ面1面で構成されている。調整は一側縁のみ腹面側から行われている。

4はナイフ形石器と同様の加工を施した製品である。背面はネガティブ面2面、腹面はポジティブ面1面で構成され、調整は一側縁のみ腹面側から行われている。反対側の側縁には礫面を残し、先端部には数枚の剥離が行われており、あるいは彫器の未製品かもしれない。

5～15は石鏃である。10が石英製である他はすべてサヌカイト製である。5～7が平基鏃で、8～14は凹基鏃である。5・14が王子が岳裏山採集、7が福林湖下の池採集、15が櫃石島ほうろく岩(花見山遺跡)採集、6・8・9が釜島採集、10が玉野市出崎採集、11～13の採集地点は不明である。

16は釜島採集で、サヌカイト製の尖頭器と考えられる。レンズ状の断面を呈し、下半部を欠失している。

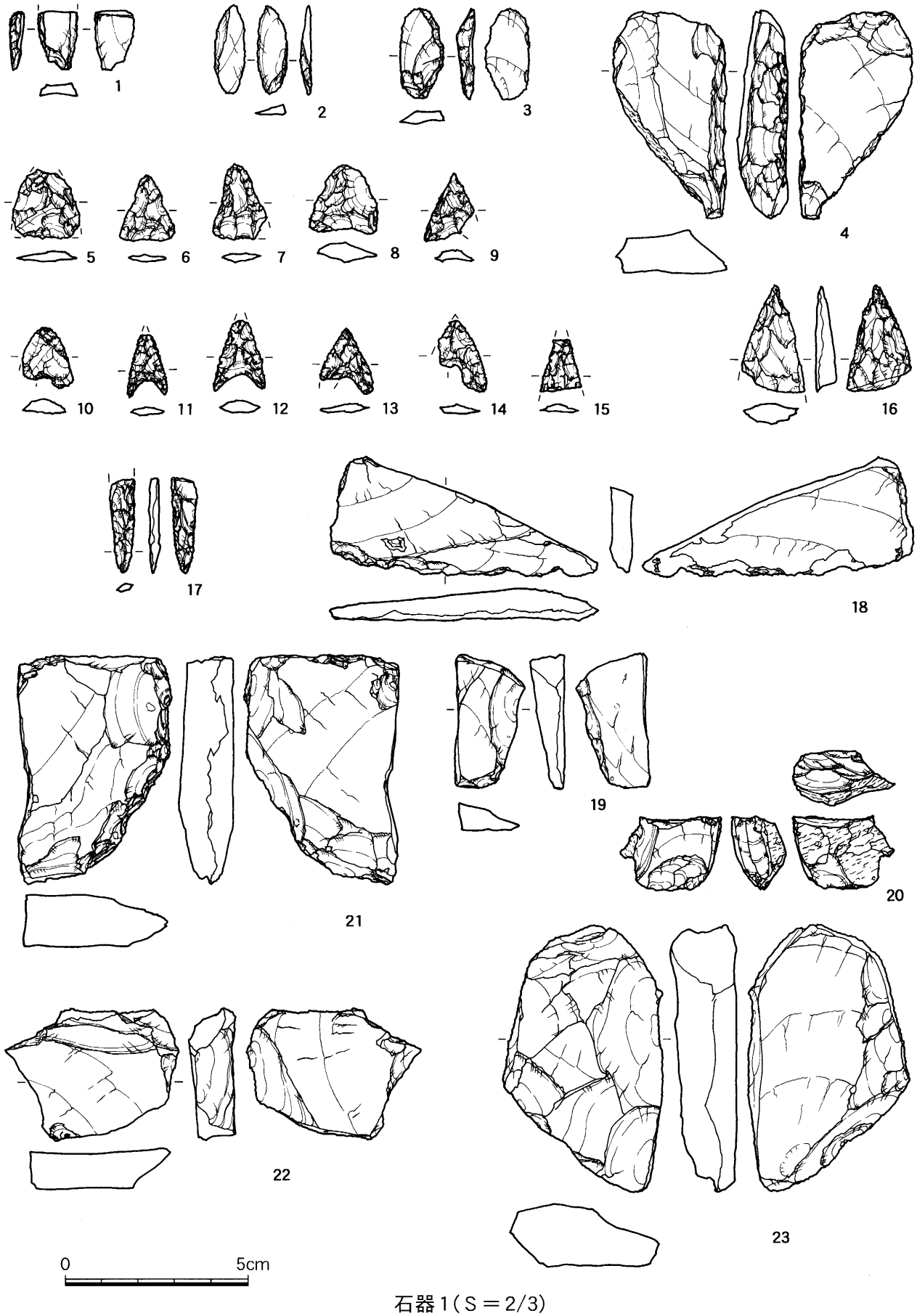
17は福林湖下の池採集のサヌカイト製石錐である。頭部を欠失している。錐部は扁平な断面である。

18・19はサヌカイト製スクレイパーである。18は釜島採集で、欠損が著しいため、本来の形状は不明である。あるいは石包丁の断片であるかもしれない。19は櫃石島ほうろく岩(花見山遺跡)で採集されたものである。刃部は両面調整で形成されている。

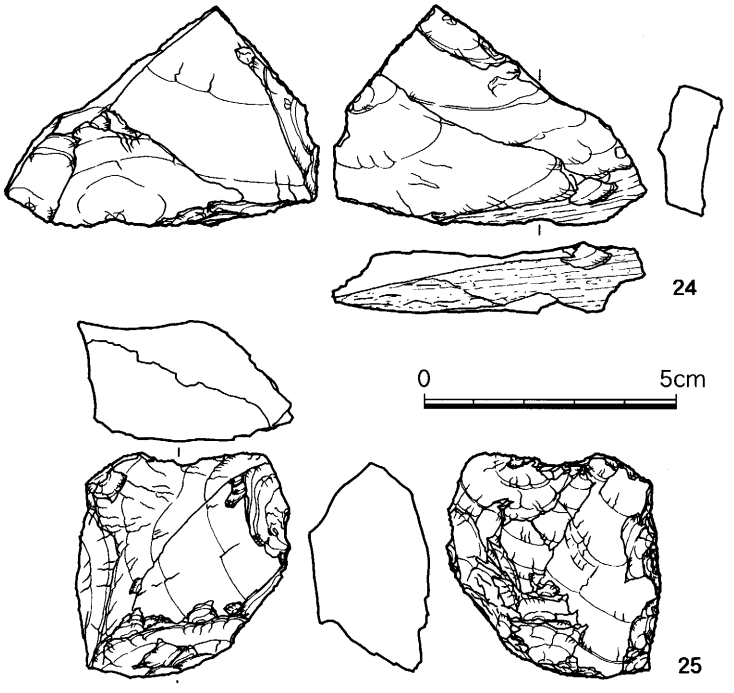
20は釜島採集のハリ質安山岩製細石核である。打面長2.24㎝、打面幅1.20㎝、作業面長1.92㎝、作業面幅0.93㎝、重量7.3gである。形態は楔状を呈し、剥片を素材としている。側面観は四角形であり、左側面は素材の腹面、右側面は原礫面を残しており、下部から石核調整が行われている。作業面は左

石器計測表

番号	器種	石材	採　集　地	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)
1	Kn	An	櫃石島ほうろく岩	(1.59)	1.08	0.35	0.7
2	Kn	An	田の口丸山	2.39	0.87	0.29	0.6
3	Kn	An	出崎	2.45	1.23	0.42	1.3
4	Kn?	An	櫃石島ほうろく岩	5.67	3.08	1.36	25.0
5	AH	An	王子が岳裏山	(1.86)	(1.83)	0.31	1.0
6	AH	An	釜島	1.80	1.51	0.25	0.6
7	AH	An	福林湖下の池	2.05	(1.54)	0.25	0.7
8	AH	An	釜島	1.87	1.85	0.55	1.7
9	AH	An	釜島	1.79	(1.40)	0.32	0.6
10	AH	RC	出崎	1.66	(1.38)	0.43	0.9
11	AH	An	不明	(1.65)	1.11	0.23	0.3
12	AH	An	不明	(1.85)	1.43	0.33	0.7
13	AH	An	不明	1.83	(1.49)	0.24	0.4
14	AH	An	王子が岳裏山	2.08	(1.63)	0.26	0.5
15	AH	An	櫃石島ほうろく岩	(1.43)	(1.12)	0.27	0.4
16	Pt	An	釜島	(2.85)	1.81	0.55	2.3
17	SW	An	福林湖下の池	(2.57)	0.72	0.26	0.5
18	S	An	釜島	(2.93)	(7.40)	0.80	15.4
19	S	An	櫃石島ほうろく岩	3.54	1.93	0.89	6.4
20	MCr	An	釜島	-	-	-	7.3
21	Cr	An	釜島	4.23	6.14	1.48	54.6
22	Cr	An	釜島	4.68	4.24	1.20	26.0
23	Cr	An	釜島	4.56	7.32	1.73	64.0
24	Cr	An	櫃石島ほうろく岩	4.34	6.17	1.26	32.3
25	Cr	An	出崎	4.43	4.65	2.29	52.



石器1(S＝2/3)



石器2(S＝2/3)

側面からの調整が行われている。作業面には4枚の細石刃剥離痕が残されている。

21～25はサヌカイト製の石核である。24が櫃石島ほうろく岩(花見山遺跡)採集、21～23が釜島採集、25が玉野市出崎採集である。21～24は板状の剥片素材から横長に近い剥片を剥離している。25は不定形剥片石核で、周縁部のつぶれが著しい。

4.おわりに

本稿をもって山本慶一氏より倉敷埋蔵文化財センターに御寄贈いただいた考古資料の紹介をひとまず締めくくりとしたい。氏の蒐集された資料は考古資料ばかりではなく、民俗資料・化石などさまざまな分野に渡り、倉敷考古館・自然史博物館などに保管されている。これまで多くの機会に紹介されているが[9]、その全貌がわかりにくいのがやや残念である。

今回紹介した資料の中で、飯蛸壺は古墳時代から使用されていたⅢ形態の小・中型品が、大型品に代わる時期、あるいはⅢ形態の大型品が通常の壺形に代わる時期、それぞれの要因など今後の研究の余地が多分に残された分野であろう。真蛸壺についても同様である。今後、民俗学的な調査と併せて研究の進展に期待したい。

註

(1) 山本慶一　「備讃瀬戸海域より引揚げられる古式タコ壺について」『物質文化』14　物質文化研究会　1969

(2) 真野　修　「原始・古代の飯蛸壺縄漁の検討」『神戸古代史』8　1989

(3) 大久保徹也　「第7節　蛸壺および蛸壺焼成土坑」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』Ⅶ　香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団　1990

(4) 兵庫県教育委員会『玉津田中遺跡一第6分冊一(総括編)』兵庫県文化財調査報告　第135-6冊　1996

(5) 本島向笠島周辺の干潟で採集された遺物については、風化が著しいため図化は見送った。また、収蔵番号No.261～301は倉敷市児島の前山遺跡・菰池遺跡などから出土した遺物の写真であるため割愛した。

(6) 真鍋篤行　「瀬戸内海における海あがり考古資料調査報告」『瀬戸内海歴史民俗資料館紀要Ⅴ』　1990に掲載。この他にも山本慶一氏所蔵資料として9点の土器が掲載されている。

(7) 多和和彦　「正面宮の古瓦と伝承」『児島風土記』倉敷の自然をまもる会　1982

(8) 山本慶一　「鷲羽山遺跡の石器と土器」『倉敷考古館研究集報』第6集　1969
倉敷市立自然史博物館『備讃瀬戸海底産出の脊椎動物化石　山本コレクション調査報告Ⅰ』　1988

(9) 前注(1)・(6)・(8)

飯蛸壺計測表

収蔵番号	掲載番号	高(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)	真野分類	Ⅲ細分	成形	備考	旧番号
1	3	6.4	4.6	0.67	62.1	Ⅰ	b			
2		6.7	5.9	0.66	94.0	Ⅲ	b			
3	4	7.8	6.3	0.81	147.3	Ⅲ	b			36
4	10	8.4	6.6	1.01	131.7	Ⅲ	e			33
5		7.5	5.9	0.85	123.3	Ⅲ	b		一文字線刻 六口島大首遺跡採集	
6	6	9.5	6.5	1.07	179.4	Ⅲ	c		十文字線刻	34
7	5	9.2	6.4	1.05	127.8	Ⅲ	b		縦一文字線刻 六口島大首遺跡採集	37
8	8	8.0	7.1	0.93	157.3	Ⅲ	d		六口島大首遺跡採集	38
9		10.5	6.5	0.91	178.7	Ⅲ	e			
10		6.1	5.9	1.05	101.9	Ⅰ				
11		7.8	6.7	0.73	144.1	Ⅰ				
12	1	7.5	7.1	0.94	170.7	Ⅰ				39
13		8.0	6.2	1.10	152.2	Ⅰ				
14	18	7.6	6.2	0.67	151.8			ロ		28
15		7.7	6.4	0.93	176.0	Ⅰ				
16	11	11.9	7.6	0.91	253.2	Ⅲ		ロ		29
17	12	12.2	8.6	1.07	376.5	Ⅲ		板		30
18	14	12.4	8.6	1.38	405.2	Ⅲ		ロ	現代・「太」墨書	
19	15	11.1	8.4	1.14	247.8	Ⅲ		ロ	現代・小豆島	
20	17	11.5	8.4	0.85	301.3	Ⅲ		ロ	「泉」「西浜」墨書	
21		6.2	9.0	0.55	152.7				貝製・現代(下津井)	
22	13	14.4	8.5	1.05	315.5	Ⅲ		板	近世?	31
23	21	11.5	8.6	0.52	426.3			型	型作り・現代?	
46		8.8	5.7	1.03	148.4	Ⅲ	e			
47		8.5	5.9	0.96	167.6	Ⅲ	d			
48		9.6	6.2	0.94	157.7	Ⅲ	c			
49		9.2	5.9	0.71	148.9	Ⅲ	d			
50		9.9	7.1	0.88	199.3	Ⅲ	c			
51		9.1	7.9	1.10	203.5	Ⅲ	c			
52		10.1	6.4	1.07	232.1	Ⅲ	e			
53		7.2	5.4	0.74	107.2	Ⅲ	b			
54		9.2	6.1	0.93	165.0	Ⅲ	b			
55		8.7	5.6	1.00	152.1	Ⅲ	e			
56	2	8.2	5.5	1.10	94.3	Ⅲ	a			
57		7.9	5.2	0.94	79.5	Ⅲ	b			
58		5.4	5.9	0.88	142.3	Ⅲ	b			
59		8.2	6.1	0.56	134.7	Ⅲ	b			
60		9.6	5.7	1.12	137.2	Ⅲ	e			
61		9.4	5.7	1.01	131.5	Ⅲ	b		「レ」状線刻	
62		8.5	7.1	1.24	141.3	Ⅲ	b			
63		9.2	6.1	0.80	151.4	Ⅲ	e			
64		9.4	5.9	0.97	161.8	Ⅲ	e			
65		8.1	6.3	0.92	178.5	Ⅲ	b			
66		8.8	5.0	0.73	99.7	Ⅲ	b			
67		7.0	5.6	0.66	69.2	Ⅲ	b		縦一文字線刻	
68		9.2	6.6	0.94	213.2	Ⅲ	e			
69		6.2	5.4	0.76	76.3	Ⅲ	b			
70		7.7	6.1	1.22	139.0	Ⅲ	b			
71		10.0	6.1	0.88	196.3	Ⅲ	e			
72		10.1	6.0	1.04	181.5	Ⅲ	e			
73		8.8	6.2	0.97	144.7	Ⅲ	e			
74		9.6	6.0	1.08	167.4	Ⅲ	c			
75		8.8	6.5	1.13	163.0	Ⅲ	e			
76		8.6	5.8	0.87	135.5	Ⅲ	e			
77		9.3	5.9	0.93	113.4	Ⅲ	b			
78		7.5	5.2	0.71	98.1	Ⅲ	b			
79		8.5	6.1	0.79	160.1	Ⅲ	c			
80		8.7	6.5	0.87	177.3	Ⅲ	e			
81		8.0	4.9	0.88	102.9	Ⅲ	b			
82		9.7	6.8	0.93	195.0	Ⅲ	c			

収蔵番号	掲載番号	高(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)	真野分類	Ⅲ細分	成形	備考	旧番号
83		7.5	5.6	0.69	121.3	Ⅲ	b			
84		9.1	6.0	1.08	185.6	Ⅲ	c			
85		7.1	5.5	0.60	73.7	Ⅲ	b			
86		7.8	5.7	0.77	142.6	Ⅲ	c			
87		6.9	5.3	0.80	95.3	Ⅲ	d			
88		9.3	6.5	0.81	184.4	Ⅲ	b		線刻	
89		9.6	7.8	1.00	224.7	Ⅲ	e			
90		8.3	5.2	0.70	105.9	Ⅲ	b			
91		7.9	5.8	0.96	154.1	Ⅲ	b			
92		8.6	6.6	0.89	136.1	Ⅲ	c			
93		9.7	6.0	0.12	143.3	Ⅲ	e			
94		8.4	5.7	0.60	148	Ⅲ	b			
95		8.3	6.9	0.93	150.2	Ⅲ	e			
96		9.3	5.9	0.92	170.0	Ⅲ	e			
97		8.1	6.4	0.10	138.1	Ⅲ	d			
98		10.2	6.7	1.08	237.8	Ⅲ	e			
99		7.9	5.7	0.68	112.1	Ⅲ	a			
100		8.9	6.0	1.03	187.4	Ⅲ	c			
101		8.9	5.2	0.82	101.8	Ⅲ	b			
102		9.0	5.9	0.78	161.6	Ⅲ	b			
103		9.9	7.4	0.91	205.8	Ⅲ	e			
104		10.2	5.3	1.05	164.5	Ⅲ	e			
105		10.1	6.0	0.83	163.3	Ⅲ	e			
106		9.3	6.6	0.93	185.3	Ⅲ	e			
107		9.8	7.1	1.09	223.0	Ⅲ	e			
108	9	9.4	6.0	0.92	139.4	Ⅲ	e			
109		8.7	6.4	0.83	144.5	Ⅲ	-			
110		8.5	5.6	0.95	111.7	Ⅲ	b			
111		9.1	6.5	1.00	159.3	Ⅲ	e			
112		9.6	5.8	0.83	135.1	Ⅲ	c			
113		8.8	6.7	0.98	162.8	Ⅲ	c			
114		8.2	5.9	0.71	136.0	Ⅲ	b			
115		7.9	6.1	1.02	102.8	Ⅲ	d		側面に一孔	
116		8.3	5.7	0.96	129.8	Ⅲ	b			
117		8.7	6.1	0.88	157.0	Ⅲ	e			
118		8.6	6.6	0.95	160.2	Ⅲ	e			
119		8.5	6.2	1.06	162.5	Ⅲ	b			
120		8.7	6.4	0.99	158.0	Ⅲ	e		側面に金具	
121		8.8	7.5	0.89	218.3	Ⅲ	e			
122		8.5	6.3	1.13	189.6	Ⅲ	e			
123		8.4	5.4	0.83	125.8	Ⅲ	b			
124		8.3	5.6	0.75	119.2	Ⅲ	b			
125		8.8	5.9	0.87	142.1	Ⅲ	c			
126		8.1	6.5	0.77	117.8	Ⅲ	e			
127		8.8	5.9	0.89	174.9	Ⅲ	e			
128		8.7	6.0	0.95	170.8	Ⅲ	e			
129		9.6	6.5	0.98	196.8	Ⅲ	e			
130		8.9	5.6	1.25	99.0	Ⅲ	d			
131		8.9	5.7	0.81	134.0	Ⅲ	e			
132		9.8	6.4	1.11	176.9	Ⅲ	e			
133		8.6	5.6	0.82	137.5	Ⅲ	d			
134		8.0	5.6	0.77	153.3	Ⅲ	b			
135		10	6.3	0.91	182.7	Ⅲ	e			
136		6.7	5.5	0.74	81.3	Ⅲ	b			
137		9.0	6.2	1.00	186.5	Ⅲ	e			
138		8.7	5.9	0.82	137.9	Ⅲ	d			
139		8.9	7.0	0.13	165.2	Ⅲ	d			
140		7.2	5.2	0.72	102.9	Ⅲ	c			
141		8.5	5.8	0.94	133.5	Ⅲ	c			
142		9.3	5.4	0.86	134.4	Ⅲ	e			
143		7.9	6.0	0.71	89.0	Ⅲ	d			

収蔵番号	掲載番号	高(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)	真野分類	Ⅲ細分	成形	備考	旧番号
144		8.5	5.9	0.97	126.0	Ⅲ	e			
145		8.2	6.6	1.06	155.4	Ⅲ	e			
146		9.1	5.8	1.07	141.7	Ⅲ	e			
147		7.9	6	1.11	155.3	Ⅲ	b			
148		6.7	5.5	0.56	93.6	Ⅲ	b			
149		9.8	6.1	0.86	178.8	Ⅲ	b			
150		8.9	6.1	1.01	185.9	Ⅲ	c			
151		9.1	6.1	0.81	183.0	Ⅲ	b			
152		9.3	5.8	0.89	129.9	Ⅲ	e			
153		7.5	5.6	0.64	99.2	Ⅲ	b			
154		8.8	6.2	0.93	167.8	Ⅲ	e			
155		9.3	6.4	1.01	179.1	Ⅲ	e			
156		8.3	6.3	0.95	154.0	Ⅲ	e			
157		8.2	5.6	0.84	155.2	Ⅲ	a			
158		8.6	5.8	0.86	112.1	Ⅲ	e			
159		9.6	6.3	0.90	171.8	Ⅲ	b			
160		9.8	5.9	0.86	168.8	Ⅲ	e			
161		8.4	5.3	0.73	89.3	Ⅲ	b			
162		9.3	5.6	0.88	136.7	Ⅲ	b			
163		9.5	6.1	0.81	153.7	Ⅲ	d			
164		6.3	5.7	0.59	69.4	Ⅲ	b			
165		8.0	6.0	0.91	139.5	Ⅲ	e			
166		7.9	5.8	0.73	142.0	Ⅲ	d			
167		9.3	6.5	1.00	179.4	Ⅲ	c			
168		7.5	6.8	0.84	91.8	Ⅲ	b			
169		8.4	6.3	0.90	162.4	Ⅲ	b			
170		10.7	6.6	1.12	212.2	Ⅲ	e			
171		8.8	5.5	0.87	130.0	Ⅲ	b			
172		10.2	6.1	1.05	179.0	Ⅲ	e			
173		8.4	6.1	0.69	147.1	Ⅲ	b			
174		9.9	5.9	0.90	160.1	Ⅲ	e			
175		8.7	6.2	0.86	147.1	Ⅲ	d			
176		8.6	6.0	1.00	191.4	Ⅲ	b			
177		8.5	6.6	0.94	168.8	Ⅲ	-			
178		9.0	5.8	0.98	165.3	Ⅲ	c			
179		8.0	5.9	0.9	124.0	Ⅲ	b			
180		9.0	6.4	9.6	168.9	Ⅲ	c			
181		9.9	6.2	1.05	158.1	Ⅲ	c			
182		8.6	6.6	1.01	142.4	Ⅲ	c			
183		7.1	5.4	1.07	111.9	Ⅲ	b			
184		8.8	6.8	0.90	182.5	Ⅲ	c			
185		7.1	5.3	1.02	80.7	Ⅲ	b			
186		8.3	5.6	0.88	133.1	Ⅲ	b			
187		9.8	6.2	1.08	155.7	Ⅲ	b			
188		8.5	6.1	0.94	156	Ⅲ	a			
189		8.9	6.3	1.13	140.7	Ⅲ	c			
190		8.1	6.1	1.02	124.9	Ⅲ	e			
191		8.2	6.0	0.51	151.8	Ⅲ	b			
192		9.4	5.8	1.08	149.8	Ⅲ	e			
193		7.4	5.1	0.73	109.3	Ⅲ	b			
194		8.3	6.0	1.05	167.2	Ⅲ	e			
195		9.0	6.1	0.95	130.2	Ⅲ	e			
196		8.9	6.5	0.88	155.4	Ⅲ	e			
197		9.2	6.2	0.78	138.4	Ⅲ	b			
198		8.2	6.1	0.96	155.5	Ⅲ	b			
199		9.0	9.6	0.93	155.3	Ⅲ	c			
200		10.7	6.8	1.05	263.2	Ⅲ	e			
201		8.1	6.1	0.90	138.0	Ⅲ	e			
202		8.9	6.6	0.94	125.1	Ⅲ	e			
203		9.2	5.6	0.71	145.7	Ⅲ	e			
204		9.3	6.1	0.88	128.3	Ⅲ	e			

収蔵番号	掲載番号	高(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)	真野分類	Ⅲ細分	成形	備　考	旧番号
205		6.7	6.7	0.66	73.1	Ⅲ	b			
206		9.3	6.2	1.19	153.3	Ⅲ	c			
207		8.3	6.9	0.86	139.5	Ⅲ	b			
208		8.9	4.9	0.91	99.9	Ⅲ	e			
209				1.09		Ⅲ	d		本島向笠島周辺採集	
210				0.78		Ⅲ	d		本島向笠島周辺採集	
211				1.11		Ⅲ	e		本島向笠島周辺採集	
212				1.04		Ⅲ	c		本島向笠島周辺採集	
213		7.5		0.78		Ⅲ	b		本島向笠島周辺採集	
214				0.88		Ⅲ	d		本島向笠島周辺採集	
215		6.8		1.01		Ⅲ	b		本島向笠島周辺採集	
216				0.79		Ⅲ	b		本島向笠島周辺採集	
217		9.4		0.98		Ⅲ	d		本島向笠島周辺採集	
218									No.213と接合	
219				0.60		Ⅲ	b		本島向笠島周辺採集	
220				0.85		Ⅲ	c		本島向笠島周辺採集	
221				0.77		Ⅲ	d		本島向笠島周辺採集	
253	7	8.3	6.3	0.61	119.2	Ⅲ	d			35
254		9.4	6.2	0.91	115.8	Ⅲ	d			
255		10.9	6.9	0.97	215.3	Ⅲ	e			
256		9.4	6.0	0.92	163.4	Ⅲ	d			
257		8.0	5.0	1.24	130.6	Ⅲ	b			
258		8.8	6.1	0.98	176.0	Ⅲ	e			
259		7.4	6.2	0.79	153.9	Ⅲ	-			
260		8.4	6.4	0.95	163.4	Ⅲ	c			
349	16	11.6	7.9	0.52	371.8	Ⅲ				
350		8.3	6.9	0.64	187.9			ロ	「上」墨書	
351		11.3	7.3	0.5	345.1	Ⅲ				
352	20	10.4	7.9	0.54	405.1			ロ	備前焼?	27
353		7.4	6.5	0.45	186.0	板				
354		10.1	7.9	0.62	347.5	型				
355		7.9	6.7	-	142.1					
356		9.1	7.2	0.61	228.6			ロ	墨書	
357		6.7	6.7	-	151.0					
358	19	9.0	7.9	0.56	288.2			ロ	墨書	
359		5.5	7.1	-	112.7				貝製・墨書	
360		7.7	6.0	0.63	134.4			ロ	墨書	
361		8.4	6.8	0.7	174.7			ロ	土産物	
362		11.4	8.4	-	374.8			ロ		
363		9.7	7.1	0.65	298.7			ロ	墨書	
364		9.6	7.7	-	266.2			ロ	墨書	
367		5.6	5.3	-	55.3			手	タコ壺を模倣	
368		4.3	5.2	-	45.2			手	タコ壺を模倣	
369		4.0	3.3	-	31.9			ロ	タコ壺を模倣	

（旧番号は物質文化掲載番号）

真蛸壺計測表

収蔵番号	高(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)	口縁	底部	孔数	成形	「物質文化」掲載番号	備　考
24	15.4	13.2	-	1460	c	丸底	0	紐		
25	19.3	12.1	-	780	b	丸底	0	紐	15	
26	16.0	11.3	1.44	820	e	平底	1	紐	6	
27	18.3	13.7	0.32	780	c	乳底	0		25	
28	22.5	13.0	-	1480	c	丸底	0	紐	13	
29	21.7	13.3	1.15	1180	d	丸底	2	紐	9	
30	17.4	14.7	-	1120	a	乳底	0	紐	23	
31	16.3	13.1	1.61	880	c	平底	1	紐	5	
32	17.1	14.8	-	1020	c	丸底	0	紐	20	
33	13.2	15.0	-	1300	c	丸底	0	紐	16	外面格子目、内面同心円タタキ
34	26.3	16.4	-	1500	c	尖底	0	紐	12	
35	23.1	16.6	1.77	1740	e	平底	2?	紐	2	底部の孔を埋めている
36	19.2	16.1	0.77	1060	b	丸底	3	紐	7	
37	19.9	14.9	-	1020	c	丸底	0	紐	19	底部に線刻「×」
38	23.7	15.5	0.93	1800	b	丸底	3	紐	8	外面タテハケ
39	21.6	13.7	0.4	960	c	尖底	1?	紐	11	底部に線刻「×」
40	20.0	15.0	-	1360	b	丸底	0	紐	17	外面タテハケ
41	23.1	18.4	1.71	1620	e	平底	2	紐	3	側部120°隔てて2孔
42	25.1	15.0	-	1300	a	尖底	0	紐	21	外面タテハケ
43	18.1	16.2	1.43	1320	e	平底	1	紐	4	
44	19.8	15.1	-	1200	a	丸底	0	紐	18	外面タテハケ
45	26.9	17.8	22.7	2820	e	平底	1	ロクロ		現代・ペンキで記号
309	25.3	13.5	-	1080	b	丸底	0	紐		
310	21.8	16.0	1.45	1280	e	平底	1	紐		
311	22.7	16.4	2.04	2120	e	平底	1	型		
312	23.0	14.5	-	1240	b	尖底	0	紐		
313	21.8	13.4	1.41	1100	c	丸底	0	紐		
314	19.9	14.7	-	1080	b	丸底	0	紐		
315	12.3	14.3	1.27	1000	b	丸底	2	紐		
316	20.4	13.4	-	920	b	丸底	0	紐		
317	21.1	13.8	-	1140	b	丸底	0	紐		
318	20.5	16.3	-	1300	b	丸底	0	紐		
319	21.6	14.7	1.67	1060	b	平底	1	紐		
320	22.5	13.4	-	1060	b	丸底	0	紐		
321	18.8	14.2	-	980	b	丸底	0	紐		
322	18.7	15.0	2.05	840	d	丸底	4	紐		小孔2
323	18.5	12.9	-	660	b	尖底	0	紐		
324	22.4	12.8	-	1160	b	丸底	0	紐		頸部にタテハケ
325	13.7	13.5	-	1100	a	乳底	0	紐		
326	17.2	13.4	1.47	900	d	丸底	2	紐		
327	13.5	13.8	-	1140	c	平底	0	ロクロ		現代
328	17.9	11.3	-	820	e	平底	0	ロクロ		現代・底部は糸切り
329	18.1	13.1	-	940	b	尖底	0	紐		
330	20.7	16.6	-	1420	b	乳底	0	紐		
331	17.7	13.8	-	720	c	丸底	0	紐		
332	20.2	14.8	-	1320	b	尖底	0	紐		
333	22.1	13.9	-	1300	b	尖底	0	紐		
334	16.1	12.9	1.56	760	c	平底	1	紐		
335	20.6	15.3	-	860	c	丸底	0	紐		側部に線刻
336	18.1	13.8	-	1280	b	丸底	0	紐	22	
337	23.6	15.7	-	1420	a	尖底	0	紐		頸部にタテハケ
338	23.7	15.4	-	1220	c	丸底	0	紐		
339	23.2	16.8	1.19	1700	b	丸底	2	紐		平底に近い
340	20.9	14.1	-	1240	b	乳底	0	紐		
341	20.3	13.6	-	1200	b	丸底	0	紐		
342	11.5	13.7	-	1040	a	尖底	0	紐		側部に線刻
343	20.3	15.8	-	1300	e	丸底	0	紐		平底に近い
344	18.1	14.0	-	1140	c	丸底	0	紐		
345	24.0	15.8	-	1540	d	尖底	0	紐		
346	22.7	18.6	1.72	1360			1			貝製

蛸壺凡例

＊飯蛸壺の型式は形態の項で真野修氏の分類を示し、細分には本稿中で分類したⅢ形態の細分を示した。

＊真蛸壺の口縁形状については、二重口縁のものを「A」、やや外反するものを「B」、外反するものを「C」、外反せずまっすぐなものを「D」、玉縁状のものを「E」とした。

＊成形については粘土紐巻き上げのものを「紐」、ロクロ成形のものを「ロ」、板造りのものを「板」、鑞鋳型造りのものを「型」とした。

その他の遺物一覧（下津井城跡瓦、蛸壺、遺物写真を除く）

収蔵番号	採集遺跡	遺跡所在地	資料	点数	備考
222	本島向笠島周辺	香川県丸亀市	製塩土器片	1	
223			製塩土器片	1	
224			製塩土器片	1	
225			製塩土器片	1	
226			製塩土器片	1	
227			製塩土器片	1	
228			製塩土器片	1	
229			須恵器(坏)	1	
230			製塩土器(脚)	1	
231			高坏脚	1	
232			須恵器(高坏)	1	
233			弥生土器(高坏)	1	
234			弥生土器(甕)	1	
235			羽釜	1	
236			土師質土器	1	
237			弥生土器(壺)	1	
238			竈？	1	
239	三子島周辺	香川県坂出市	須恵器(壺)	1	
240			須恵器(甕)	1	
241			焼台	1	
242	宇野津焼窯跡	児島宇野津	宇野津焼片	1	
243			宇野津焼片	1	
244			宇野津焼片	1	
245			宇野津焼片	1	
246			宇野津焼片	1	
247			宇野津焼片	1	
248			宇野津焼片	1	
249			宇野津焼片	1	
250			宇野津焼片	1	
251			宇野津焼片	1	
252			宇野津焼片	1	
347	備讃瀬戸海底		ハゼ壺	1	
348			ハゼ壺	1	
365			小型丸底壺	1	
366			土錘	1	
370			土錘	1	
371			土錘	1	
372			土錘	1	
373			石錘	1	打瀬網用
374			黒曜石製石鏃	1	土産物
375			金印	1	土産物
511	正面山正面宮	児島稗田町	平瓦片	5	縄目叩・平行叩
512	下津井城跡	下津井	備前焼片	2	
513	鷲羽山遺跡	大畠	土器片	5	押型文土器2点含
514	王子が岳	児島唐琴町	土師質土器	1	昭和59・6・12採集
515	王子が岳裏山	児島唐琴町	石鏃	2	
516	田の口丸山古墳	児島田の口	土師質土器	3	昭和58・8・19採集
517	田の口丸山	児島田の口	土器片	1	
			ナイフ形石器	1	
			サヌカイト剥片	4	
518	福林湖下の池	福江	石鏃	1	
			石錐	1	
519	石宝殿	兵庫県高砂市	石片	1	
520	琴海古墳	大畠	貝殻	3	
521	櫃石島ほうろく岩（花見山遺跡）	香川県坂出市	石鏃	1	
			ナイフ形石器	2	
			スクレイパー	1	
			石核	1	
			サヌカイト剥片	585	
			チャート剥片	1	

収蔵番号	採集遺跡	遺跡所在地	資料	点数	備考
522	羽島貝塚	羽島	土器片	1	
			ハイガイ	2	
			ハマグリ	1	
523	宇野津焼窯跡	児島宇野津	陶器片	9	
			焼台	2	
524	浄山	下津井	土師質土器	2	
525	広畑	下津井	須恵器	2	
			土師質土器	24	
			備前焼片	2	
526	金浜	児島塩生	土師質土器	1	
527	釜島	下津井	製塩土器	1	
			土師質土器	10	
			石鏃	3	
			尖頭器	1	
			細石核	1	
			石核	5	
			スクレイパー	1	
			サヌカイト剥片	202	
528	出崎	玉野市	土器片	4	
			石鏃	1	
			ナイフ形石器	1	
			石核	1	
			サヌカイト剥片	86	
			火打ち石	2	
529	不明		製塩土器片	5	
530	不明		陶器片	2	
			備前焼片	1	
			須恵器片(甕)	2	
			土師質土器片	2	
			早島焼片	8	
			土師質灯明皿片	2	
531	不明		土鍋脚	2	
			土器片	1	
			骨片	多	
			鉄製品断片	多	
532	不明		須恵器片(高坏脚)	2	
			須恵器片(蓋坏)	3	
			製塩土器脚	4	
			製塩土器片	10	
			弥生土器片	1	
533	不明		石鏃	3	
			楔形石器	2	
			サヌカイト剥片	2	
			凝灰岩剥片	1	
534	不明		須恵器片	2	
			弥生土器片	2	
			貝殻	8	
535	不明		陶器片	2	
			硯	1	
			須恵器片	2	
			土器片	41	
			鉄器片	1	
			サヌカイト剥片	6	
536	不明		平瓦片	2	
537	不明		鉱滓	1	
538			下津井城跡模型	1	
539			下津井城跡古絵図	1	複製
欠番	ボルネオ		石槍	1	柄着

附編2

岡山県倉敷市下津井城跡・破城時に廃棄された動物遺存体

岡山理科大学理学部　富岡直人

1. 分析方法

倉敷埋蔵文化財センターによる遺物と堆積環境の調査研究の結果、倉敷市下津井城本丸天守台東側トレンチ1より出土した一括資料は、廃城となった元和元(1615)年[1]か寛永16(1639)年に行われた破城行事での残滓と考えられ、崩された石垣の下と漆喰壁の上に挟まれた状態で、灰を主体とする包含層の中より検出された。動物遺存体の他に、漆器・銅銭・金属器類が出土している。このように破城時に廃棄された動物遺存体が良好に一括して検出される例は寡聞であり、不明な点の多い破城のあり方を具体的に示す資料として極めて貴重である。

この資料のなかから検出された動物遺存体が抽出され、分析資料として供された。同定によって埋存した動物種を把握するとともに、遺存体に残された痕跡から食用か否かを検討して、その処理方法の検討を行い、さらに当時の動物類の捕獲採集技術について考察を行った。残存状況が良好な資料はノギスによって0.01㎜まで計測を行った。

2. 分析経過

検出された包含層は、1997年に倉敷埋蔵文化財センターによって1㎜金属メッシュを用いた水洗選別が実施され、動物遺存体をはじめ微小脆弱遺物が抽出された。

1997～1998年に選別終了残土のチェックも含め、抽出された動物遺存体の内容について富岡が確認作業を行い、1998年に一旦中間報告をまとめた。その後、2001年にあらためて再分析を実施し、同定と分析内容を再検討し、結果をまとめなおした。

3. 分析結果

出土した動物遺存体の標準和名と学名を第1表「倉敷市下津井城跡本丸出土動物遺存体種名表」に示す。出土動物遺存体の属性の詳細は第2表「出土動物遺存体属性表」に詳述する。

第1表　倉敷市下津井城跡本丸出土動物遺存体種名表（1615あるいは1639年破城時）
List of Animal remains from the Shimotsui castle, Kurashiki city
(belonging to the layer of castle destruction in AD.1615 or 1639)

軟体動物門	Mollusca
腹　足　綱	Gastropoda
アクキガイ科	Muricidae
アカニシ	*Rapana venosa* (Valenciennes)

レイシガイ	*Reishia bronni* (Dunker)
ミミガイ科	Haliotidae
マダカアワビ	*Halitois madaka* (Habe)
リュウテンサザエ科	Turbinidae
サザエ	*Batillus cornutus* (Lightfoot)
斧　足　綱	Pelecypoda
マルスダレガイ科	Veneridae
ハマグリ	*Meretrix lusoria* (Rödding)
シジミガイ科	Corbiculidae
ヤマトシジミ	*Corbicula japonica* Prime
フネガイ科	Arcidae
ハイガイ	*Tegillarca granosa* (Linnaeus)
クマサルボウガイ	*Scapharca globosa ursus* (Tanaka)
脊椎動物門	Vertebrata
硬骨魚綱	Osteichthyes
スズキ目	Perciformes
スズキ科	Serranidae
スズキ	*Lateolabrax japonicus* (Curvier et Valenciennes)
タイ科	Sparidae
マダイ	*Pagrus major* (Temminck et Schlegel)
クロダイ	*Acanthopagrus schlegeli* (Bleeker)
イサキ科	Haemulidae
セトダイ	*Hapalogenys mucronatus* (Eydox et Sauleyet)
ハタ科	Serranidae gen. et sp. indet.
カサゴ目	Scorpaeniformes
カサゴ科	Scorpaenidae gen. et sp. indet.
カレイ目	Pleuribectiformes
カレイ科	Pleuronectidae gen. et sp. indet.
ヒラメ科	Paralicthyidae
ヒラメ	*Paralichthys olivaceus* (Temminck et Schlegel)
ニシン目	Clupeiformes
ニシン科	Clupeoidei gen. et sp. indet.
鳥　綱	Aves
キジ目	Galliformes
キジ科	Phasianidae
キジ属	Phasianidus sp. indet.

a. 軟体動物門　　Mollusca

腹足綱と斧足綱が検出された。いずれも殻体の殻質のみが検出され、コンキオリンを主成分とする殻皮は失われていた。このような出土状況は濠や土坑等、低湿地部で資料が数多く検出された岡山城二の丸跡や本丸跡(石丸他2001、富岡1998)での様相と大きく異なっており、出土状況も特徴的なものと考えられる。検出された軟体動物は、外洋から内湾にかけて分布する貝類が多いが、シジミガイ科のみが淡水から汽水に生息した可能性がある種類である。多くの貝類が下津井周辺で調達された可能性が高いと考えられるが、シジミガイ科も併せて一度に調達されたものかは不明である。

① 腹 足 綱　　Gastropoda

アクキガイ科　Muricidae

アカニシ　*Rapana venosa* (Valenciennes)

内湾中央部の10～20m程の泥底に生息する(波部他1983、富岡1999)。岡山の近世の城跡から比較的多く出土する種類である。大きさが復元できる個体は検出されなかったが、破片の状況からみて殻高10cm以上はあった個体が含まれると考えられる。

レイシガイ　*Reishia bronni* (Dunker)

内湾岩礁底の潮間帯に生息する(波部他1983、富岡1999)。縄文貝塚等ではよく検出される種であるが、岡山の近世遺跡からの出土は少ないと考えられる。

ミミガイ科　Haliotidae

小破片になったミミガイ科が多数検出された。全ての破片は、この科の中で同定されたマダカアワビに属する可能性が考えられるが、資料の損壊が激しく、特定できなかった。

マダカアワビ　*Halitois madaka* (Habe)

外洋の約10～50mの岩礁底に生息する(波部他1983)。岡山城でも出土がみられる種である。本遺跡では殻径161.82mmの個体が検出された。岡山城本丸中の段出土資料(岡嶋　2001)と比較すると大型のアワビ類の個体であることが判明した。殻のほぼ中央に穿孔があるが、破損痕跡から内側から外側にかけての刺突によるものと推定され、捕獲時に残されたものではなく、調理・処理・廃棄のプロセスの間に損壊されたものと考えられる。

リュウテンサザエ科　Turbinidae

サザエ　*Batillus cornutus* (Lightfoot)

出土した成熟した個体の場合、内湾～湾外の潮間帯の岩礁～砂底に生息する(波部他1983、富岡1999)。破片のためか、波穏やかな内湾に生息していたためか判然としないが、棘は検出されなかった。

② 斧 足 綱　　Pelecypoda

マルスダレガイ科 Veneridae

ハマグリ　*Meretrix lusoria* (Rödding)

内湾の潮間帯の砂底に生息する(波部他1983、富岡1999)。アカニシとならんで、岡山の近世遺跡から数多く検出されている種類である。破片が多く、体格が検討できるものは、No.39のみで、残存した殻長で26.85mmであり、ほぼ標準的な大きさであるといえよう。

フネガイ科　　Arcidae
ハイガイ　　*Tegillarca granosa* (Linnaeus)

内湾の潮間帯～水深10m程の泥底に生息する。1点のみが検出された。残存殻長は31.8㎜と標準的な大きさであった。

クマサルボウガイ　*Scapharca globosa ursus* (Tanaka)

水深5～10mの砂泥底に生息する。2点が検出された。この種は岡山城二の丸跡でも出土しているが、本遺跡出土資料の方が3～4cmも大きい殻長であった。

シジミガイ科　　Corbiculidae

種の特定できないシジミガイ科が検出された。淡水～汽水に生息する。種が特定できたものはヤマトシジミのみであったことから、他のものも同種である可能性が考えられる。

ヤマトシジミ　*Corbicula japonica* Prime

海水の影響のある河口部汽水域(感潮域)の砂泥底に生息する(波部他1983、富岡1999)。体格が推定できるものはNo.46のみで、残存した殻長で24.00㎜であり、ほぼ標準的な大きさであった。

b. 脊椎動物門 Vertebrata

① 硬骨魚綱　　Osteichthyes

魚類は全て硬骨魚綱であった。同定されたものは全て、下津井周辺で調達可能性な魚種であった。

スズキ目　　Perciformes

破片や科の特徴が不明確な骨格が含まれていたため、同定を目で止めた。スズキ科、ハタ科、タイ科等の魚類が含まれている可能性が考えられる。

スズキ科　　Serranidae
スズキ　　*Lateolabrax japonicus* (Curvier et Valenciennes)

岩礁や砂礫底に生息する(阿部　1987)。種を特定したものはNo.73と74のみであった。体格としては小型から中型程度である。

ハタ科　　Serranidae gen. et sp. indet.

腹椎が1点のみ検出された。体格は比較的小型である。

タイ科　　Sparidae

マダイとクロダイが検出されている。タイ科のうち種の特定できなかったものには、マダイ・クロ

ダイ等が含まれる可能性が考えられる。

マダイ　*Pagrus major* (Temminck et Schlegel)

水深30～200mの岩礁域・砂礫の低層に生息する(阿部　1987)。10点がマダイと特定された。出土資料の体格は中程度で、岡山城で検出された資料と比較して大きくない。

クロダイ　*Acanthopagrus schelegeli* (Bleeker)

沿岸の水深50m以浅に生息する(阿部　1987)。3点が検出され、比較的小型の個体であった。

イサキ科　Haemulidae

セトダイ　*Hapalogenys mucronatus* (Eydoux et Sauleyet)

砂泥底に生息する(阿部　1987)。後側頭骨が検出されたが、分析中破損し、原型を失ってしまった。出土資料は比較的小型の個体であった。

カサゴ目　Scorpaeniformes

カサゴ科　Scorpaenidae

ソイ類やメバル類等が含まれる可能性が考えられる。種の特定は困難であった。

カレイ目　Pleuribectiformes

カレイ科　Pleuronectidae

主に内湾から沿岸の底層に生息する(阿部　1987)。尾椎の破片が検出されたのみで、種は特定できなかった。

ヒラメ科　Paralicthyidae

ヒラメ　*Paralichthys olivaceus* (Temminck et Schlegel)

水深100～200mの、主に内湾～沿岸の底層に生息する(阿部　1987)。椎骨の破片が検出されたのみであるが、大きさと骨格の特徴からヒラメと同定した。

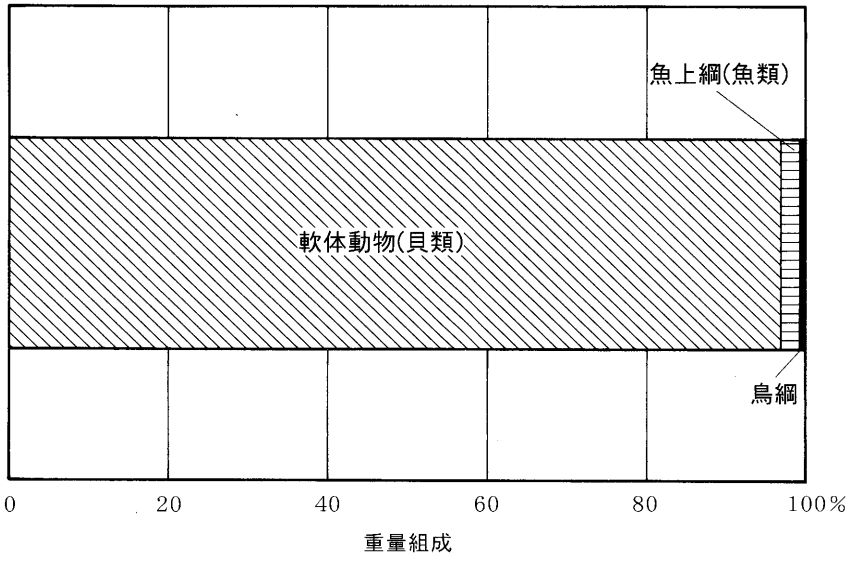
ニシン目　Clupeiformes

ニシン科　Clupeoidei gen. et sp. indet.

河口・内湾・外洋に生息する。種の特徴が判然としない腹椎が1点出土したため、特定が困難であった。ニシン、マイワシ、ヒラ、コノシロ、サッパ(地方名ママカリ)、キビナゴの可能性が考えられる。

c. 鳥　綱　Aves

キジ目　Galliformes



第1図　下津井城跡第1次調査本丸トレンチ1出土動物遺存体重量組成

キジ科　Phasianidae
　キジ属　Phasianidus sp. indet.

キジ、ヤマドリ、ニワトリである可能性が高いが、特徴が判然としない上腕骨の一部のみが出土したため、種の特定は困難であった。

4. 考察

下津井城跡本丸地点の調査資料を総合してみると、哺乳類の出土がみられず、従来分析されてきた岡山城本丸・二の丸地点(石丸・松井2001、富岡1998)のような城郭あるいはその周縁部の遺跡と様相を異にしている。

破片資料が多かったため、出土量は第1図に示すとおり、重量によって行なった。これによると、軟体動物である貝類の出土率が顕著に高い。しかし、「同定された点数」で比較すると、軟体動物50点に対し、魚類は157点におよび、魚類の点数が多いことがうかがわれる。

前述したように、本資料は破城儀式にともなう残滓と考えられたことから、その動物遺存体の質・量は長期間にわたる城内の残滓類に比して貧弱であることが予想され、実際に魚貝類のみが偏って出土した点は想定された通りであった。しかし、その魚貝類の種類・内容は、意外に多様で、貝類に限っては岡山城出土資料と比較しても大型の個体であるマダカアワビとクマサルボウガイが含まれていた。総合すると、これら食材の漁猟・採集域は内湾から外洋、干潟から沖合の海底に及んでいたことが明らかである。

この城での最後の宴は多人数で催され、哺乳類を食材とする献立は禁忌として避けられたのではなかろうか。また、振る舞われた魚貝類の種類が複数にわたったことは、優良な漁港でもあった下津井らしい、華やいだ雰囲気を与えたことであろう。

残された骨格や貝殻といった硬組織には、火を受けた痕跡を示すものが少なく、ミミガイ科(アワビ類)のみにその痕が確認された。この資料を除き、硬組織をともなった食材を直接強い火にかける

ような調理方法が選択されたなかったものと考えられる。

さて、生息域に広がりを持つこれらの海産物を、全く計画性無しに調達したことは考えにくい。一方、マダイにせよスズキ目にせよ、極大級の体格のものは調達されていない点も注目される。事前に献立を想定し、調達に手間をかけたものの、貝類を除き大物の調達は行なわなかったか、行いえなかったと考えたい。ただし、これは推測の域をでないものである。

本資料群は、17世紀前半の破城行事を伝える良好な資料であることから、今後の研究の進展－特に比較資料の増加－により、さらに貴重な基準データを生み出す可能性を有すことが指摘される。

(1) 廃城については、様々な資料から元和元年の一国一城例により破却された可能性が指摘されており(山本2000)、本資料もこの時期の廃棄物の可能性がある。

謝辞

倉敷埋蔵文化財センターの藤原好二氏をはじめ、各位には資料の提供とともに様々な御教示御援助を頂いた。また、分析と資料抽出にあたっては、岡山理科大学大学院生(現(株)パリノサーヴェイ)沖田絵麻さん、同大学学生宮本 葵さん、藤原圭子さん、塩谷勇一郎君、太田 謙君に御助力頂いた。さらに、東北大学文学部考古学研究室須藤 隆先生、奈良国立文化財研究所松井 章先生、国立歴史民俗博物館西本豊弘先生に比較標本の提供と御助言、御教示を頂いた。記して感謝の意を表します。

参考文献

阿部宗明　1987　『原色魚類大図鑑』(北隆館)

石丸恵利子・松井章 2001 「岡山城本丸下の段出土の動物遺存体」『史跡岡山城跡本丸下の段発掘調査報告』pp.323-337(岡山市教育委員会)

内田　亨他 1972　『谷津・内田　動物分類名辞典』(中山書店)

内田　亨　1979　『新編日本動物図鑑』(北隆館)

岡田　要　内田清之助　内田　亨　1965　『新日本動物図鑑』下(北隆館)

蒲原稔治　1966　『標準原色図鑑全集　第4巻　魚』(保育社)

高野伸二　1982　『フィールドガイド日本の野鳥』(日本野鳥の会)

富岡直人　1998　「岡山城二の丸跡出土の動物遺存体」『中国電力内山下変電所建設に伴う調査報告　岡山城二の丸跡』pp.136-163

沖田絵麻・富岡直人 2000 「新蔵町3丁目遺跡出土動物遺存体」『新蔵町3丁目遺跡徳島保健所地点』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書31:pp.427-438

富岡直人　2000　「原尾島・沢田遺跡出土の動物遺存体分析『原尾島遺跡・沢田遺跡－一般国道2号線藤原交差点他改良に伴う発掘調査－』岡山県埋蔵文化財調査報告153(岡山県教育委員会):pp55-56

富岡直人　2000　「井手天原遺跡出土動物遺存体」『岡谷大溝散布地、三須今溝遺跡、三須河原遺跡、三須畠田遺跡、井手見延遺跡、井手天原遺跡　－国道429号線改良に伴う発掘調査・－』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告156(岡山県教育委員会):pp.224-237

富岡直人　2001　「岡山県天瀬遺跡出土動物遺存体の分析」『岡山県埋蔵文化財調査報告書154、天瀬遺跡・岡山城外堀跡』(岡山県教育委員会):pp.89-121

山本太郎　2000　「下津井港とその周辺」『新修倉敷市史』:pp.403-455

Angela von den Driesch　1976　"A Guide to the Mesurement of Animal Bones from Archaeo logicalSites" Peabody Museum Bulletin 1, Museum of Archae ology,Harvard University

第２表　下津井城跡本丸トレンチ１出土動物遺体属性表

整理番号	抽出番号	地　点	大分類	小分類	部　位	LR	部　分	成長度	破　損	重量(g)	測定値(mm)	色　調	備　考
1	172	廃土中	腹足綱	アカニシ	殻軸	-	破片	不明	不明	20.57	-	ノーマル	
2	177	瓦だまり	腹足綱	アカニシ	殻軸	-	破片	不明	不明	11.57	-	ノーマル	
3	167	シックイ層	腹足綱	アカニシ	殻質	-	破片	不明	不明	19.64	-	ノーマル	
4	220		腹足綱	アカニシ	殻質	-	完形(一部欠損)	不明	不明	57.77	残存殻高63.64 残存殻径60.60	ノーマル	
5	217	瓦だまり	腹足綱	レイシガイ	殻質	-	完形	不明	不明	6.32	残存殻径28.78	ノーマル	
6	186		腹足綱	サザエ	殻軸	-	破片	不明	不明	10.24	-	ノーマル	
7	179		腹足綱	アカニシ	殻質	-	破片	不明	不明	0.95	-	ノーマル	
8	175		腹足綱	サザエ	蓋	-	完形	不明	不明	1.01	-	ノーマル	
9	181		腹足綱	サザエ	蓋	-	完形	不明	不明	7.98	-	ノーマル	
10	215	木炭集中部	腹足綱	サザエ	殻質	-	完形	不明	不明	35.81	残存殻高80.66	ノーマル	無極
11	221	瓦だまり	腹足綱	サザエ	殻質	-	殻質	不明	不明	39.78	-	ノーマル	無極
12	198①		腹足綱	ミミガイ科	殻質	-	破片	不明	不明	1.68	-	ノーマル	
13	198②		腹足綱	ミミガイ科	殻質	-	破片	不明	不明	0.11	-	黒	被熱
14	202		腹足綱	ミミガイ科	殻質	-	破片	不明	不明	13.41	-	ノーマル	
15	203		腹足綱	ミミガイ科	殻質	-	破片	不明	不明	0.35	-	ノーマル	
16	208		腹足綱	ミミガイ科	殻質	-	破片	不明	不明	5.19	-	ノーマル	
17	209		腹足綱	ミミガイ科	殻質	-	破片	不明	不明	6.59	-	ノーマル	
18	180		腹足綱	ミミガイ科	殻質	?	破片	不明	不明	0.27	-	ノーマル	
19	212	木炭集中部	腹足類	マダカアワビ	殻質	-	完形	不明	不明	143.46	殻径161.82　殻高47.60	ノーマル	
20	191	サンプル水洗	斧足綱	ハイガイ	殻質	L	完形　腹縁欠損	不明	不明	3.63	残存殻長31.85	ノーマル	
21	218	木炭集中部	斧足綱	クマサルボウガイ	殻質	L	完形	不明	不明	73.84	殻長88.39　殻高81.85 殻厚34.81	ノーマル	
22	219	木炭集中部	斧足綱	クマサルボウガイ	殻質	R	完形	不明	不明	58.50	殻長81.69　殻高71.52 殻厚32.26	ノーマル	
23	213	木炭集中部	斧足綱	ハマグリ	殻質	R	破片	不明	不明	3.71	-	ノーマル	
24	214	木炭集中部	斧足綱	ハマグリ	殻質	L	完形	不明	不明	14.85	残存殻長59.50 残存殻径49.16	ノーマル	
25	216	木炭集中部	斧足綱	ハマグリ	殻質	R	完形(一部欠損)	不明	不明	6.37	残存殻長42.88 残存殻高37.86　殻厚12.14	ノーマル	
26	178		斧足綱	ハマグリ	殻質	?	破片	不明	不明	1.29	-	ノーマル	
27	168		斧足綱	ハマグリ	殻質	?	破片	不明	不明	3.50	-	ノーマル	
28	169		斧足綱	ハマグリ	殻質	R	殻頂	不明	不明	5.40	-	ノーマル	
29	170		斧足綱	ハマグリ	殻質	R	殻頂	不明	不明	3.72	-	ノーマル	
30	173		斧足綱	ハマグリ	殻質	L	殻頂	不明	不明	2.46	-	ノーマル	
31	174		斧足綱	ハマグリ	殻質	?	破片	不明	不明	1.31	-	ノーマル	
32	182	土石だまり	斧足綱	ハマグリ	殻質	L	破片	不明	不明	1.62	-	ノーマル	
33	183		斧足綱	ハマグリ	殻質	R	破片	不明	不明	2.10	-	ノーマル	
34	184	木炭集中部	斧足綱	ハマグリ	殻質	R	破片	不明	不明	1.12	-	ノーマル	

整理番号	抽出番号	地　点	大分類	小分類	部　位	LR	部　分	成長度	破　損	重量(g)	測定値(mm)	色　調	備　考
35	187		斧足綱	ハマグリ	殻質	R	破片	不明	不明	3.76	-	ノーマル	
36	188		斧足綱	ハマグリ	殻質	?	破片	不明	不明	3.70	-	ノーマル	
37	189		斧足綱	ハマグリ	殻質	L	破片	不明	不明	3.23	-	ノーマル	
38	190		斧足綱	ハマグリ	殻質	L	破片	不明	不明	1.55	-	ノーマル	
39	192		斧足綱	ハマグリ	殻質	L	完形　腹縁欠損	不明	不明	1.08	残存殻長26.85	ノーマル	
40	193		斧足綱	ハマグリ	殻質	?	破片	不明	不明	4.50	-	ノーマル	
41	195		斧足綱	ハマグリ	殻質	R	殻頂	不明	不明	5.32	-	ノーマル	
42	200	瓦だまり	斧足綱	ハマグリ	殻質	?	破片	不明	不明	2.85	-	ノーマル	
43	201		斧足綱	ハマグリ	殻質	?	破片	不明	不明	0.85	-	ノーマル	
44	207		斧足綱	ハマグリ	殻質	?	破片	不明	不明	2.76	-	ノーマル	
45	210		斧足綱	ハマグリ	殻質	?	破片	不明	不明	0.08	-	ノーマル	
46	176		斧足綱	ヤマトシジミ	殻質	R	完形　腹縁部一部欠損	不明	不明	1.44	残存殻長24.00	ノーマル	
47	185		斧足綱	ヤマトシジミ	殻質	L	破片	不明	不明	1.44	-	ノーマル	
48	171		軟体動物	綱不明	殻質	-	破片	不明	不明	9.32	-	ノーマル	
49	199		軟体動物	綱不明	殻質	?	破片	不明	不明	1.80	-	白色	
50	194		軟体動物	綱不明	殻質	?	不明	不明	不明	0.10	-	白色	
軟体動物合計			-	-	-	-	-	-	-	609.90	-	-	-
51	83		硬骨魚綱	カサゴ科	角骨	R	完形	不明	不明	0.01	-	淡褐色	ソイに似る
52	84		硬骨魚綱	カサゴ科	角骨	L	後位	不明	不明	0.03	関節横幅1.60	淡褐色	メバルに似る
53	14		硬骨魚綱	カサゴ科	擬鎖骨	R	下位	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
54	19		硬骨魚綱	カサゴ科	主鰓蓋骨	L	完形	不明	不明	0.03	関節縦径2.15	淡褐色	メバルに似る
55	20		硬骨魚綱	カサゴ科	主鰓蓋骨	L	関節+骨幹部	不明	不明	0.04	関節縦径3.60	淡褐色	
56	21		硬骨魚綱	カサゴ科	主鰓蓋骨	R	関節+骨幹部	不明	不明	0.02	関節縦径2.66	淡褐色	ソイに似る
57	16		硬骨魚綱	カサゴ科	主上顎骨	R	前位+骨幹部	不明	不明	0.01	前位関節高3.00	淡褐色	ソイに似る
58	18		硬骨魚綱	カサゴ科	主上顎骨	R	骨幹部	不明	cm(前位関節)	0.12	-	淡褐色	
59	2		硬骨魚綱	カサゴ科	第2or3椎骨	M	完形	不明	不明	0.08	-	淡褐色	ソイに似る
60	12		硬骨魚綱	カサゴ科	歯骨	R	前位	不明	不明	0.01	歯骨高2.55	淡褐色	
61	15		硬骨魚綱	カサゴ科	歯骨	L	前位	不明	不明	0.08	歯骨高4.55	淡褐色	
62	68		硬骨魚綱	カサゴ科	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.01	BFCr：2.80	淡褐色	
63	94		硬骨魚綱	カサゴ科	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
64	148		硬骨魚綱	カサゴ科	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.03	BFCr：4.30	淡褐色	
65	106		硬骨魚綱	カサゴ科	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.01	BFCr：1.55	淡褐色	
66	13		硬骨魚綱	カサゴ科	方骨	L	完形	不明	不明	0.01	関節部横幅2.00	淡褐色	
67	17		硬骨魚綱	カサゴ科	方骨	L	完形	不明	不明	0.01	関節横幅3.25	淡褐色	ソイに似る
68	22		硬骨魚綱	カサゴ科	前鰓蓋骨	R	骨幹部	不明	不明	0.07	-	淡褐色	メバルに似る
69	149		硬骨魚綱	カレイ科	尾椎	M	完形（椎体）	不明	不明	0.06	BFCr：5.20	淡褐色	
70	82		硬骨魚綱	クロダイ	角骨	L	骨幹部+近位端	不明	不明	0.32	関節縦径6.22	淡褐色	
71	65		硬骨魚綱	クロダイ	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.04	BFCr：3.75	淡褐色	
72	93		硬骨魚綱	クロダイ	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
73	5		硬骨魚綱	スズキ	歯骨	L	前位	不明	不明	0.01	歯骨高2.85	淡褐色	
74	109		硬骨魚綱	スズキ	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.03	BFCr：2.87	淡褐色	
75	10		硬骨魚綱	スズキ科	主鰓蓋骨	L	前位	不明	不明	0.01	関節部縦径2.25	淡褐色	

整理番号	抽出番号	地　点	大分類	小分類	部　位	LR	部　分	成長度	破　損	重量(g)	測定値(mm)	色　調	備　考
76	95		硬骨魚綱	スズキ科	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
77	77		硬骨魚綱	スズキ目	角舌骨	L	前位	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
78	6		硬骨魚綱	スズキ目	擬鎖骨	L	完形	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
79	8		硬骨魚綱	スズキ目	擬鎖骨	R	完形	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
80	125		硬骨魚綱	スズキ目	背臀鰭棘	M	骨幹部+近位端	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
81	126		硬骨魚綱	スズキ目	背臀鰭棘	M	近位端	不明	不明	0.04	-	淡褐色	
82	1		硬骨魚綱	スズキ目	第1椎骨	M	椎体	不明	不明	0.06	-	淡褐色	
83	9		硬骨魚綱	スズキ目	角骨	R	前位	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
84	7		硬骨魚綱	スズキ目	歯骨	R	前位+下位	不明	不明	0.03	歯骨高3.15	淡褐色	
85	4		硬骨魚綱	スズキ目	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.04	-	淡褐色	
86	71		硬骨魚綱	スズキ目	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.03	-	淡褐色	
87	97		硬骨魚綱	スズキ目	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.05	BFCr：4.60	淡褐色	
88	103		硬骨魚綱	スズキ目	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.01	BFCr：2.55	淡褐色	
89	110		硬骨魚綱	スズキ目	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.02	BFCr：2.80	淡褐色	
90	147		硬骨魚綱	スズキ目	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.17	-	茶褐色	
91	89		硬骨魚綱	スズキ目	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.01	-	茶褐色	
92	124		硬骨魚綱	スズキ目	担鰭骨	R	完形	不明	不明	0.05	全長21.85	淡褐色	
93	166		硬骨魚綱	セトダイ	後側頭骨	R	完形	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
94	40		硬骨魚綱	タイ科	間鰓蓋骨	R	上位	不明	不明	0.20	-	淡褐色	
95	205	木炭集中部	硬骨魚綱	タイ科	間鰓蓋骨	?	骨幹部	不明	不明	0.30	-	淡褐色	
96	44		硬骨魚綱	タイ科	肩甲骨	L	骨幹部+近位端　後位	不明	不明	0.08	関節最大幅3.04	淡褐色	
97	45		硬骨魚綱	タイ科	肩甲骨	L	骨幹部+近位端　後位	不明	不明	0.06	-	淡褐色	
98	23		硬骨魚綱	タイ科	犬歯状歯	?	完形	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
99	24		硬骨魚綱	タイ科	犬歯状歯	?	完形	不明	不明	0.04	-	淡褐色	
100	35		硬骨魚綱	タイ科	犬歯状歯	?	完形	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
101	46		硬骨魚綱	タイ科	骨盤骨	R	後位	不明	不明	0.06	-	淡褐色	
102	39		硬骨魚綱	タイ科	舌顎骨	L	骨幹部	不明	不明	0.05	-	淡褐色	
103	42		硬骨魚綱	タイ科	主上顎骨	L	骨幹部	不明	不明	0.39	-	淡褐色	
104	85		硬骨魚綱	タイ科	第1椎骨	M	完形（椎体）	不明	不明	0.04	BFCr：2.75	淡褐色	
105	25		硬骨魚綱	タイ科	歯	?	完形	不明	不明	0.03	-	淡褐色	
106	26		硬骨魚綱	タイ科	歯	?	完形	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
107	27		硬骨魚綱	タイ科	歯	?	完形	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
108	28		硬骨魚綱	タイ科	歯	?	完形	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
109	29		硬骨魚綱	タイ科	歯	?	完形	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
110	30		硬骨魚綱	タイ科	歯	?	完形	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
111	31		硬骨魚綱	タイ科	歯	?	完形	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
112	32		硬骨魚綱	タイ科	歯	?	完形	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
113	33		硬骨魚綱	タイ科	歯	?	完形	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
114	34		硬骨魚綱	タイ科	歯	?	完形	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
115	36		硬骨魚綱	タイ科	歯	?	完形	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
116	37		硬骨魚綱	タイ科	歯	?	破片	不明	不明	0.40	-	淡褐色	
117	38		硬骨魚綱	タイ科	歯骨	R	骨幹部	不明	不明	0.12	-	淡褐色	

整理番号	抽出番号	地　点	大分類	小分類	部　位	LR	部　分	成長度	破　損	重量(g)	測定値(mm)	色　調	備　考
118	60		硬骨魚綱	タイ科	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.29	BFCr：6.54	淡褐色	
119	61		硬骨魚綱	タイ科	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.15	-	淡褐色	
120	62		硬骨魚綱	タイ科	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.17	-	淡褐色	
121	67		硬骨魚綱	タイ科	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.03	BFCr：3.50	淡褐色	
122	53		硬骨魚綱	タイ科	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.27	BFCr：7.12	淡褐色	
123	54		硬骨魚綱	タイ科	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.41	BFCr：7.85	淡褐色	
124	55		硬骨魚綱	タイ科	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.34	BFCr：7.36	淡褐色	
125	57		硬骨魚綱	タイ科	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.18	BFCr：6.26	淡褐色	
126	58		硬骨魚綱	タイ科	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.18	-	淡褐色	
127	59		硬骨魚綱	タイ科	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.14	-	淡褐色	
128	43		硬骨魚綱	タイ科	翼耳骨	L	外側	不明	不明	0.26	-	淡褐色	
129	107		硬骨魚綱	ニシン目	腹椎	M	椎体破片	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
130	3		硬骨魚綱	ハタ科	腹椎	M	完形	不明	不明	0.03	-	淡褐色	
131	150		硬骨魚綱	ヒラメ	腹椎	M	前位	不明	cm(Aa)	0.37	BFCr：19.30	淡褐色	
132	41		硬骨魚綱	マダイ	角骨	L	近位端	不明	不明	0.06	関節最大幅2.81	茶褐色	
133	48		硬骨魚綱	マダイ	口蓋骨	R	上位	不明	不明	0.27	-	淡褐色	
134	51		硬骨魚綱	マダイ	後側頭骨	L	骨幹部	不明	不明	0.10	-	淡褐色	
135	52		硬骨魚綱	マダイ	後側頭骨	L	骨幹部	不明	不明	0.10	-	淡褐色	
136	49		硬骨魚綱	マダイ	前上顎骨	L	骨幹部	不明	不明	0.15	-	淡褐色	
137	50		硬骨魚綱	マダイ	前上顎骨	R	骨幹部	不明	不明	0.20	-	淡褐色	
138	56		硬骨魚綱	マダイ	第3椎骨	M	完形(神経棘先端欠損)	不明	不明	0.29	BFCr：6.90	淡褐色	
139	47		硬骨魚綱	マダイ	歯骨	R	後位	不明	不明	0.29	最大幅4.92	淡褐色	
140	211		硬骨魚綱	マダイ	歯骨	L	完形	不明	不明	1.62	歯骨高11.80　全長35.20	淡褐色	
141	11		硬骨魚綱	マダイ	翼耳骨	L	骨幹部	不明	不明	0.03	-	淡褐色	
142	78		硬骨魚綱	目不明	肩甲骨	R	完形	不明	不明	0.03	関節縦径1.55	淡褐色	
143	79		硬骨魚綱	目不明	主上顎骨	L	前位	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
144	80		硬骨魚綱	目不明	主上顎骨	R	前位	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
145	127		硬骨魚綱	目不明	神経棘	M	骨幹部	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
146	128		硬骨魚綱	目不明	神経棘	M	骨幹部	不明	不明	0.04	-	淡褐色	
147	129		硬骨魚綱	目不明	神経棘	M	骨幹部	不明	不明	0.03	-	淡褐色	
148	130		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	骨幹部+近位端	不明	不明	0.89	-	淡褐色	
149	131		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	完形	不明	不明	0.06	全長14.85	淡褐色	
150	132		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	骨幹部+近位端	不明	不明	0.06	-	淡褐色	
151	133		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	完形	不明	不明	0.07	全長25.40	淡褐色	
152	134		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	骨幹部+近位端	不明	不明	0.06	-	淡褐色	
153	135		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	骨幹部+近位端	不明	不明	0.13	-	淡褐色	
154	136		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	骨幹部	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
155	137		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	骨幹部	不明	不明	0.03	-	淡褐色	
156	138		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	骨幹部+近位端	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
157	139		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	近位端	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
158	140		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	骨幹部	不明	不明	0.08	-	淡褐色	
159	141		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	骨幹部	不明	不明	0.01	-	淡褐色	

整理番号	抽出番号	地　点	大分類	小分類	部　位	LR	部　分	成長度	破　損	重量(g)	測定値(mm)	色　調	備　考
160	142		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	完形	不明	不明	0.04	全長16.10	淡褐色	
161	143		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	骨幹部	不明	不明	0.08	-	淡褐色	
162	144		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	骨幹部+近位端	不明	不明	0.07	-	淡褐色	
163	145		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	骨幹部	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
164	146		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	M	完形　近位端一部欠損	不明	不明	0.17	-	淡褐色	
165	87①		硬骨魚綱	目不明	椎骨	M	破片	不明	不明	0.63	-	淡褐色	
166	87②		硬骨魚綱	目不明	椎骨	M	破片	不明	不明	0.01	-	白色	
167	90		硬骨魚綱	目不明	椎骨	M	椎体破片	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
168	91		硬骨魚綱	目不明	椎骨	M	椎体破片	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
169	73		硬骨魚綱	目不明	担鰭骨	?	骨幹部	不明	不明	0.19	-	淡褐色	
170	74		硬骨魚綱	目不明	担鰭骨	?	骨幹部	不明	不明	0.06	-	淡褐色	
171	75		硬骨魚綱	目不明	担鰭骨	?	骨幹部	不明	不明	0.11	-	淡褐色	
172	116		硬骨魚綱	目不明	担鰭骨	?	骨幹部+近位端	不明	不明	0.06	-	淡褐色	
173	117		硬骨魚綱	目不明	担鰭骨	?	骨幹部+近位端	不明	不明	0.04	-	淡褐色	
174	118		硬骨魚綱	目不明	担鰭骨	?	骨幹部+近位端	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
175	119		硬骨魚綱	目不明	担鰭骨	?	骨幹部+近位端	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
176	120		硬骨魚綱	目不明	担鰭骨	?	骨幹部+近位端	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
177	121		硬骨魚綱	目不明	担鰭骨	?	骨幹部+近位端	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
178	122		硬骨魚綱	目不明	担鰭骨	?	骨幹部+近位端	不明	不明	0.07	-	淡褐色	
179	123		硬骨魚綱	目不明	担鰭骨	?	骨幹部+近位端	不明	不明	0.03	-	淡褐色	
180	204		硬骨魚綱	目不明	歯骨	R	破片	不明	不明	0.11	-	ノーマル	
181	63		硬骨魚綱	目不明	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
182	64		硬骨魚綱	目不明	尾椎	M	椎体　骨幹部	不明	不明	0.04	BFCr：2.85	淡褐色	
183	66		硬骨魚綱	目不明	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.03	BFCr：4.00	淡褐色	
184	69		硬骨魚綱	目不明	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.01	BFCr：2.45	淡褐色	
185	70		硬骨魚綱	目不明	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.01	BFCr：2.55	淡褐色	
186	92		硬骨魚綱	目不明	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
187	114		硬骨魚綱	目不明	尾椎	M	椎体	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
188	96		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	破片	不明	不明	0.02	-	淡褐色	
189	98		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.01	BFCr：3.15	淡褐色	
190	99		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.02	BFCr：3.10	淡褐色	
191	100		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.01	BFCr：3.05	淡褐色	
192	101		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.01	BFCr：2.70	淡褐色	
193	102		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.01	BFCr：2.95	淡褐色	
194	104		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.02	BFCr：2.55	淡褐色	
195	105		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.01	BFCr：2.65	淡褐色	
196	108		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	前位	不明	cm(Aa)	0.27	BFCr：9.75	淡褐色	
197	111		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	椎体	不明	cm(Aa)	0.07	BFCr：8.00	淡褐色	
198	112		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	骨幹部破片	不明	不明	0.10	-	淡褐色	
199	113		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	完形	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
200	115		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
201	86		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	椎体	不明	不明	0.25	-	淡褐色	

整理番号	抽出番号	地　点	大分類	小分類	部　位	LR	部　分	成長度	破　損	重量(g)	測定値(mm)	色　調	備　考
202	88		硬骨魚綱	目不明	腹椎	M	破片	不明	cm(Aa)	0.08	-	淡褐色	
203	76		硬骨魚綱	目不明	背臀鰭棘	?	骨幹部	不明	不明	0.05	-	淡褐色	
204	196		硬骨魚綱	目不明	不明	?	骨幹部破片	不明	不明	0.37	-	白色	
205	206		硬骨魚綱	目不明	不明	?	骨幹部	不明	不明	0.06	-	淡褐色	
206	81		硬骨魚綱	目不明	方骨	L	前位	不明	不明	0.03	-	淡褐色	
207	72		硬骨魚綱	目不明	鰭棘	?	骨幹部	不明	不明	0.15	-	淡褐色	
魚上綱合計			-	-	-	-	-	-	-	14.62	-	—	
208	151		鳥綱	キジ属	上腕骨	L	遠位端	d:f	なし　sp	0.77	Bd：15.00	淡褐色	
209	152		鳥綱	キジ属	上腕骨	R	骨幹部	不明	不明	0.42	-	淡褐色	
210	155		鳥綱	目不明	四肢骨	?	骨幹部	不明	不明	0.05	-	淡褐色	
211	153		鳥綱	目不明	上顎骨	LR	前位	不明	なし?	0.25	-	淡褐色	
212	157		鳥綱	目不明	中手骨	L	骨幹部	不明	不明	0.23	-	淡褐色	
213	154		鳥綱	目不明	腓骨	L	完形	なし	不明	0.06	-	淡褐色	
214	158		鳥綱	目不明	不明	?	骨幹部	不明	不明	0.06	-	茶褐色	
215	159		鳥綱	目不明	不明	?	骨幹部	不明	不明	0.06	-	淡褐色	
216	160		鳥綱	目不明	不明	?	骨幹部	不明	不明	0.06	-	淡褐色	
217	161		鳥綱	目不明	不明	?	骨幹部	不明	不明	0.31	-	淡褐色	
218	162		鳥綱	目不明	不明	?	骨幹部	不明	不明	0.09	-	淡褐色	
219	163		鳥綱	目不明	不明	?	骨幹部	不明	不明	0.07	-	淡褐色	
220	164		鳥綱	目不明	不明	?	骨幹部	不明	不明	0.05	-	淡褐色	
221	156		鳥綱	目不明	方骨	L	完形	不明	なし	0.41	-	淡褐色	
222	165		鳥綱	目不明	肋骨	L	骨幹部	不明	不明	0.05	-	淡褐色	
鳥綱合計			-	-	-	-	-	-	-	2.94	-	-	
223	87③		脊椎動物門	綱不明	不明	?	骨幹部	不明	不明	0.01	-	淡褐色	
224	197		綱不明	目不明	不明	?	骨幹部	不明	不明	0.16	-	白色	
綱不明合計			-	-	-	-	-	-	-	0.17	-	-	
総　計			-	-	-	-	-	-	-	627.63	-	-	

凡例

整理番号，　整理時に付したもの
抽出番号，　発掘時に付したもの
L　R，　L：左，R：右，M：中位置
破　損，　cm：切創(カットマーク)
　　Aa：切断されたタイプ
測定値，　BFCr：前位関接最大横幅
　　Bd：遠位端最大幅
色　調，　ノーマル：変化が見られない

倉敷埋蔵文化財センター年報8
－平成12(2000)年度－

平成14年3月20日　印刷発行

編集・発行
倉敷埋蔵文化財センター
〒712-8046　岡山県倉敷市福田町古新田940番地
TEL 086-454-0600

The Annual Report
Of
Kurashiki Archaeological Center

Volume 8 2000

Kurashiki
Archaeological Center

March 2002